

荒川水系

荒川中流右岸ブロック河川整備計画

(県管理区間)

(変更)

附 図

令和 3 年 7 月

(当初 平成 18 年 2 月)

埼 玉 県

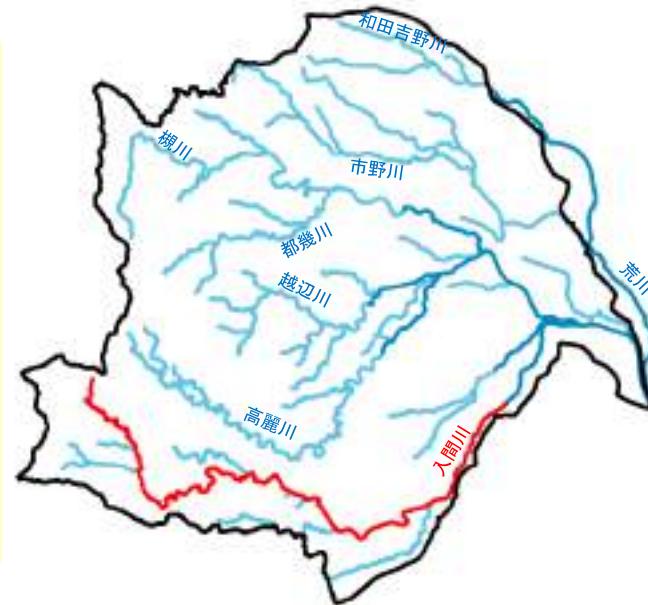
荒川中流右岸ブロック河川整備計画

～ 附図 目次 ～

1. ブロック全体図	1
2. 入間川	2
3. 横塚川・横塚川放水路	6
4. 安藤川	9
5. 越辺川	12
6. 小畔川	15
7. 南小畔川	18
8. 飯盛川	21
9. 都幾川	24
10. 槻川	28
11. 兜川	31
12. 九十九川	34
13. 高麗川	37
14. 葛川・葛川放水路	40
15. 鳩川	43
16. 大谷木川	46
17. 毛呂川	49
18. 霞川	52
19. 市野川	55
20. 新江川	60
21. 角川	63
22. 新川	66
23. 和田吉野川	69
24. 和田川	72

流域および河川の概要

- 入間川は、荒川の支川で、流域面積689.4km²、流路延長51.3km（県管理区間）の一級河川です。
- 入間川は、大持山を源とし、山間部を流れ下流の国管理区間で荒川に合流します。
- 入間川下流域の浸水被害軽減のための洪水調節や県営水道などへの水道水の供給、流水の正常な機能の維持のために県営初の多目的ダムとして入間川上流域の支川の有間川に有間ダムが建設されている。



流域図



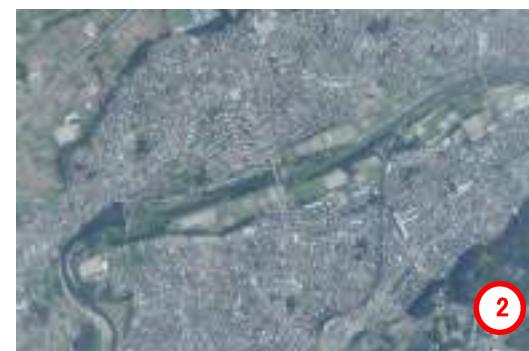
治水計画

- 入間川では令和元年東日本台風の際に、越水による浸水被害が生じました。このため、以下の整備を行います。

【整備内容】

- 河道改修：5.8～6.4km、7.6～8.0km、9.4～12.8km、17.4～18.4km、29.2～29.6km
上記区間のうち、流下能力の足りない区間で河道掘削、築堤を実施

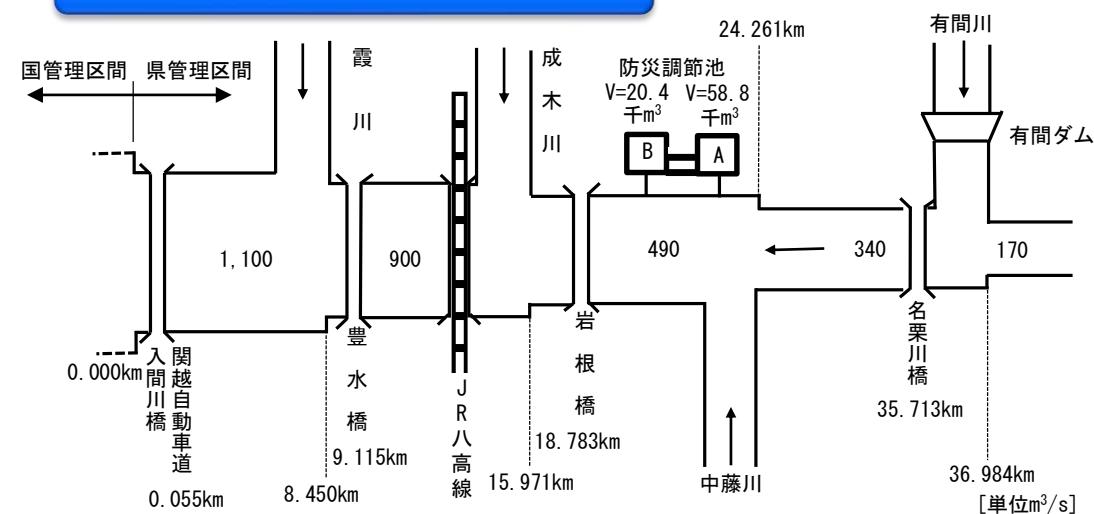
河川沿いの状況



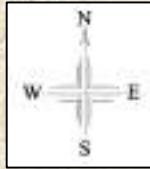
整備にあたっての配慮事項

- 河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- 生態系に配慮した多自然川づくりを行います。
 - 河道改修においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - 現地発生材を利用し、緩急の変化に富んだ自然な河岸を形成します。
- 既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。

流量配分図



整備平面図



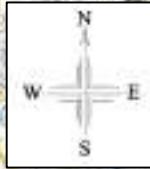
凡例

- 施工区間
- ① 写真の視点



入間川整備平面図1/2 S=1/50,000

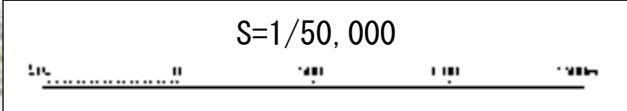
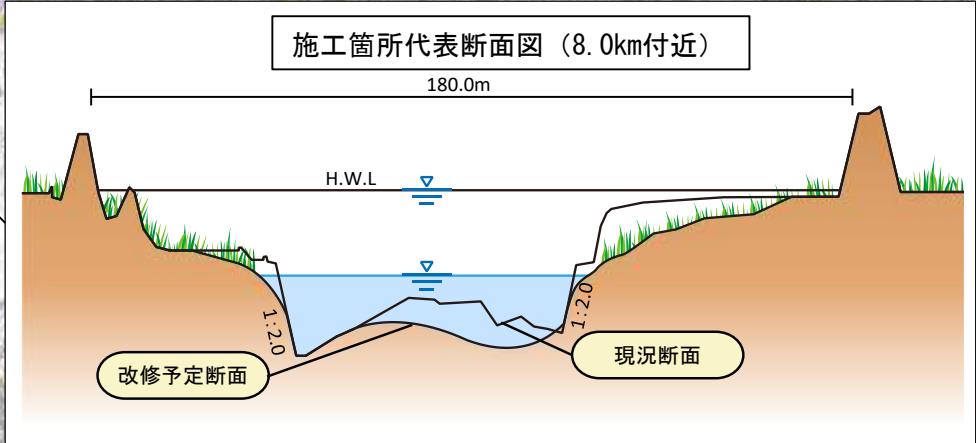
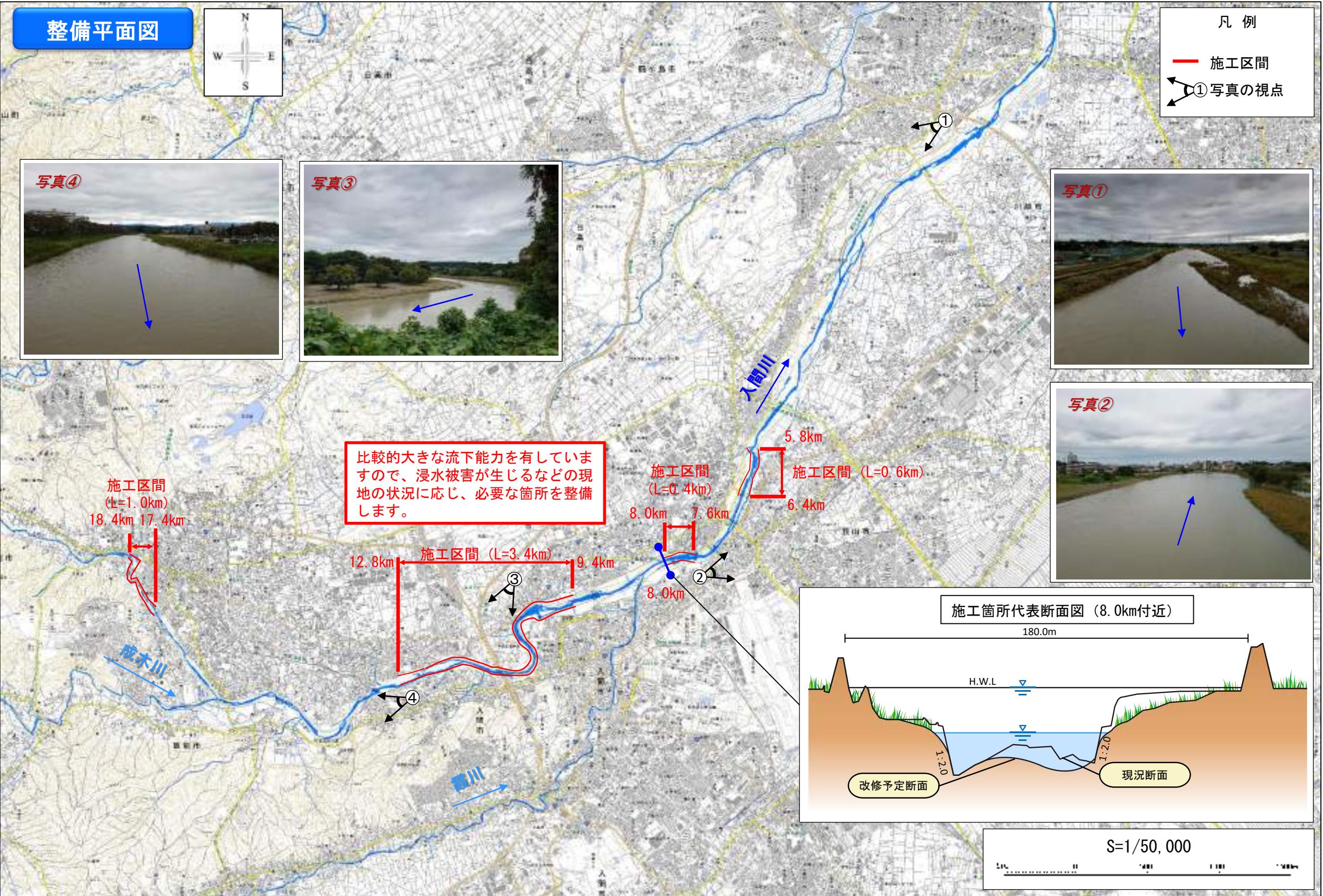
整備平面図



- 凡例
- 施工区間
 - ① 写真の視点



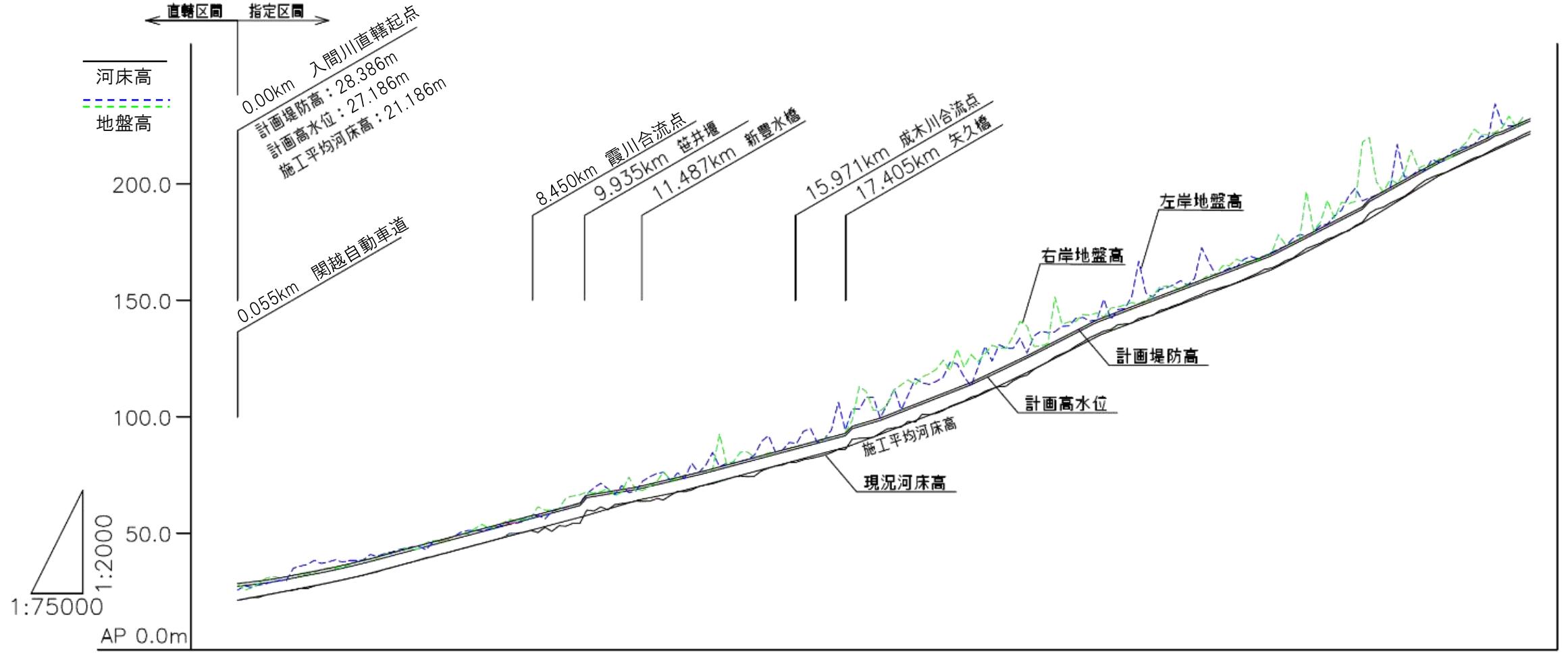
比較的大きな流下能力を有していますので、浸水被害が生じるなどの現地の状況に応じ、必要な箇所を整備します。



入間川整備平面図2/2 S=1/50,000

縦断面図

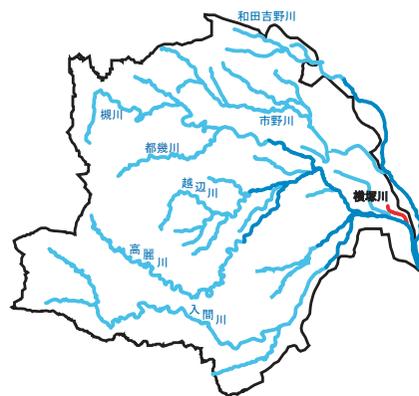
入間川縦断面図



測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0 K	21.186	27.186	28.386
0.93 K	23.852	28.852	30.052
2.50 K	28.329	33.329	34.529
3.50 K	31.662	36.662	37.862
6.0 K	41.662	46.662	47.862
8.45 K	51.462	56.462	57.862
9.92 K	57.322	62.322	63.322
9.94 K	59.960	65.100	66.100
11.49 K	64.349	68.980	69.980
12.53 K	67.380	72.712	73.712
13.31 K	70.480	75.480	76.480
17.47 K	87.172	92.112	93.112
17.48 K	88.440	94.400	95.440
18.40 K	92.440	98.440	99.440
21.15 K	108.616	114.616	115.616
22.68 K	119.545	125.545	126.545
24.72 K	135.253	141.253	142.353
27.0 K	148.270	154.270	155.270
29.60 K	163.127	169.127	170.127
32.21 K	183.219 185.290	190.790	191.790
34.40 K	203.523	209.023	210.023
37.0 K	221.454	226.954	227.954

流域および河川の概要

- ・横塚川は、入間川の支川で流域面積 5.1km²、流路延長2.5kmの一級河川です。
- ・横塚川の流域は荒川、入間川、市野川及び越辺川に囲まれた低平地であり、内水氾濫が生じやすい特性を持っています。
- ・横塚川はもともと農業用排水路として掘削された川であり、河道は比較的単調ですが、右岸側には河畔林が連続しており、動植物の生息場となっています。



流域図



治水計画

- ・横塚川では平成11年8月の洪水の際に、流下能力不足と内水による浸水被害が生じています。
- ・このため、以下の整備を行い、浸水被害が生じないようにします。
 - ・河道改修：0.0~2.5km(一級河川上流端)
 - ・流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤
 - ・放水路の開削：0.7km区間(既設の川島排水機場まで)

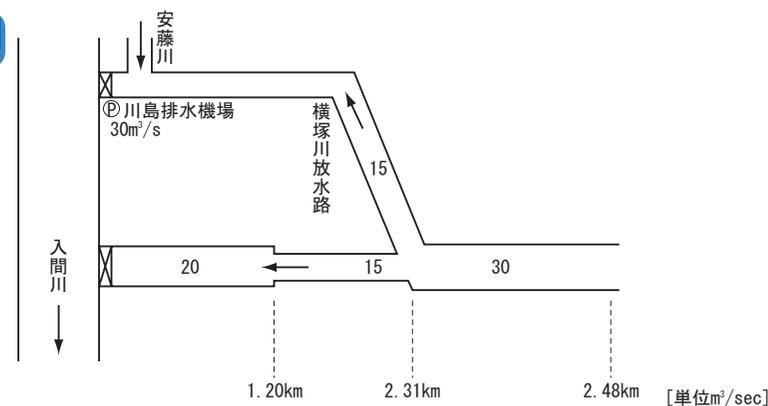
河川沿いの状況

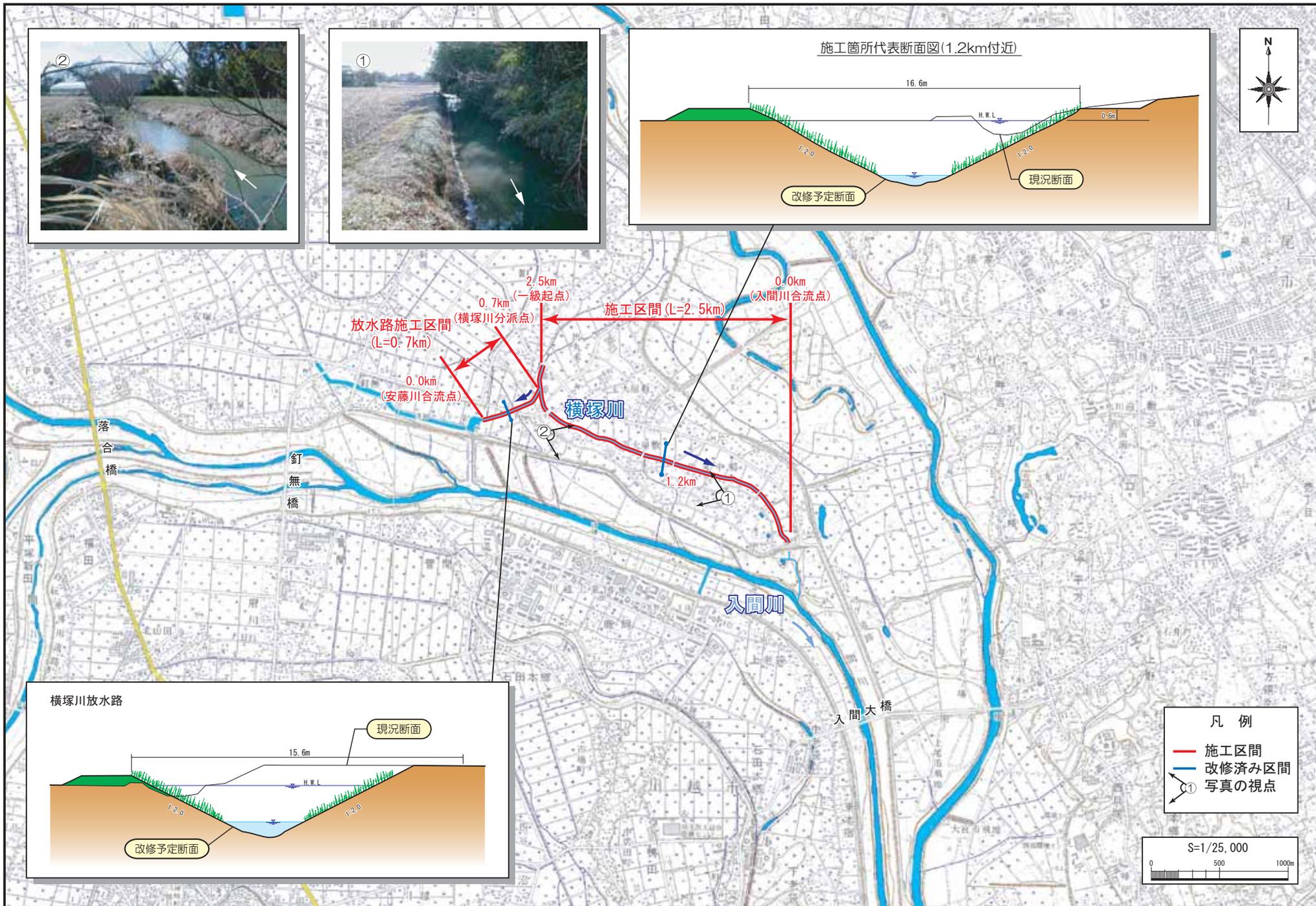


整備にあたっての配慮事項

- ・河道内の多様な流れの創出に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・本川及び放水路の掘削においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - ・現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
- ・既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。

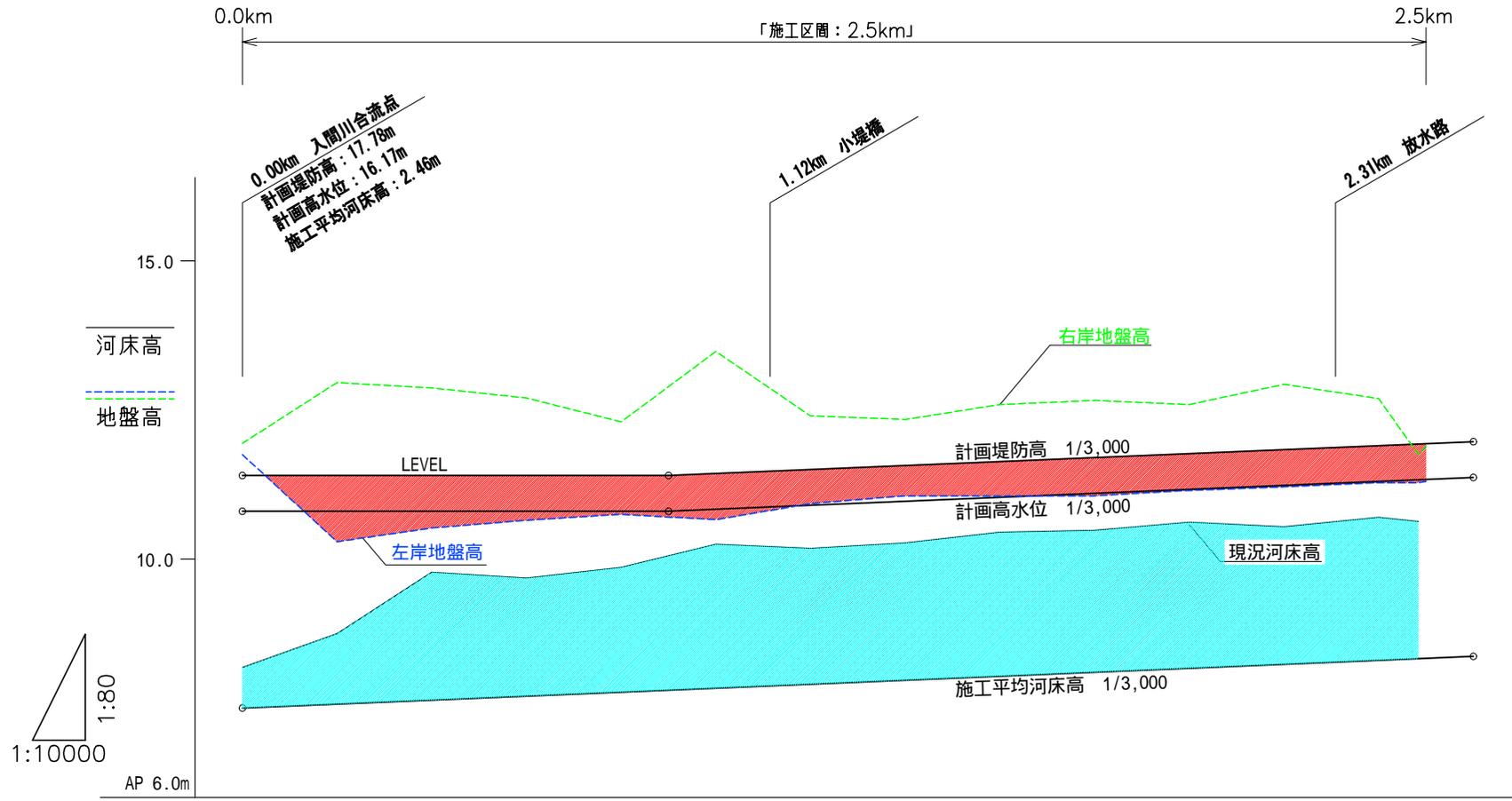
流量配分図





横塚川整備平面図 S=1/25,000

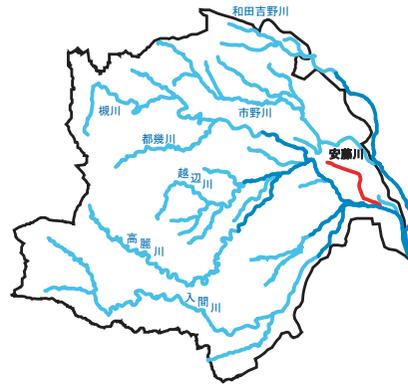
横塚川縦断図



測点	0.0 K	0.2 K	0.4 K	0.6 K	0.8 K	1.0 K	1.2 K	1.4 K	1.6 K	1.8 K	2.0 K	2.2 K	2.4 K	2.48K	2.6 K
施工平均河床高	7.500	7.567	7.633	7.700	7.767	7.833	7.900	7.967	8.033	8.100	8.167	8.233	8.300	8.328	8.367
計画高水位	10.800	10.800	10.800	10.800	10.800	10.833	10.900	10.967	11.033	11.100	11.167	11.233	11.300	11.328	11.367
計画堤防高	11.400	11.400	11.400	11.400	11.400	11.433	11.500	11.567	11.633	11.700	11.767	11.833	11.900	11.928	11.967

流域および河川の概要

- ・安藤川は、入間川の支川で、流域面積16.5km²、流路延長6.7kmの一級河川です。
- ・安藤川の流域は、荒川、入間川、越辺川、市野川に囲まれた低平地であり、内水氾濫が生じやすい地域特性を持っています。
- ・安藤川は、農業用排水路として掘削された川であり、上流部は水田の中をほぼ直線状に流れる単調な川ですが、下流部には所々河畔林が連続しており、動植物の生息場となっています。



流域図



治水計画

- ・安藤川では、平成10年8月、平成11年8月の水害など、流下能力不足と内水による浸水被害が度々生じています。
- ・このため、以下の区間で河道改修を行い、浸水被害が生じないようにします。
 - ・1.9~6.6km(一級河川上流端)
 - ・流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

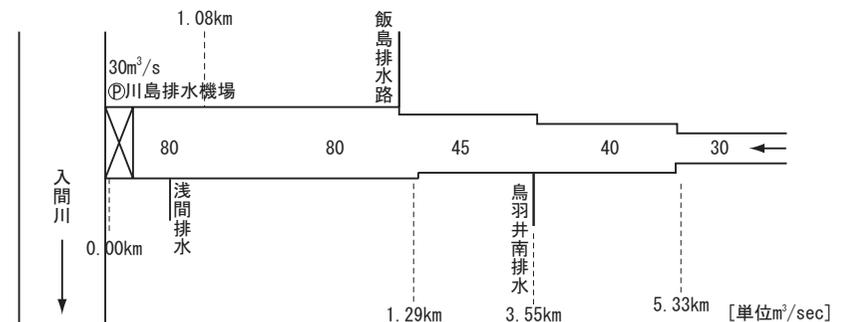
河川沿いの状況



整備にあたっての配慮事項

- ・河道内の多様な流れの創出に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・河道の掘削においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - ・現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
- ・用地にゆとりのある場所では、クヌギやエノキ等、在来種の植樹を検討するなど、河畔林を極力保全するように努め、景観に配慮します。
- ・人々が水辺にふれあい、安らぐことの出来る親水公園を整備します。
- ・落差工は魚類等の移動に配慮します。

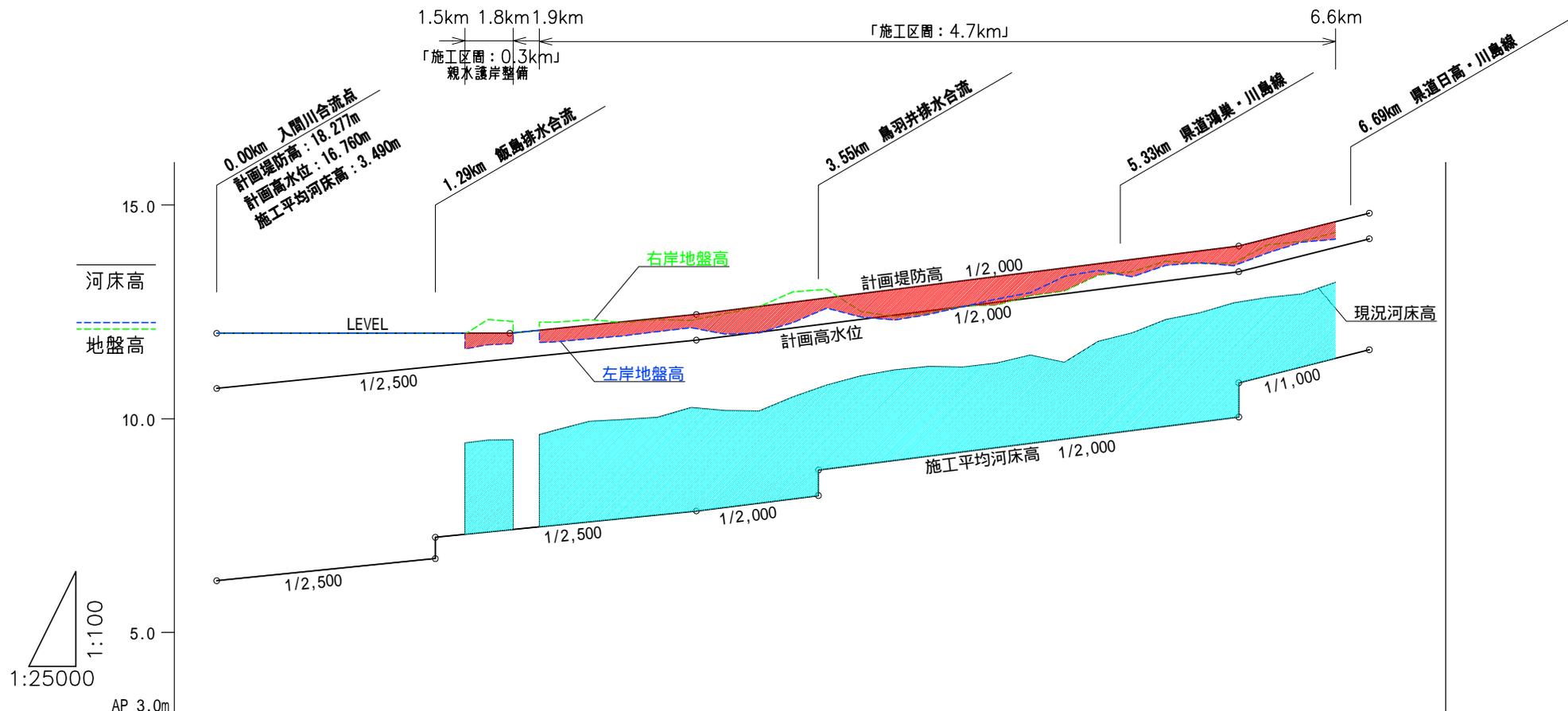
流量配分図





安藤川整備平面図 S=1/25,000

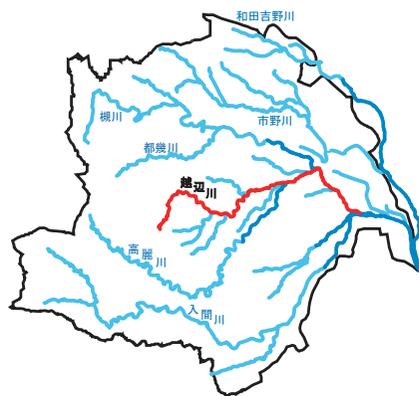
安藤川縦断面図



測点	0.00 K	0.60 K	1.29 K	1.80 K	2.40 K	2.83 K	3.55 K	4.40 K	5.40 K	6.03 K	6.80 K
計画堤防高	12.000	12.000	12.000	12.028	12.268	12.440	12.800	13.225	13.725	14.040	14.810
計画高水位	10.708	10.948	11.224	11.428	11.668	11.840	12.200	12.625	13.125	13.440	14.210
施工平均河床高	6.208	6.448	6.724 7.224	7.428	7.668	7.840	8.200 8.800	9.225	9.725	10.040 10.840	11.610

流域および河川の概要

- ・越辺川は、入間川の支川で、流域面積65.2km²、流路延長14.5km(県管理区間)の一級河川です。
- ・越辺川は、越生町の山林を源とし、山間部を流れ下流の国管理区間で高麗川が合流します。県管理区間の河道は、自然河川で蛇行が大きい傾向があります。中流には、東武線やJR八高線が乗り入れる越生町の市街地が位置しています。
- ・越辺川は、蛇行した自然河川の姿を今も残しており、瀬・淵や河畔林が連続する自然豊かな河川です。
- ・上流域の山林や里山と、中流域の台地・段丘崖に沿った斜面林が連続しており、緑のネットワークを形成しています。



流域図



治水計画

- ・越辺川では、昭和57年9月の洪水の際に、越生町周辺で流下能力不足による浸水被害が生じています。
- ・このため、以下の区間で河道改修を行い、浸水被害が生じないようにします。
 - ・0.0~6.1km、6.6~7.6km
 - ・流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

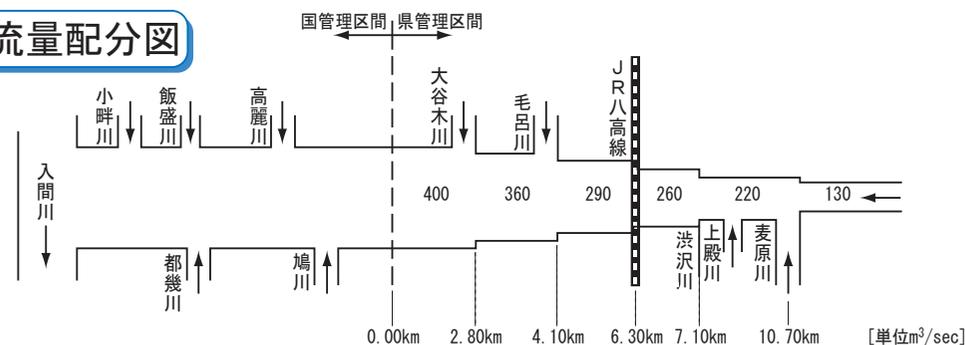
河川沿いの状況

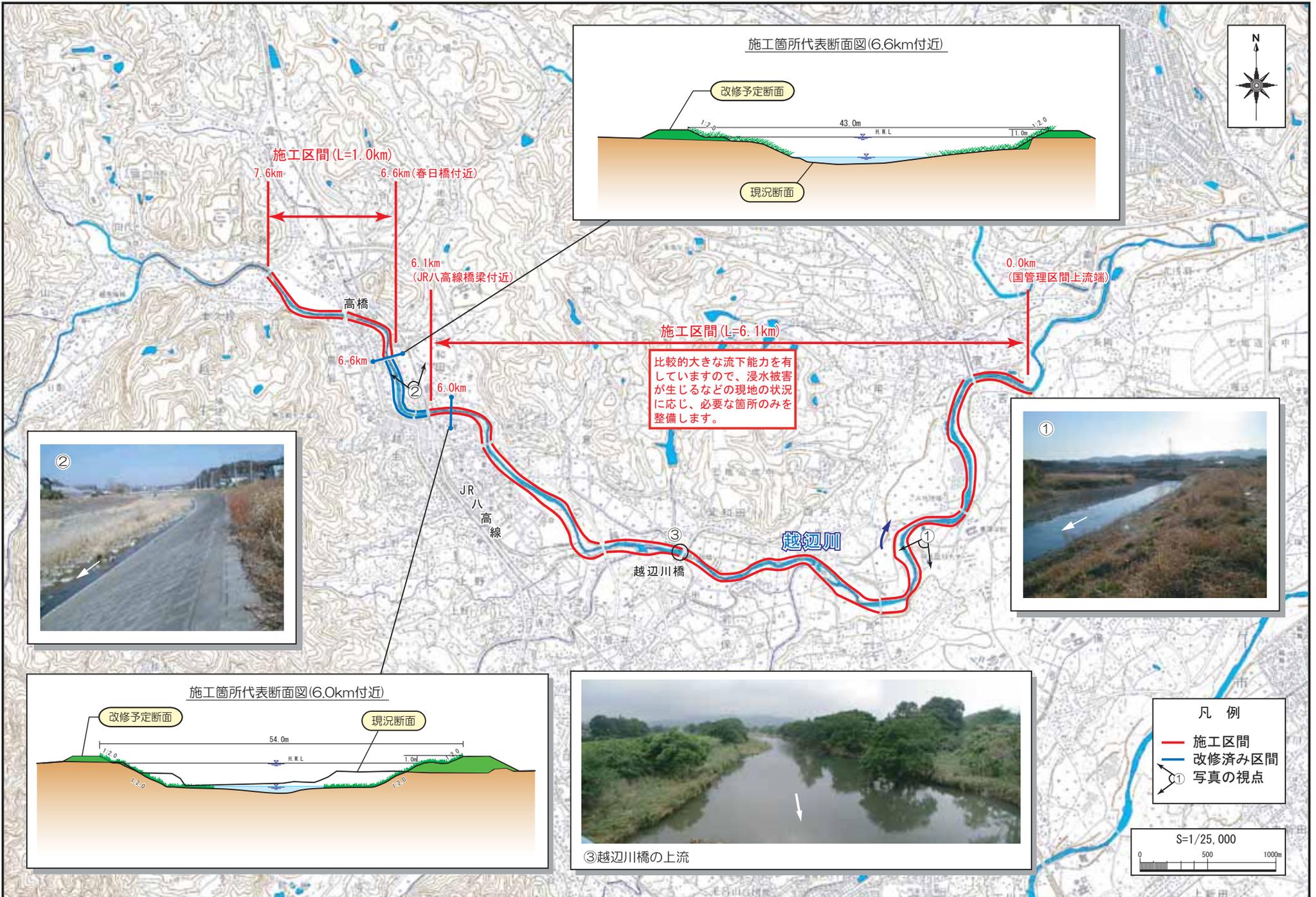


整備にあたっての配慮事項

- ・河道内の現況の瀬・淵をできるだけ保全し、改修を行う場合にも自然の力を活用し、再生に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・河道改修においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - ・現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
 - ・堰及び落差工は、魚類等の移動を妨げないように配慮します。
- ・既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。

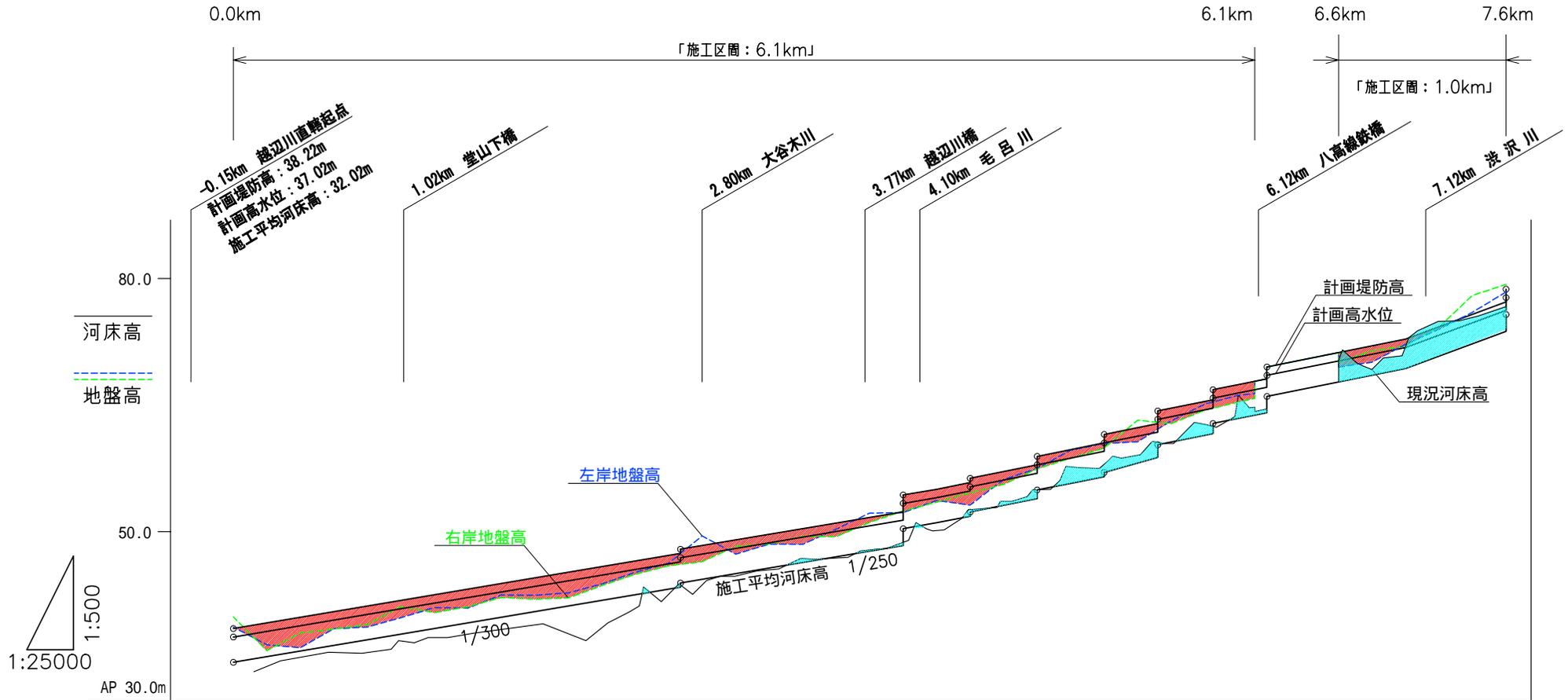
流量配分図





越辺川整備平面図 S=1/25,000

越辺川縦断面図



測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0 K	34.519	37.519	38.519
1.0 K	37.852	40.852	41.852
2.0 K	41.186	44.186	45.186
2.7 K	43.419 43.919	46.419 46.919	47.419 47.919
3.0 K	45.019	48.019	49.019
4.0 K	48.352 50.352	51.352 53.352	52.352 54.352
4.2 K	51.019	54.019	55.019
4.4 K	51.819 52.319	54.819 55.319	55.819 56.319
4.8 K	53.919 54.919	56.919 57.919	57.919 58.919
5.0 K	55.719	58.719	59.719
5.2 K	56.519 57.519	59.519 60.519	60.519 61.519
5.5 K	58.799 60.299	61.799 63.299	62.799 64.299
5.9 K	61.619	64.619	65.619
6.0 K	62.819 63.419	65.819 66.419	66.819 67.419
6.2 K	64.107 66.015	67.107 68.515	68.107 69.515
7.0 K	69.327	71.827	72.827
7.6 K	73.727 75.727	76.227 77.727	77.227 78.727

流域および河川の概要

- ・小畔川は、越辺川の支川であり、流域面積37.8km²、流路延長8.1km(県管理区間)の一級河川です。
- ・小畔川は、飯能市宮沢地内の農業用貯水池である宮沢湖上流の山地を源とし、JR川越線に沿って流下しています。流域内にはこのほか、東武東上線、首都圏中央連絡自動車道、関越自動車道が通っており、近年宅地化が進行しています。
- ・小畔川の上流部は、耕作地と平地林、住宅の間を流れ、両岸に河畔林が連続しています。下流部は、住宅地と水田の間を流れ、蛇行は比較的小さく整備された感じとなっていますが、河道内には植生が連続し、多自然型川づくりにより、水辺も多様な環境となっています。



流域図



河川沿いの状況



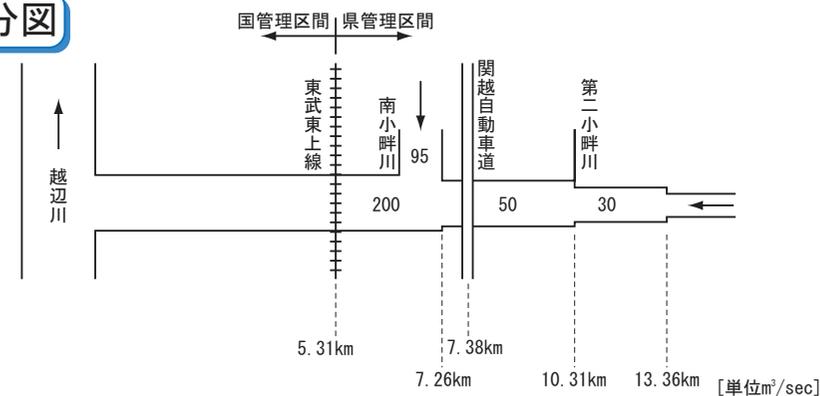
治水計画

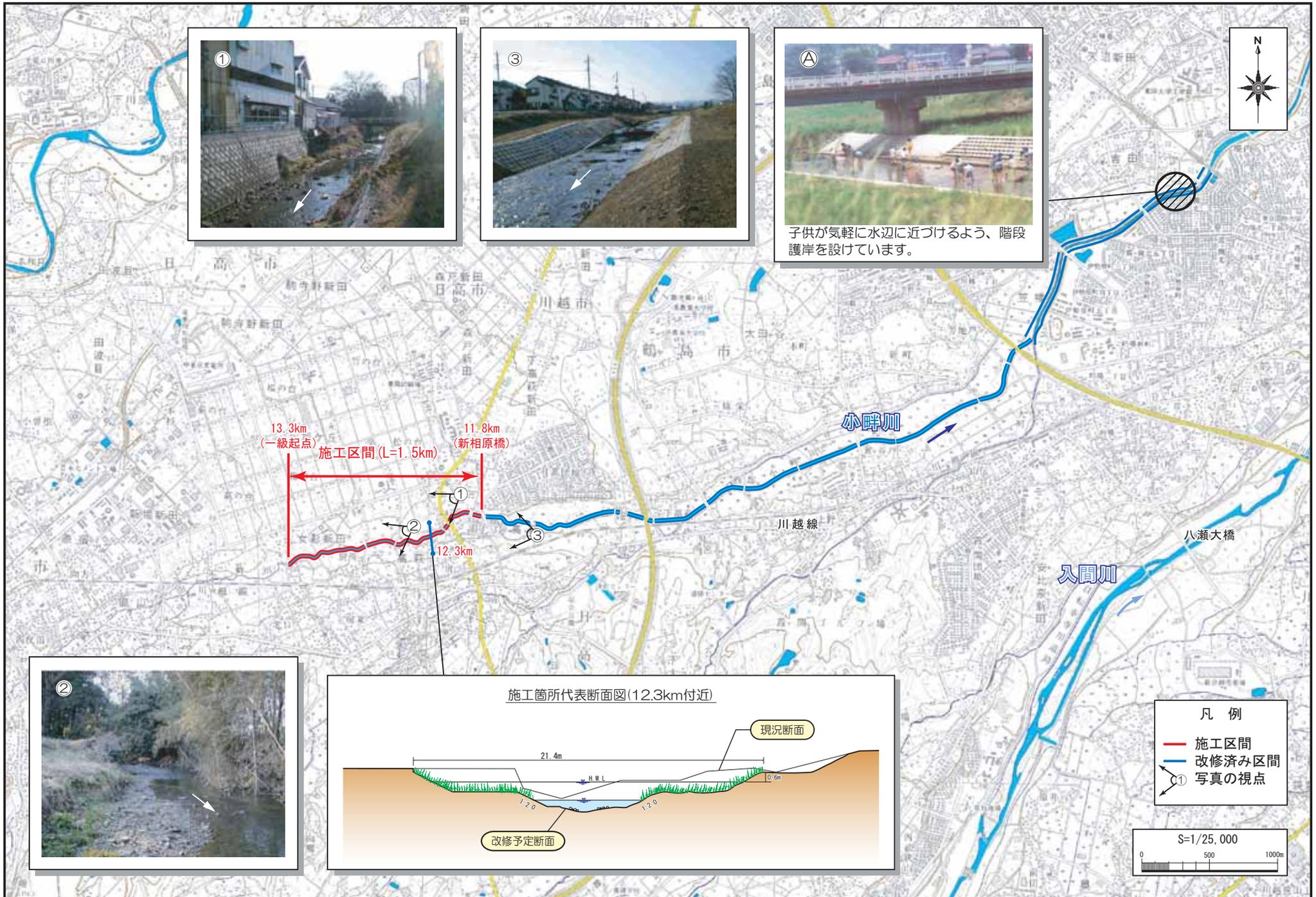
- ・小畔川では、時間雨量50mm程度の降雨に対応できる治水整備を順次進めており、整備計画においては、残る下記の区間についての河道改修を行い、浸水被害が生じないようにします。
 - ・ 11.8~13.3km(一級河川上流端)
 - ・ 流下能力の足りない区間：河道拡幅

整備にあたっての配慮事項

- ・河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・河道改修においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - ・現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
- ・既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。
- ・土地区画整理事業と連携した整備を行います。

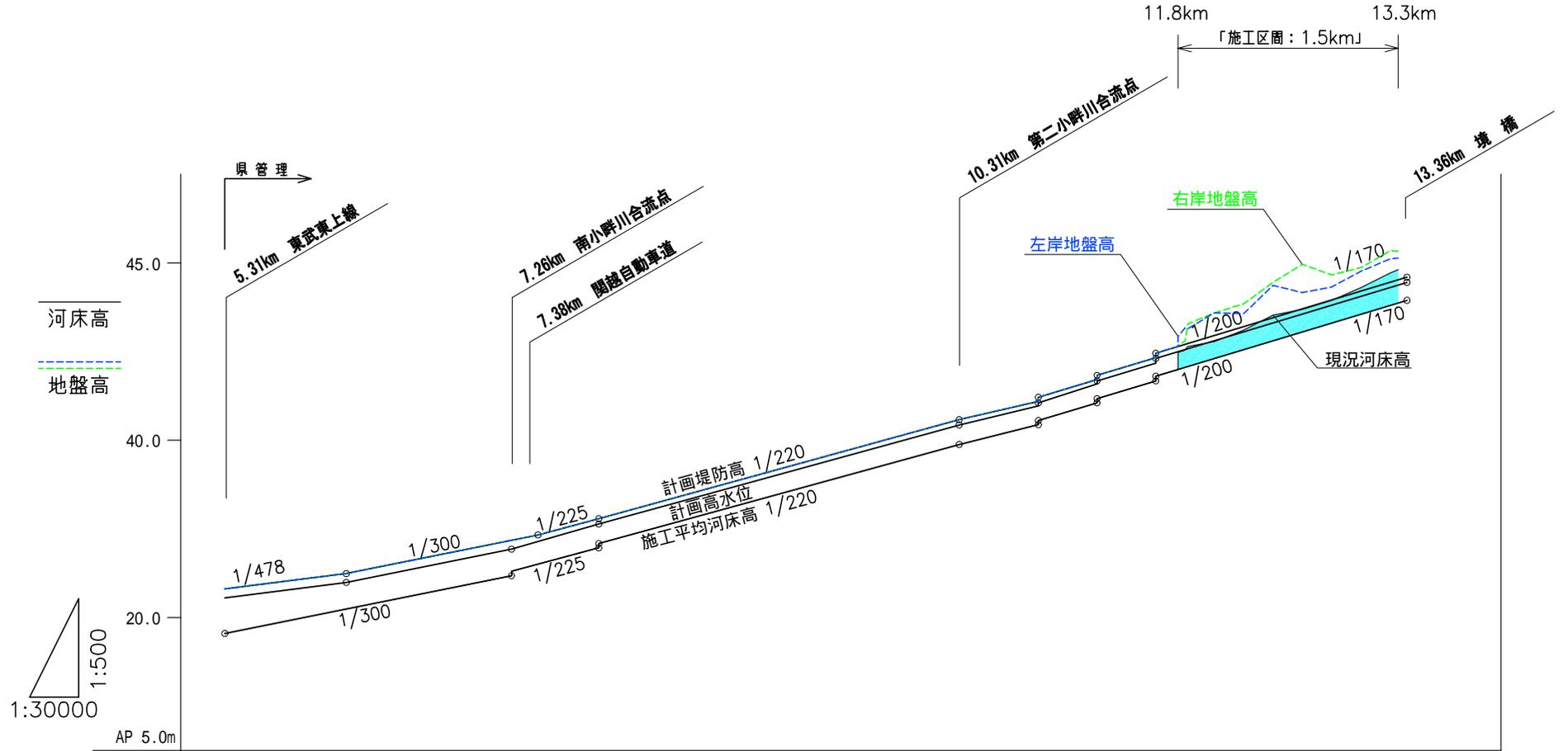
流量配分図





小畔川整備平面図 S=1/25,000

小畔川縦断面図



測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
5.300K	18.193	22.221	23.221
6.128K	20.954	23.954	24.954
7.255K	24.709	27.709	28.709
7.435K	26.009	28.709	29.309
7.850K	27.844	30.544	31.144
9.000K	33.572	35.772	36.372
10.307K	39.512	41.712	42.312
10.847K	42.212	44.212	44.842
11.247K	44.712	46.712	47.312
11.647K	47.212	49.212	49.812
13.360K	58.277	59.777	60.377

流域および河川の概要

- ・南小畔川は、小畔川の支川であり、流域面11.3km²、流路延長6.5kmの一級河川です。
- ・南小畔川は、飯能市芦荻場付近を源とし、圏央道に沿って流下し、川越市内でJR川越線と関越自動車道を横過し小畔川に合流します。
- ・南小畔川の上流部は、耕作地の間を蛇行しながら流れる農業水路的な景観となっています。一方、下流部は、住宅地の間を流れており、周辺の宅地開発が進む中で比較的良好な環境を有しています。



流域図



河川沿いの状況



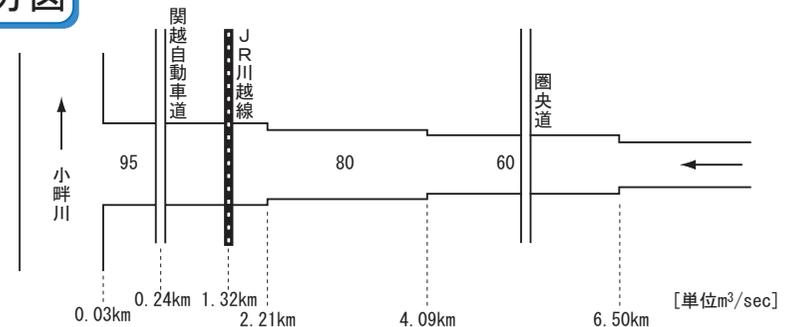
治水計画

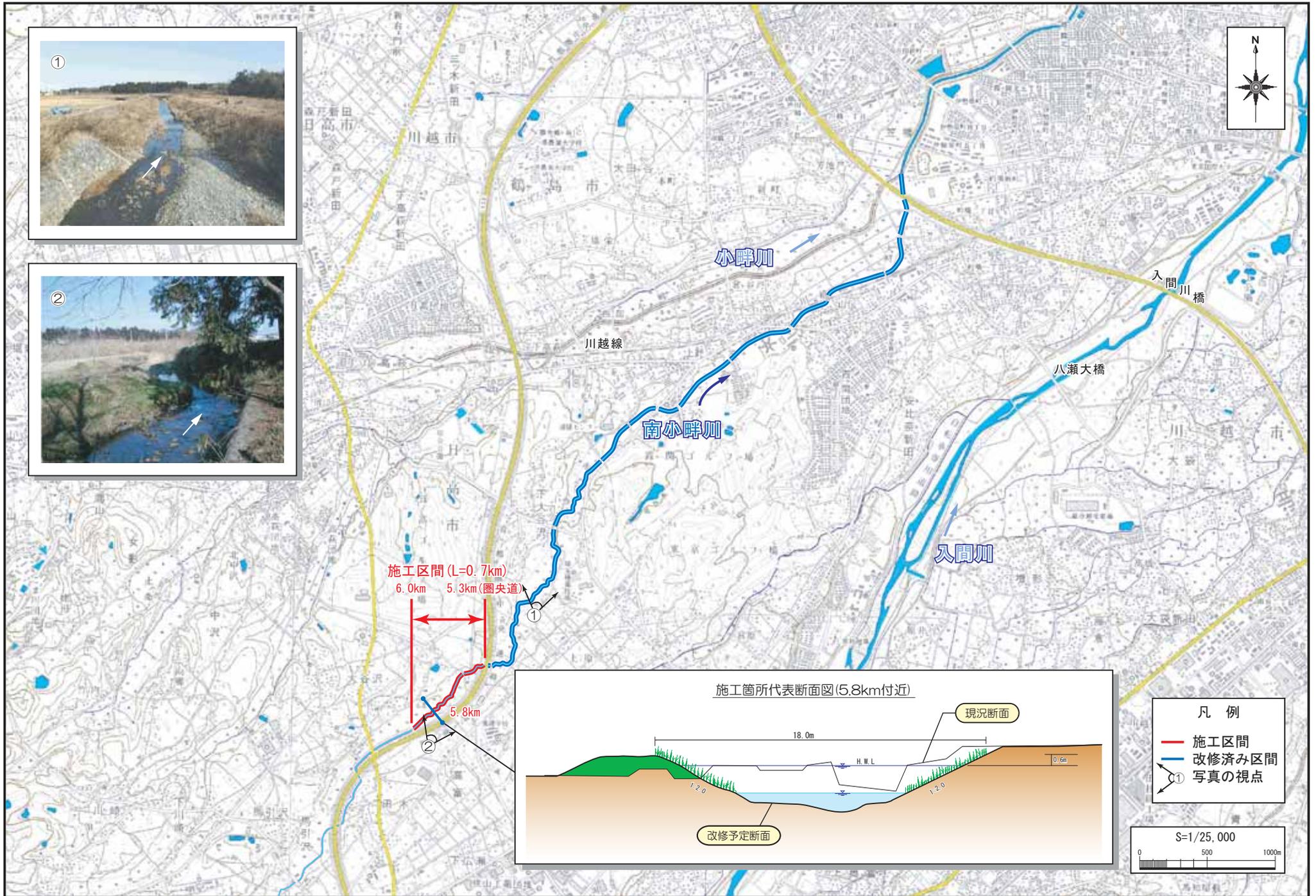
- ・南小畔川は、小畔川とともに時間雨量 50mm程度の降雨に対応できる治水整備を進めており、整備計画においては、下記の残りの区間についての河道改修を行い、浸水被害が生じないようにします。
- 5.3~6.0km
- ・流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

整備にあたっての配慮事項

- ・河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・河道改修においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - ・現地発生土砂や木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺を創出に努めます。

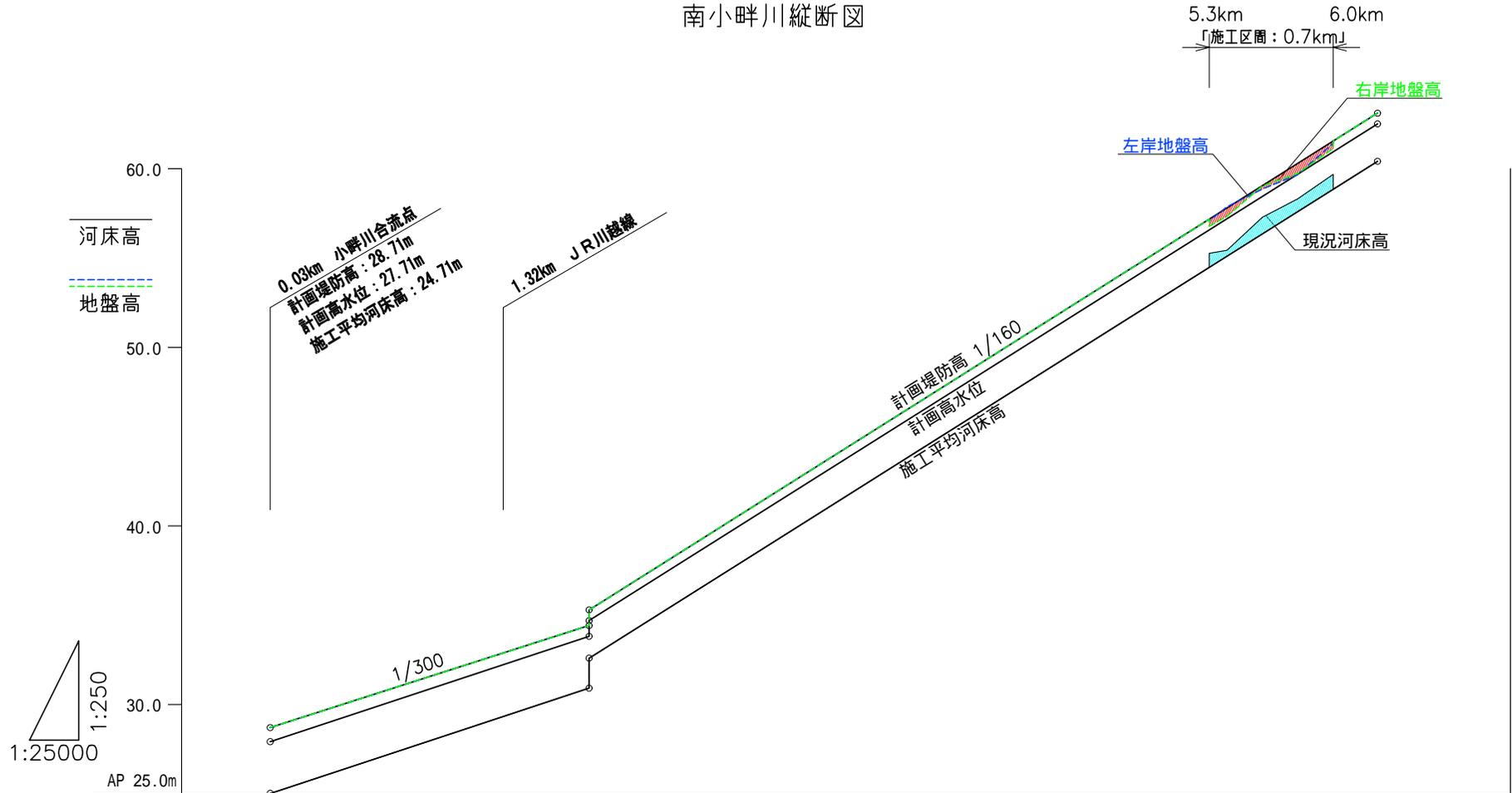
流量配分図





南小畔川整備平面図 S=1/25,000

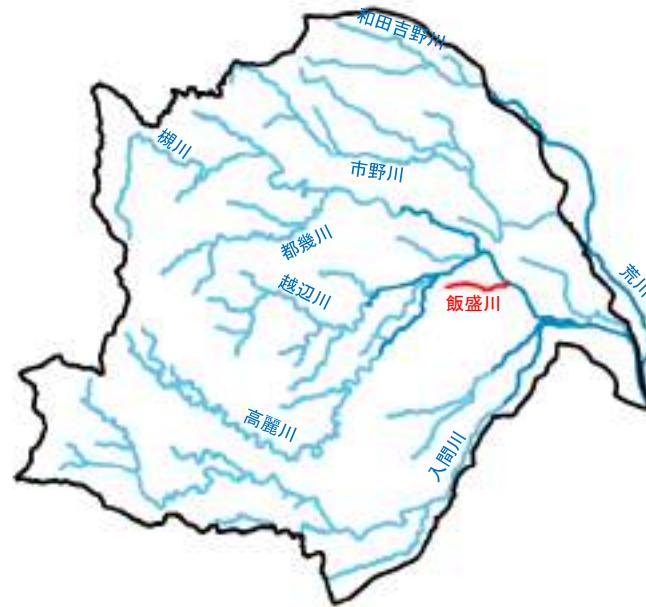
南小畔川縦断図



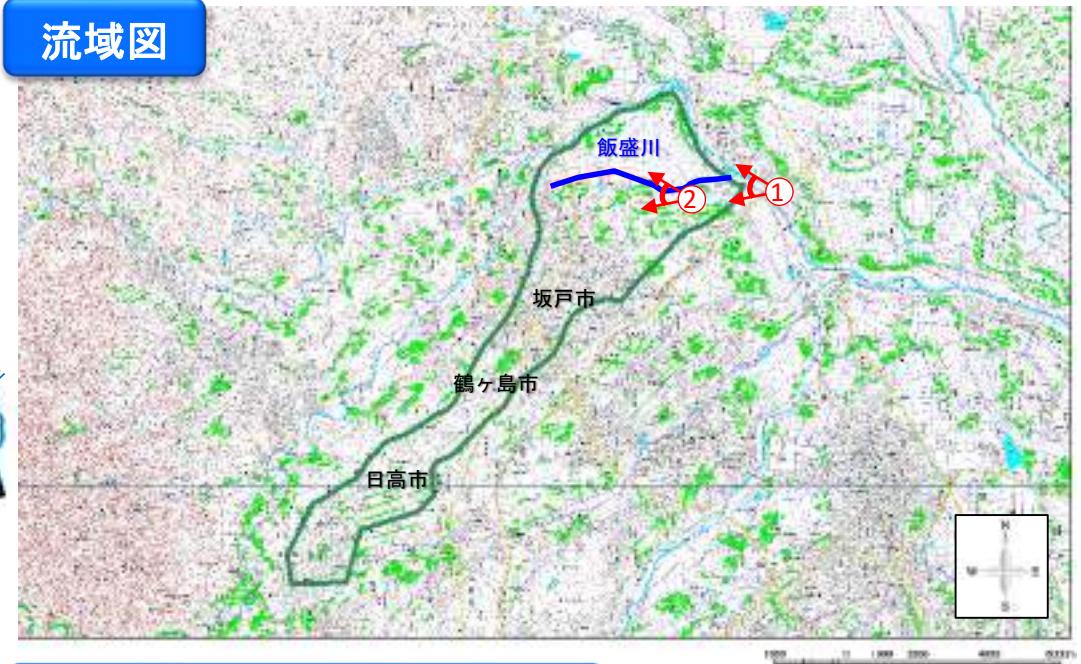
測点	0.03K	0.6 K	1.2 K	1.8 K	2.4 K	3.0 K	0.0 K	3.6 K	4.8 K	5.4 K	6.0 K
計画堤防高	28.709	30.421	32.421	34.421 35.296	39.046	42.796	46.546	46.546	54.046	57.796	61.546
計画高水位	27.921	29.821	31.821	33.821 34.696	38.446	42.196	45.946	45.946	53.446	57.196	60.946
施工平均河床高	25.021	26.921	28.921	30.921 32.596	36.346	40.096	43.846	43.846	51.346	55.096	58.846

流域および河川の概要

- 飯盛川は、埼玉県のほぼ中央に位置し、日高市の旭ヶ丘を源とし、鶴ヶ島市と坂戸市の市街地を流れ、下流で田園地帯の中を流下して越辺川に合流する流域面積23.5km²、流路延長4.3kmの一級河川です。
- 飯盛川の流域はもともと農業地帯でしたが、東武沿線の宅地開発が進み、現在は大部分が市街地となっています。
- 上流部は市街地の中を流れており、両岸が護岸された都市河川の様相を呈しています。一方、下流部は、水田地帯の中を流れ、直線的な景観となっていますが、階段護岸や、魚巢ブロック・植栽ブロック等により、親水性や水辺の環境の向上を図っています。



流域図



治水計画

- 飯盛川では、昭和57年9月や平成11年8月、令和元年東日本台風の際に、流下能力不足と越辺川の背水の影響により、浸水被害が生じています。
- 飯盛川の越辺川合流点では、堤防の締め切り工事が平成13年に完了しています。
- この他、以下の整備を行います。
 - 【整備内容】
 - 調節池等整備
 - 排水機場整備（内水排除のため）
 - 河道改修：1.9~4.4km一級河川上流端まで
 上記区間のうち、流下能力の足りない区間で河道拡幅、築堤を実施

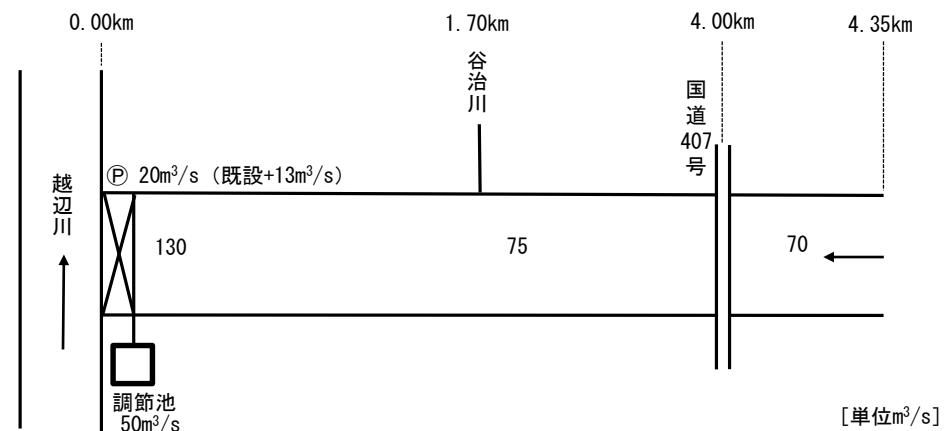
河川沿いの状況



整備にあたっての配慮事項

- 河道内の多様な流れの創出に努めます。
- 生態系に配慮した多自然川づくりを行います。
 - 河道改修にあたっては、周辺の景観との調和や、親水性に配慮します。
 - 現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺を創出します。
- 用地にゆとりのある場所では、クヌギやエノキ等、在来種の植樹を検討するなど、河畔林を極力保全するように努め、景観に配慮します。
- 越辺川との連続性を確保するなど、周辺の生態系に配慮して合流点処理を行います。

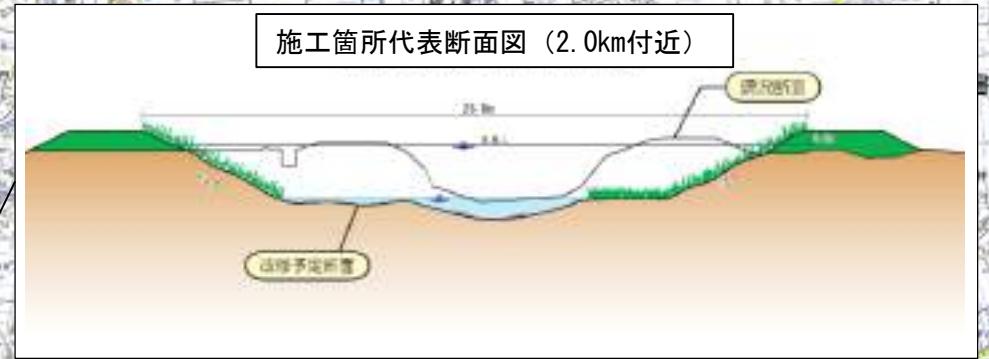
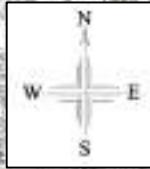
流量配分図



整備平面図

凡例

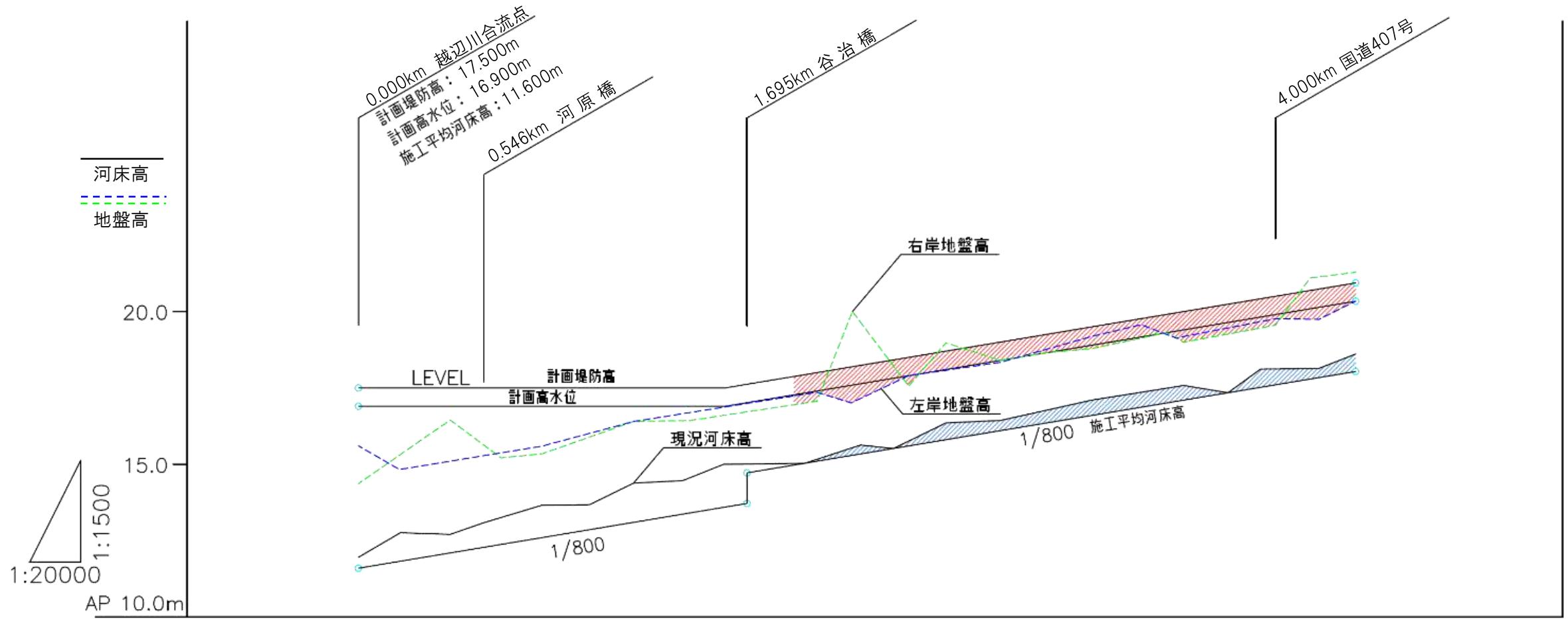
- 施工区間
- 改修済み区間
- ① 写真の視点



飯盛川整備平面図 S=1/25,000

縦断図

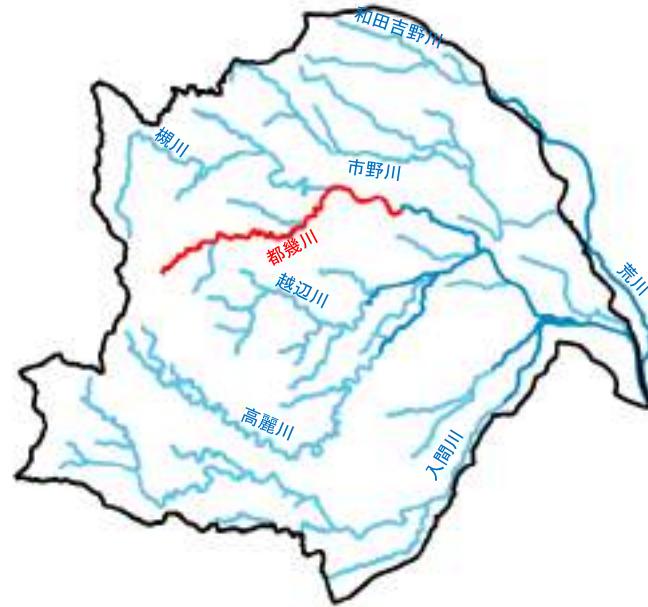
飯盛川縦断図



測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0K	11.600	16.900	17.500
0.4K	12.100	16.900	17.500
0.8K	12.600	16.900	17.500
1.2K	13.100	16.900	17.500
1.695K	14.719	17.019	17.619
2.0K	15.100	17.400	18.000
2.4K	15.600	17.900	18.500
2.8K	16.100	18.400	19.000
3.2K	16.600	18.900	19.500
3.6K	17.100	19.400	20.000
4.0K	17.600	19.900	20.500
4.35K	18.038	20.338	20.938

流域および河川の概要

- 都幾川は、越辺川の支川で、流域面積153.5km²、流路延長27.6km（埼玉県管理区間）の一級河川です。
- 都幾川は、ときがわ町の山地を源とし、山間部を流れ、都幾川とほぼ同規模の流域をもつ支川の槻川と合流します。下流には、東松山市や嵐山町などの市街地をもつ河川です。そのあと、東松山市の低平地を流れ、坂戸市との境界で越辺川と合流しています。
- 都幾川は、蛇行した河川の姿を今も残し、瀬と淵や河畔林が連続した自然豊かな河川です。
- 河道内の砂州にはイカルチドリが、水辺の河畔林にはオオムラサキが生息しています。



流域図



治水計画

- 都幾川では、昭和57年9月や、平成11年8月、令和元年東日本台風の際に、東松山市の区間で流下能力不足による浸水被害が生じています。このため、以下の区間で整備を行います。

【整備内容】

- 河道改修：0.0~6.0km、7.4~9.6km、10.6~13.8km、14.6~16.6km
上記区間のうち、流下能力の足りない区間で河道掘削、築堤を実施

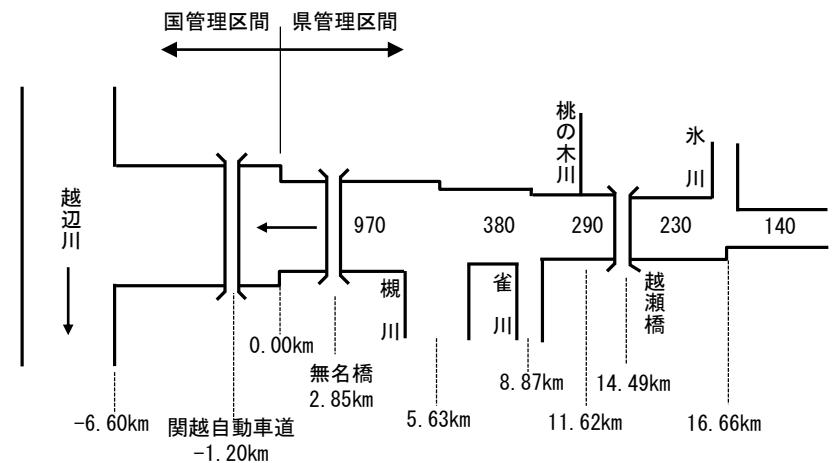
河川沿いの状況



整備にあたっての配慮事項

- 豊かな自然を有する河川なので、事業を行う際には、十分な調査と検討を実施するなど、環境に配慮します。
- 河道内の現況の瀬・淵をできるだけ保全し、改修を行う場合にも自然の力を活用し、再生に努めます。
- 生態系に配慮した多自然川づくりを行います。
 - 河道改修においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - 現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
- 既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。
- 落差工は魚類等の移動に配慮します。

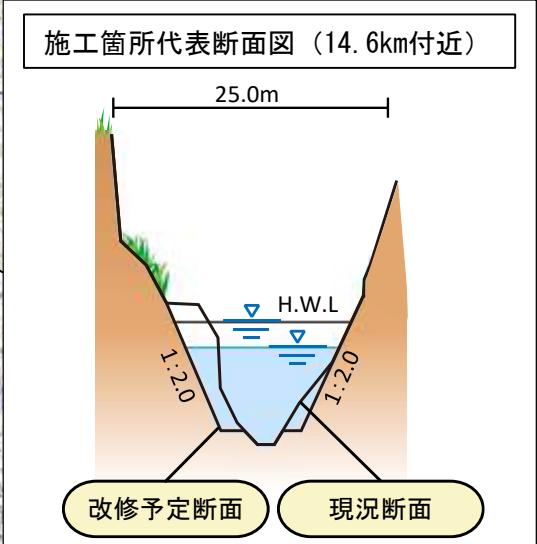
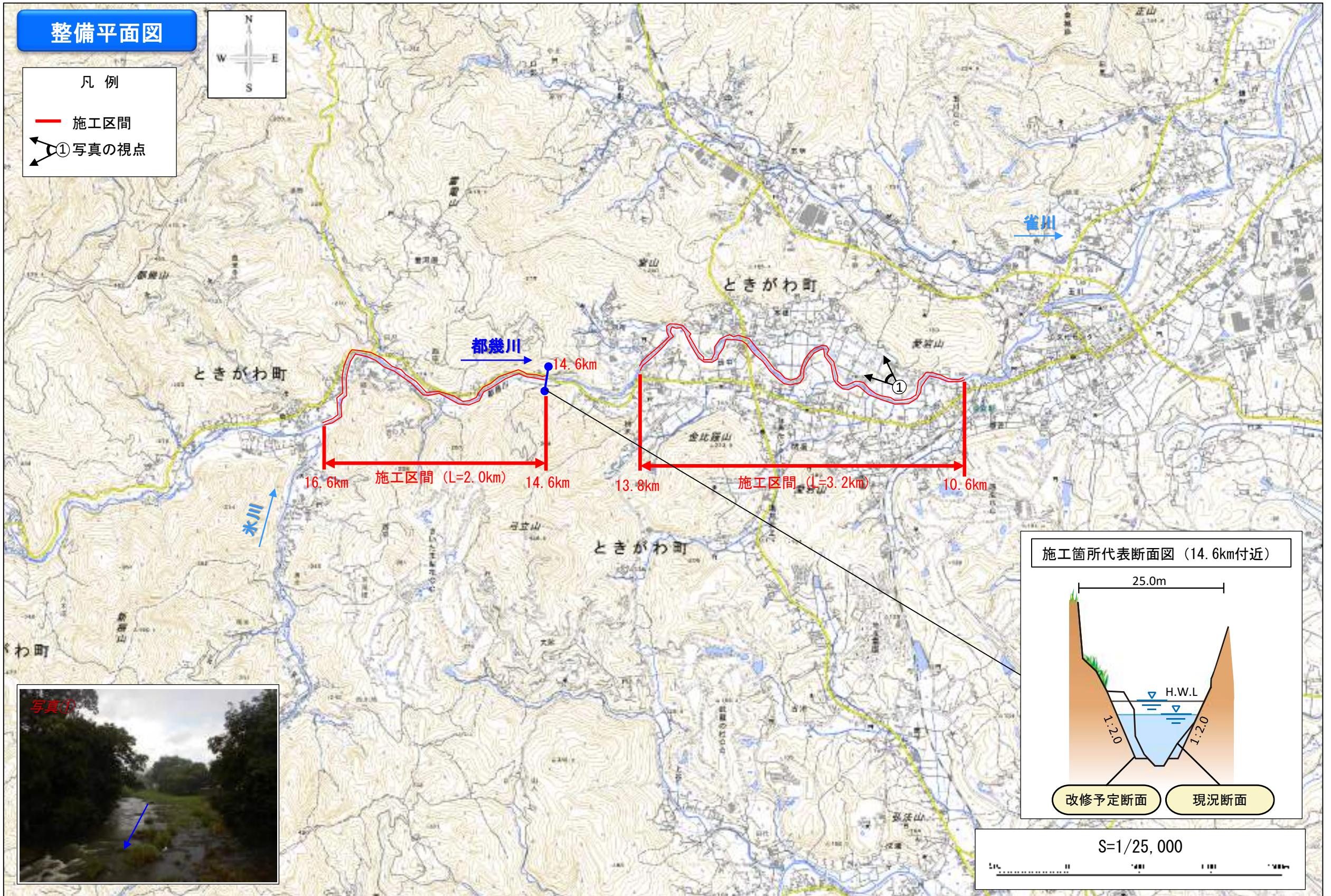
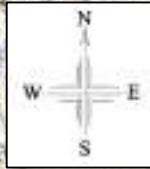
流量配分図



整備平面図

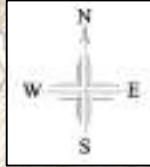
凡例

- 施工区間
- ① 写真の視点

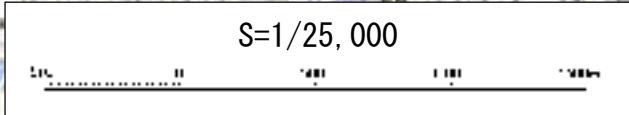
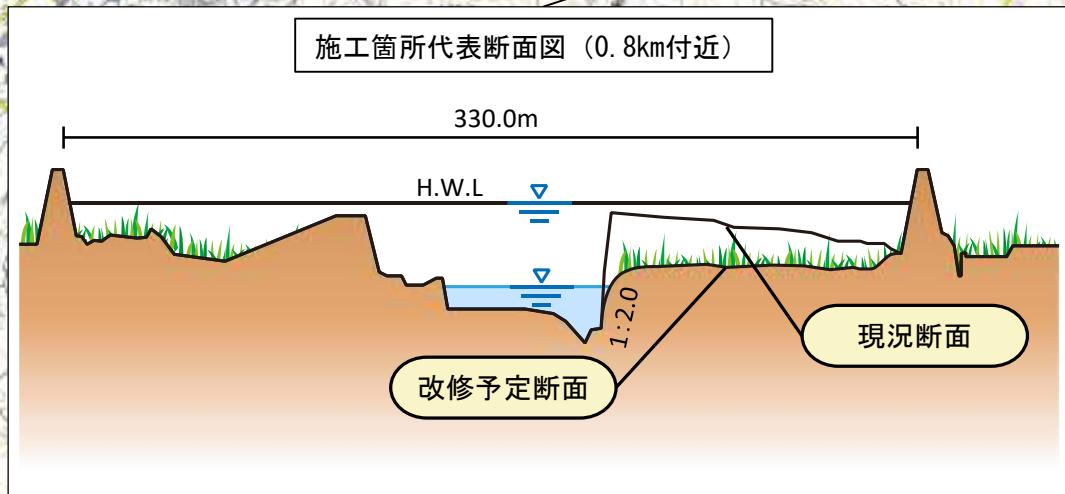
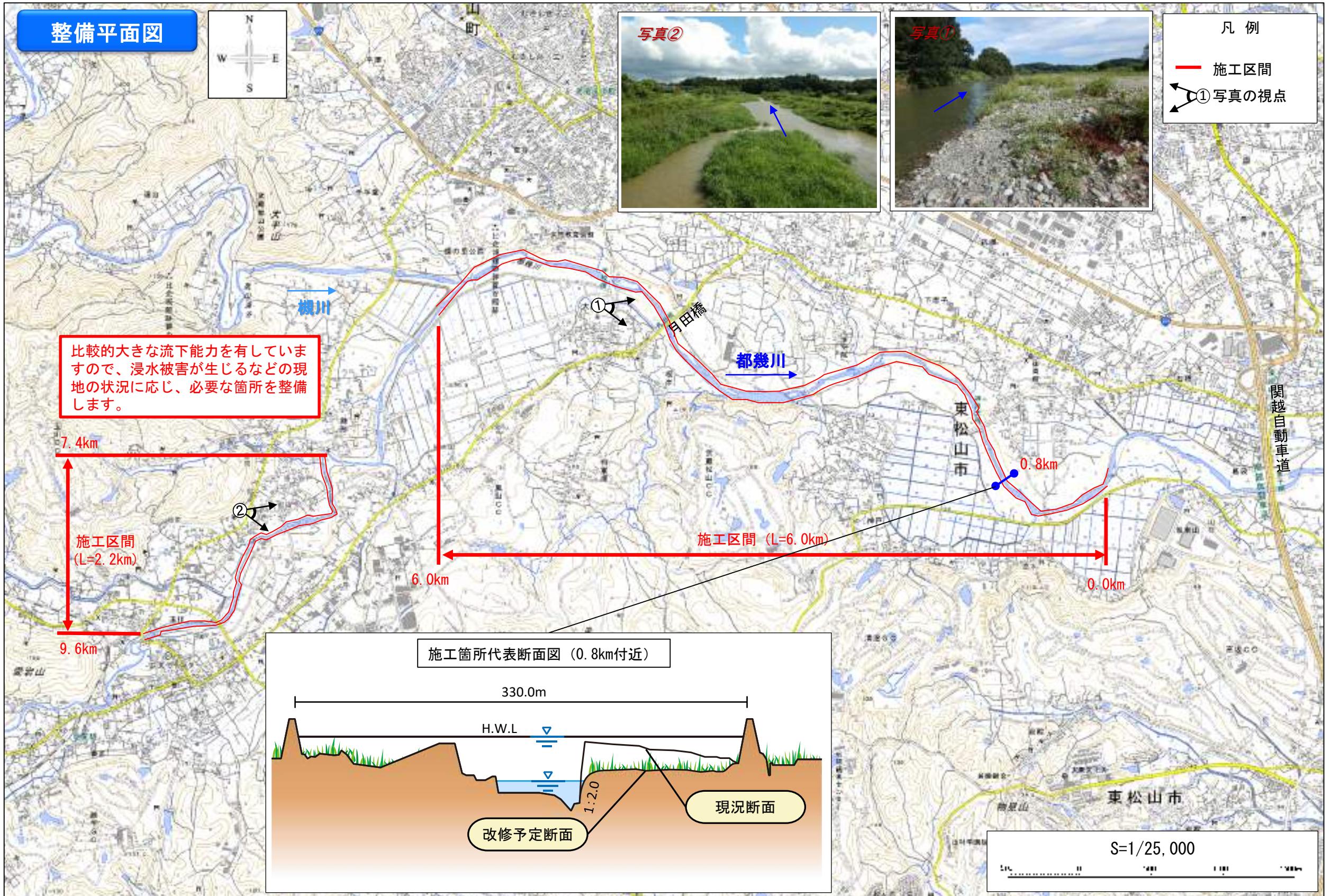


都幾川整備平面図 S=1/25,000

整備平面図



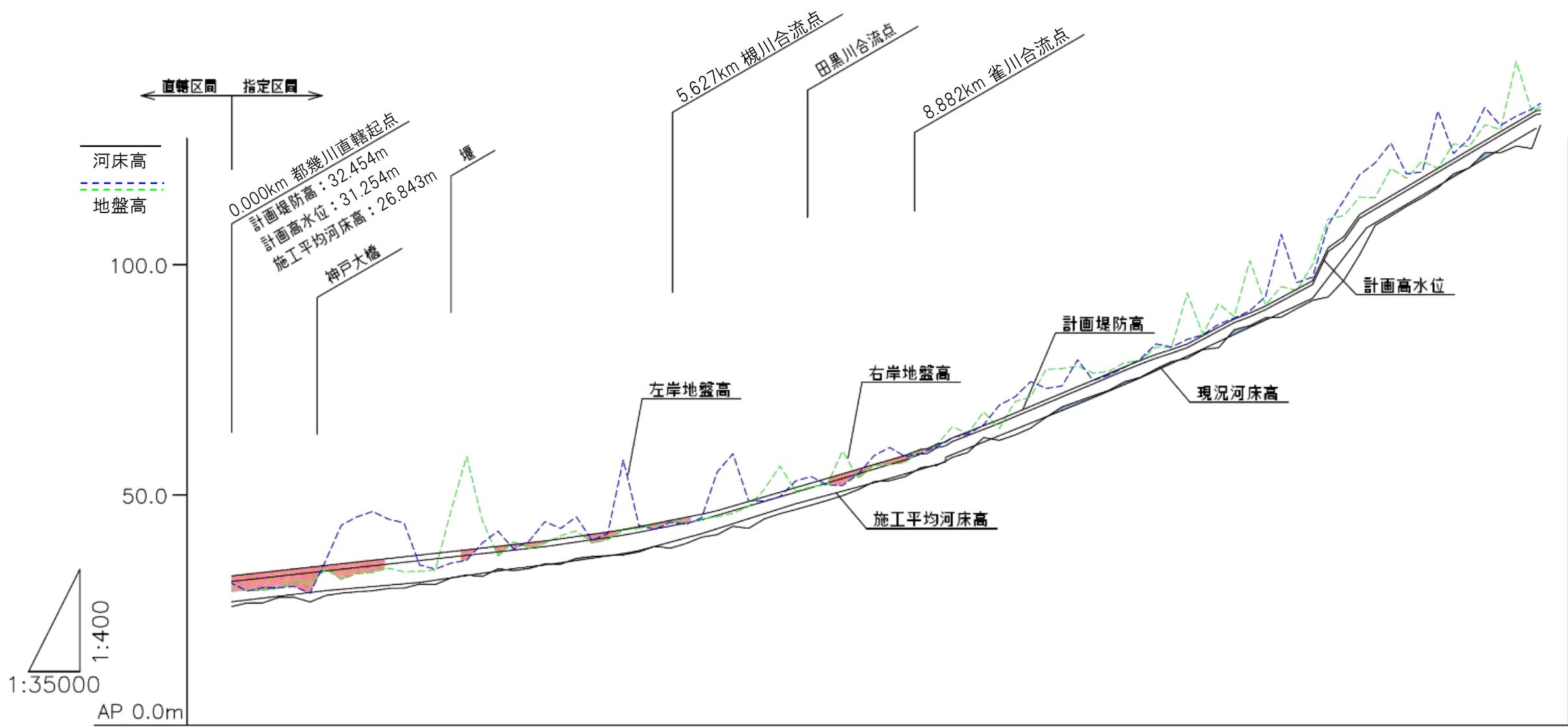
- 凡例
- 施工区間
 - ① 写真の視点



都幾川整備平面図 S=1/25,000

都幾川縦断面図

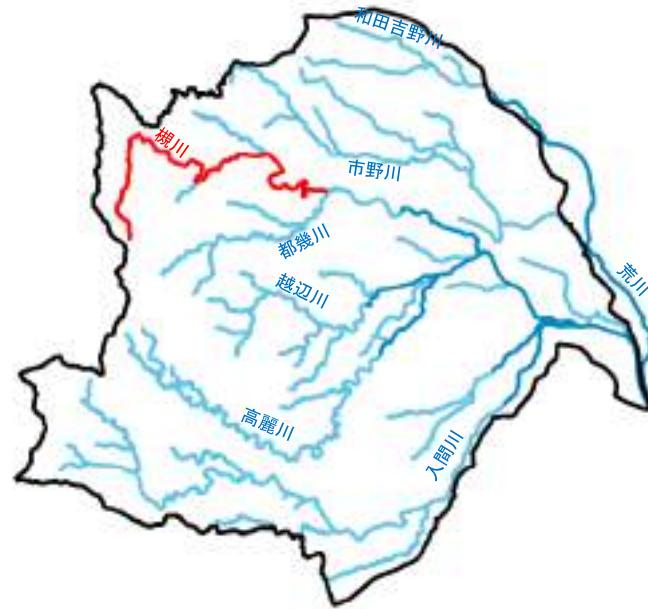
縦断面図



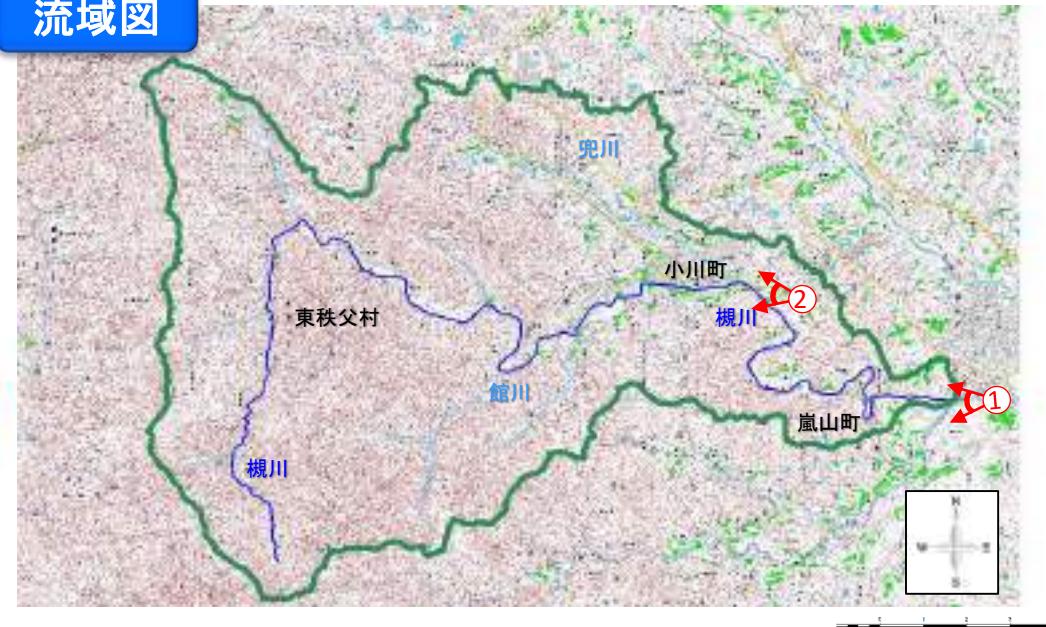
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0K	26.843	31.254	32.454
1.2K	29.243	33.518	34.718
2.4K	31.643	35.782	36.982
3.637K	34.117	38.119	38.119
4.086K	35.015	39.015	40.215
5.016K	37.340	41.352	42.552
5.2K	37.826	41.853	43.153
6.0K	41.620	44.620	45.620
7.2K	48.120	50.620	51.620
8.4K	53.620	56.620	57.620
8.882K	56.030	58.938	59.938
9.115K	57.198 58.198	60.626	61.426
10.8K	69.730	72.730	73.530
11.6K	75.444	78.444	79.244
13.8K	92.717	95.717	96.517
14.490K	108.000	111.000	111.800
15.6K	119.100	122.100	122.900
16.6565K	129.665	132.665	133.465

流域および河川の概要

- 槻川は、都幾川の支川で、流域面積86.4km²、流路延長24.9kmの一級河川です。
- 槻川は、東秩父村の山地に源を発し、流域の約93%が山地である山地河川ですが、中流域では小川町の市街地を流下しています。
- 上流域は、山地の谷沿いを流れる急流河川で、河床には玉石や大玉石が多く見られます。
- 中流域では河道は蛇行し、瀬・淵や河畔林が連続する自然豊かな河川です。
- 下流域は、岩が露出した嵐山溪谷として、埼玉県の景勝地の一つとなっています。



流域図



治水計画

- 槻川では、昭和57年9月や、平成11年8月、令和元年東日本台風の際に、流下能力不足による浸水被害が生じています。このため、以下の区間で整備を行います。

【整備内容】

- 河道改修：0.0~1.0km、2.0~15.4km
上記区間のうち、流下能力の足りない区間で河道掘削、築堤を実施

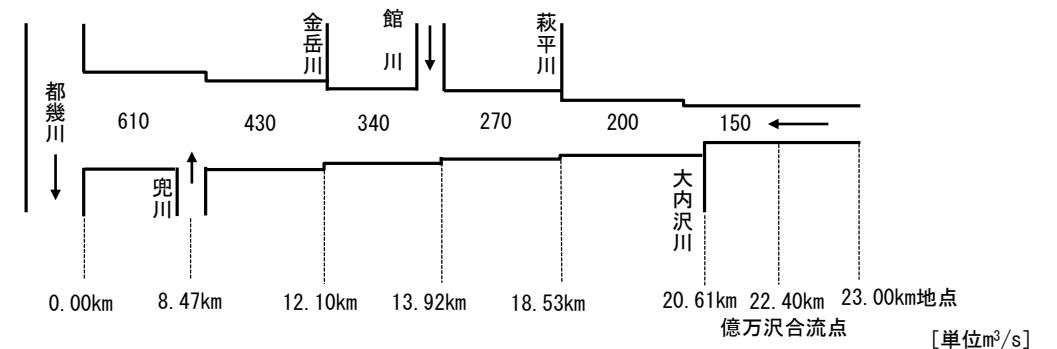
河川沿いの状況



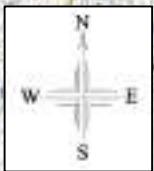
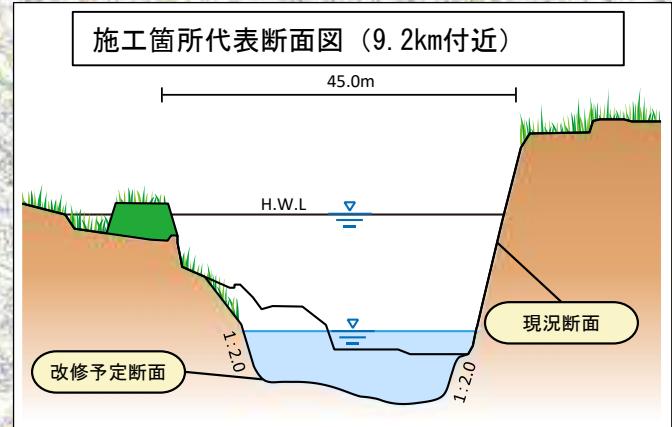
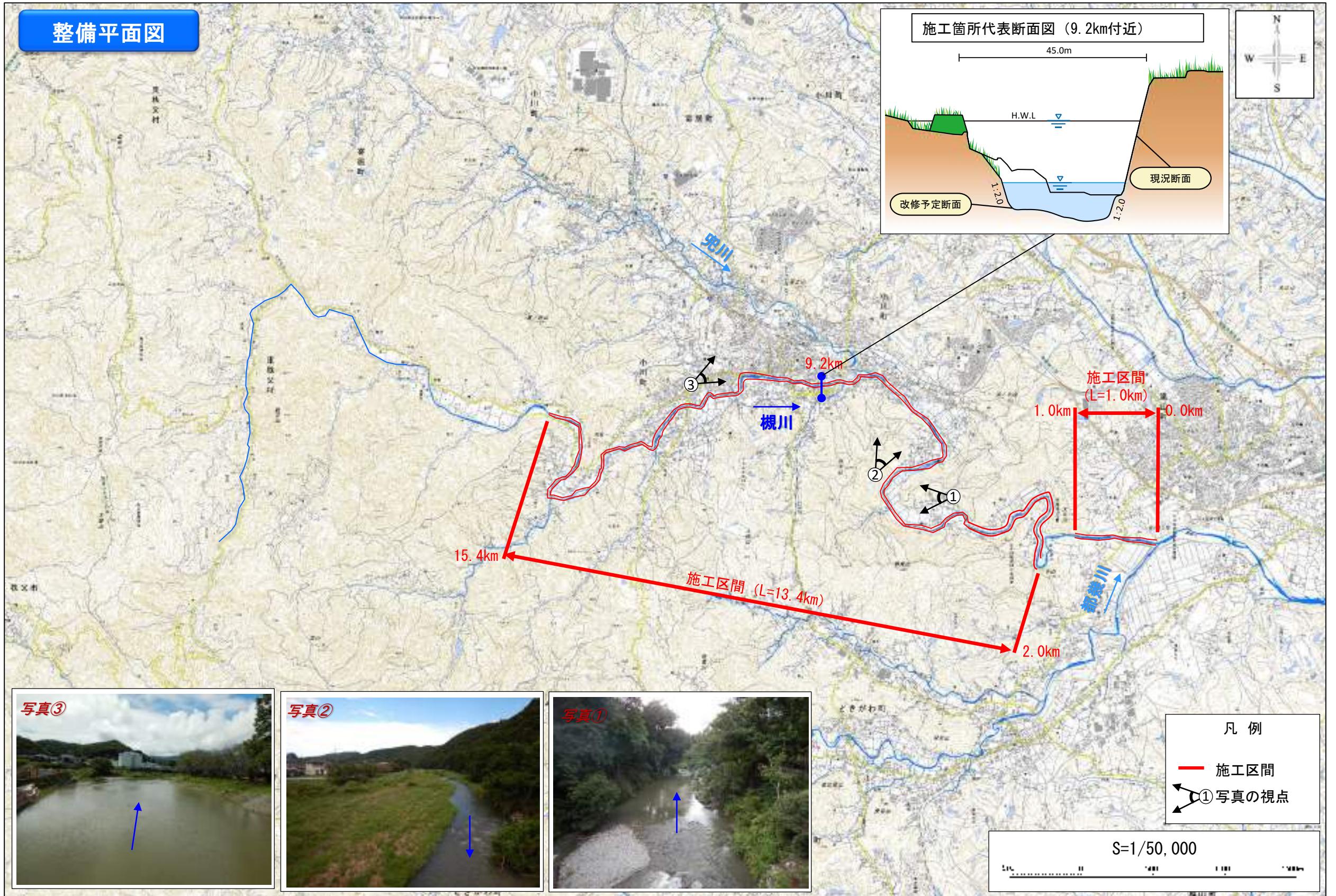
整備にあたっての配慮事項

- 河道内の現況の瀬・淵をできるだけ保全し、改修を行う場合にも自然の力を活用し再生に努めます。
- 生態系に配慮した多自然川づくりを行います。
 - 河道改修においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - 現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
 - 落差工は、魚類等の移動を妨げないように配慮します。
- 既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。
- 嵐山溪谷周辺においては、溪谷の景観に配慮して整備を行います。

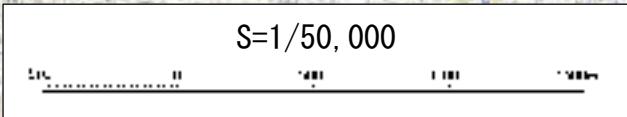
流量配分図



整備平面図



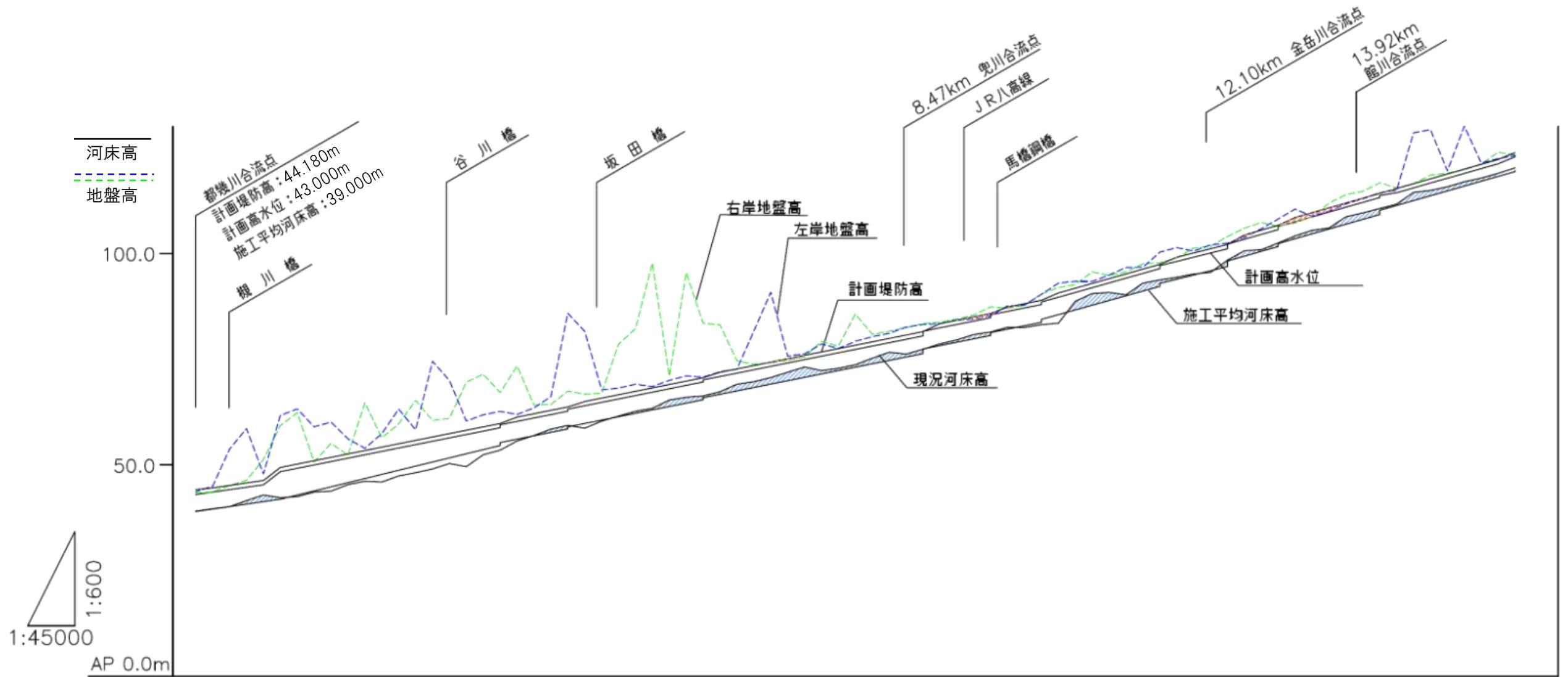
- 凡例
- 施工区間
 - ① 写真の視点



槻川整備平面図 S=1/50,000

縦断図

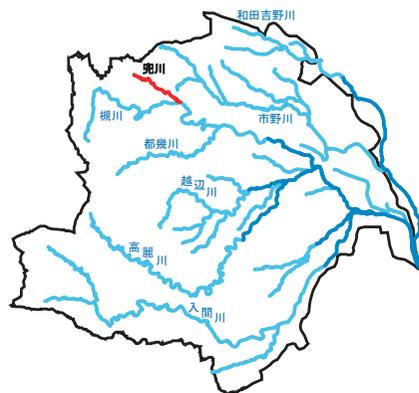
槻川縦断図



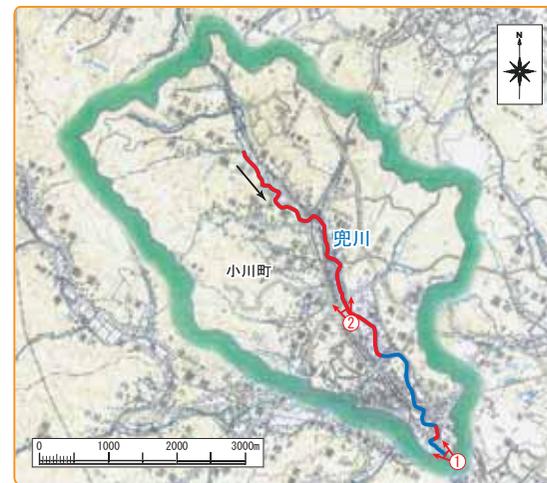
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0K	39.000	43.000	44.180
1.0K	41.900	45.900 48.400	49.400
3.6K	54.600 55.300	58.800 59.500	60.500
4.4K	58.500 59.000	62.700 63.200	64.200
6.0K	65.400 65.900	62.700 63.200	71.100
8.6K	76.300 77.400	80.500 81.600	82.400
9.4K	80.600 81.300	84.800 85.500	86.300
10.0K	83.700 84.400	87.900 88.500	89.400
11.4K	92.200 92.900	96.400 97.100	97.900
12.2K	96.900 98.200	101.100 102.200	103.000
12.8K	101.629 102.329	105.629 106.329	107.129
14.0K	109.189 110.186	113.186 113.386	114.486
15.6K	119.329 119.629	122.829 123.129	123.829

流域および河川の概要

- ・ 兜川は、槻川の支川であり、小川町の山地を源とし、JR八高線に沿って流下し小川町内で槻川に合流する、流域面積16.9km²、流路延長7.4kmの一級河川です。
- ・ 兜川の上流部は、山間部の樹林地と連続した環境となっており、中流部から下流部にかけては、住宅地や耕作地の間を蛇行して流れ、瀬・淵や河畔林が連続した自然豊かな河川です。



流域図



治水計画

- ・ 治水の目標となる時間雨量50mm程度の降雨に対して浸水被害が生じないように、以下の区間で河道改修を行います。
 - ・ 0.3~0.6km、2.4~6.8km(一級河川上流端)
 - ・ 流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

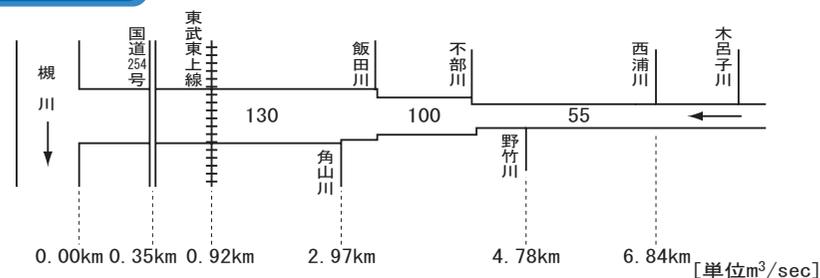
河川沿いの状況

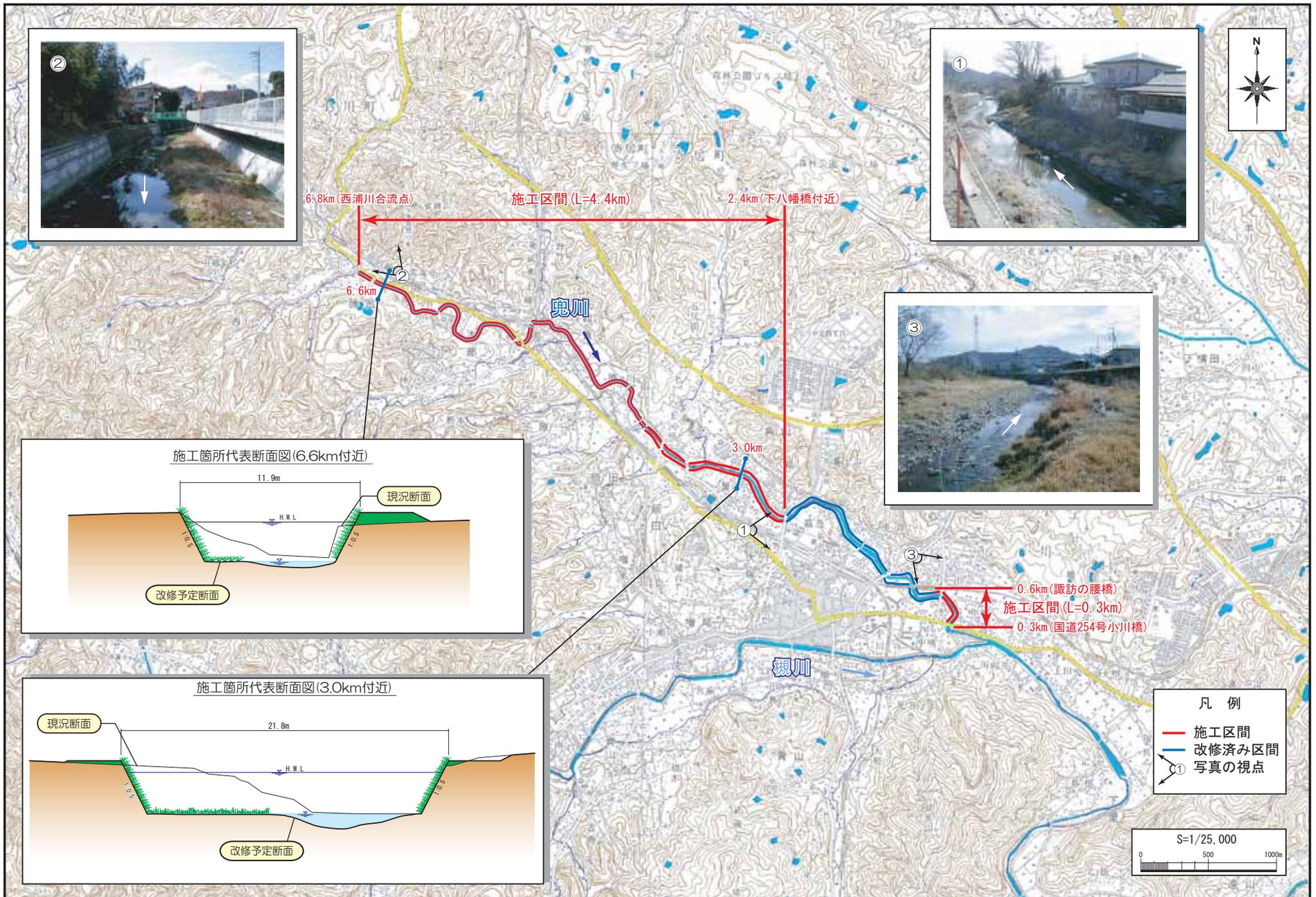


整備にあたっての配慮事項

- ・ 河道内の現況の瀬・淵をできるだけ保全し、改修を行う場合にも自然の力を活用し、再生に努めます。
- ・ 生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・ 河道改修においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - ・ 現地発生材を利用し、緩急の変化に富んだ自然な河岸を形成します。
- ・ 既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。
- ・ 堰、落差工は魚類等の移動に配慮します。
- ・ 護岸の整備にあたっては、動物の移動への配慮にも努めます。

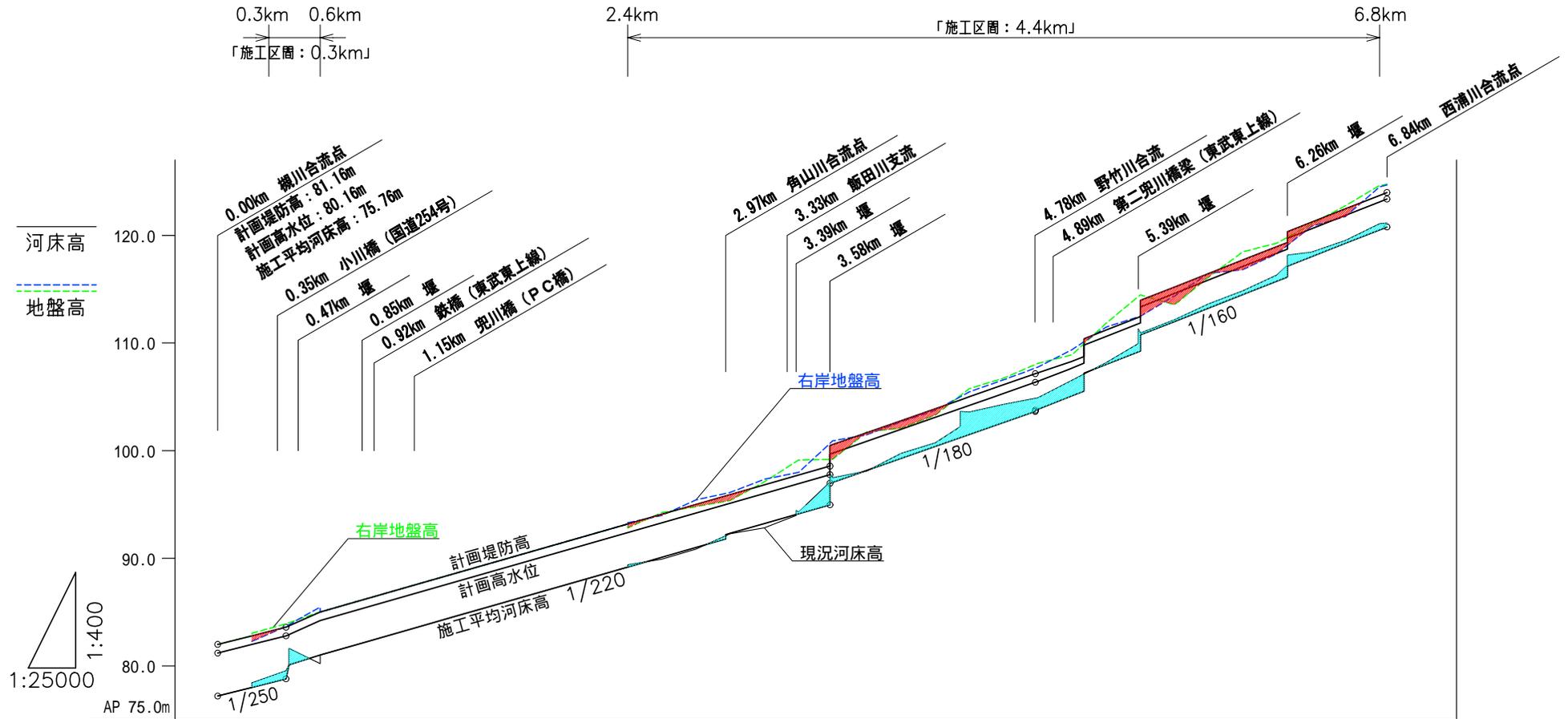
流量配分図





兜川整備平面図 S=1/25,000

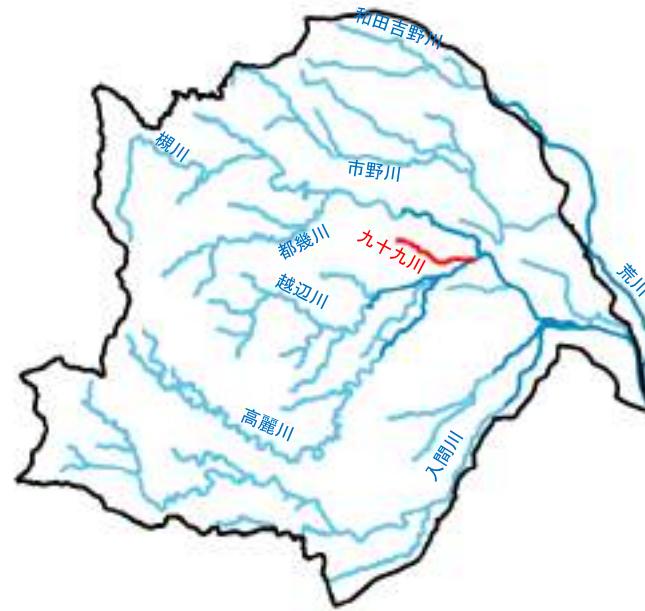
兜川縦断面図



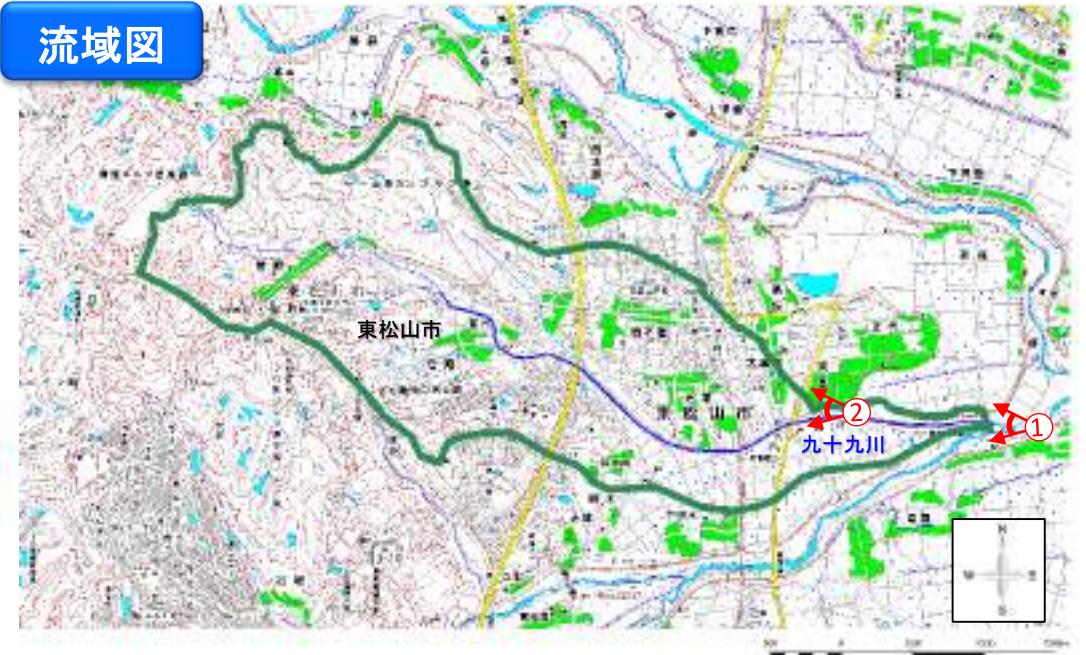
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0 K	77.200	81.200	82.000
0.4 K +0.017	78.800 80.100	82.800 83.300	83.600 84.100
0.8 K	81.920	85.120	85.920
1.2 K	83.740	86.940	87.740
1.6 K	85.550	88.750	89.550
2.0 K	87.370	90.570	91.370
2.4 K	89.160	92.390	93.190
2.8 K	91.010	94.210	95.010
+0.173	(92.800)	95.000	95.800
3.2 K	93.230	96.030	96.830
+0.387 +3.6 K	94.870 95.970 97.060	97.770 99.970 100.560	98.570 100.770 100.560
4.0 K	99.280	101.980	102.780
4.4 K	101.510	104.210	105.010
+0.385 4.8 K	(103.550) 103.720 103.840	106.350 106.440	107.150 107.150
+0.270	(105.530)	(108.130)	(108.730)
5.2 K	108.010	110.610	111.222
5.4 K	(109.260)	(113.860)	(113.960)
5.6 K	112.010	114.610	115.210
6.0 K	114.510	117.110	117.710
+0.260 6.4 K	(119.130) 118.010	(123.330) 120.610	(123.330) 121.210
6.84 K	120.510	123.310	123.980

流域および河川の概要

- 九十九川は、越辺川の支川であり、東松山市の岩殿丘陵を源とし、都幾川と越辺川の合流点上流側で越辺川と合流する流域面積9.4km²、流路延長6.0kmの一級河川です。
- 九十九川の流域は、北と東を都幾川に、南を越辺川に挟まれており、岩殿丘陵と水田地帯で構成されています。
- 九十九川の上流部は、水田の中を流れ、中流部から下流部にかけては、水田地帯と住宅地の中を蛇行しながら流れており、川幅は狭く、河川環境は比較的単調となっています。



流域図



治水計画

- 九十九川は河道改修済みですが、昭和57年9月や平成11年8月の洪水の際に、越辺川の背水の影響により浸水被害が生じました。また、令和元年東日本台風の際に、越辺川との合流点で発生した氾濫により、甚大な浸水被害が生じました。このため、九十九川と越辺川の合流点において以下の整備を行います。

【整備内容】

- 調節池等整備
- 排水機場の設置

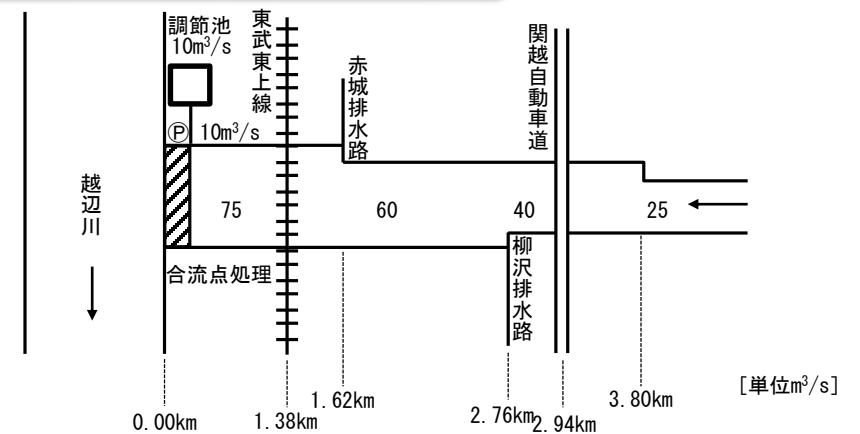
河川沿いの状況



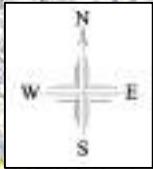
整備にあたっての配慮事項

- 周辺の生態系に配慮して合流点処理を行います。
- 越辺川との連続性を確保するなど、合流点周囲における湿地等の環境を保全するように努めます。
- 流域内にグリーンインフラを取り入れることを検討し、水域の連続性の確保や、流域に広がる生物の生息・生育の場を結ぶ生態系ネットワークの形成に努めるとともに、グリーンインフラによる多重防御治水と環境の保全・創出、地域振興の実現に努めていきます。

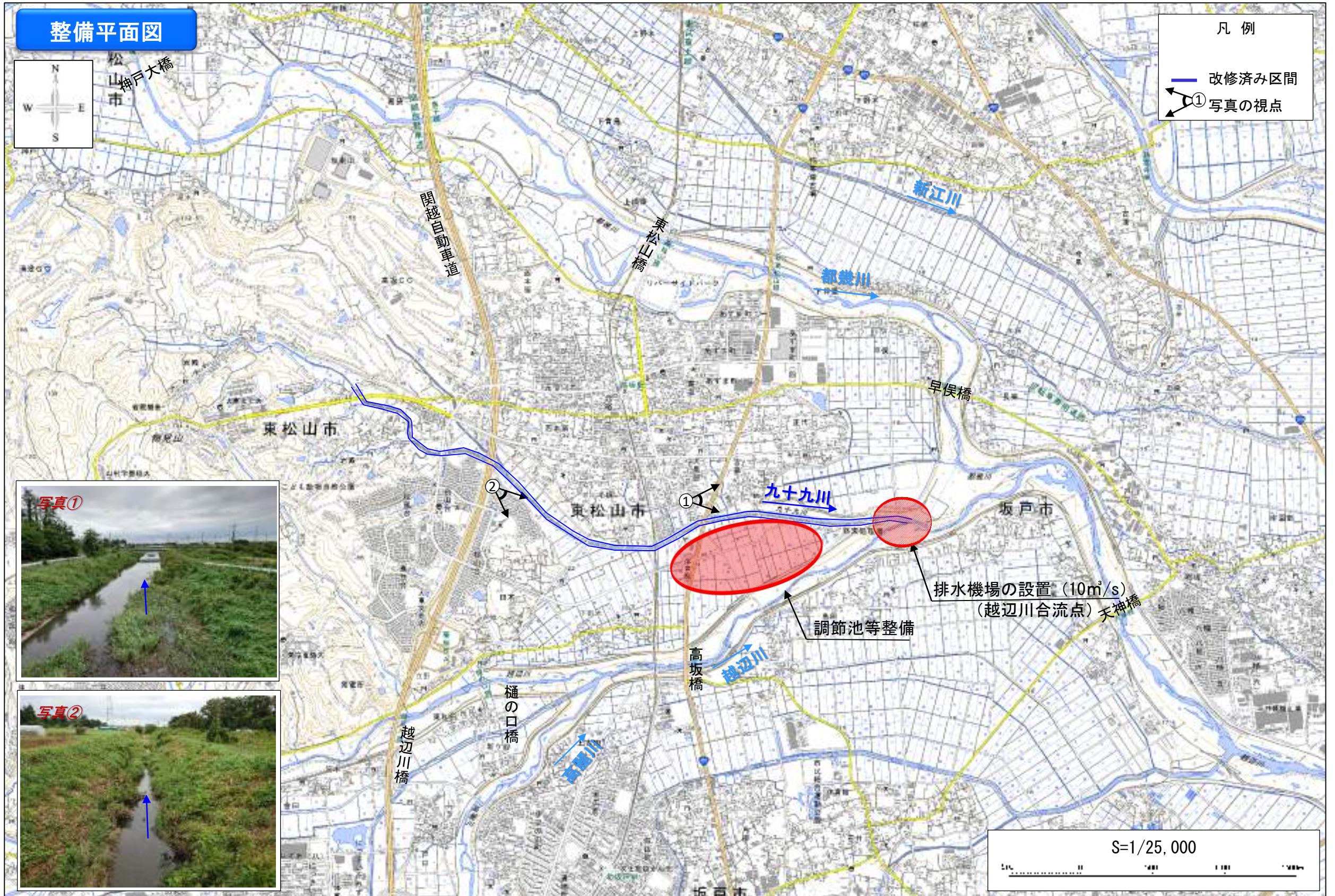
流量配分図



整備平面図



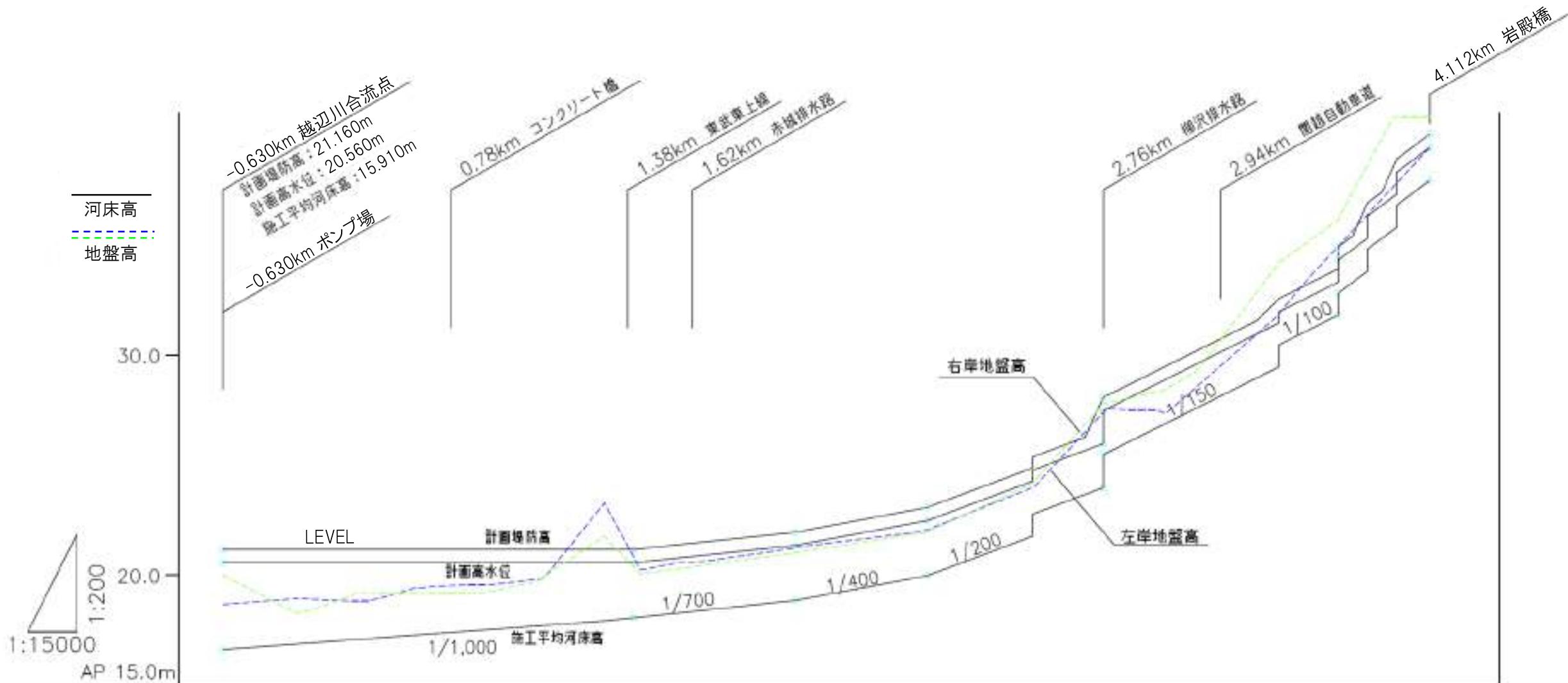
- 凡例
- 改修済み区間
 - ① 写真の視点



九十九川整備平面図 S=1/25,000

縦断図

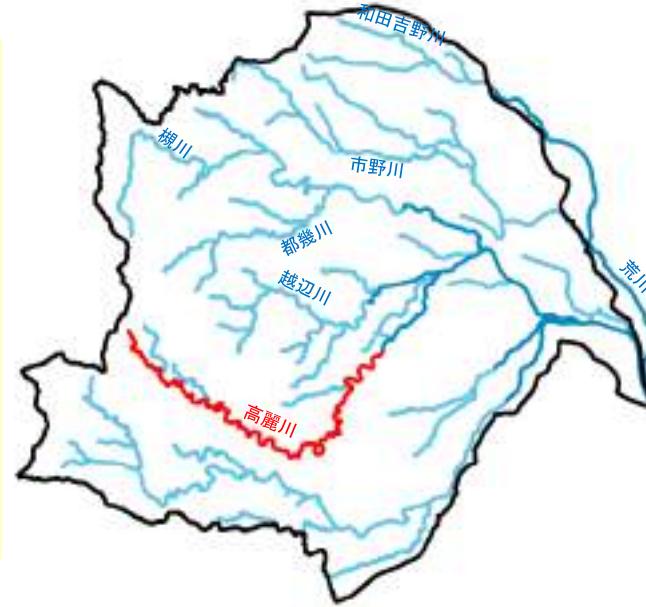
九十九川縦断図



測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0K	16.614	20.560	21.160
0.4K	17.014	20.560	21.160
0.8K	17.414	20.560	21.160
1.3K	17.914	20.560	21.160
1.6K	18.343	20.843	21.443
1.95K	18.842	21.342	21.942
2.4K	19.967	22.467	23.067
2.76K	21.767	24.267 (24.767)	25.367
3.0K	23.967	25.967 (27.467)	28.067
3.4K	28.133	30.133	30.733
3.6K	29.467	31.467 (32.467)	33.013
3.8K	31.800	33.800 (34.300) 35.300	34.900 35.900
3.9K	33.800	36.300 (36.900)	37.900 (38.900)
4.0K	35.800	37.300 (38.300) 39.420	37.900 (38.900) 40.020
4.112K	37.920	39.720	40.020

流域および河川の概要

- 高麗川は、越辺川の支川で、流域面積94.8km²、流路延長32.4km（県管理区間）の一級河川です。
- 高麗川は、飯能市、横瀬町、ときがわ町の境である対場坂峠付近を源とし、山間部を流れ下流の国管理区間で越辺川に合流します。県管理区間の河道は、自然河川で蛇行が大きい傾向があります。
- 高麗川は、蛇行した自然河川の姿を今も残しており、瀬・淵や河畔林が連続する自然豊かな河川です。
- 上流域の山林や里山と、中流域の台地・段丘崖に沿った斜面林が連続しており、緑のネットワークを形成しています。



流域図



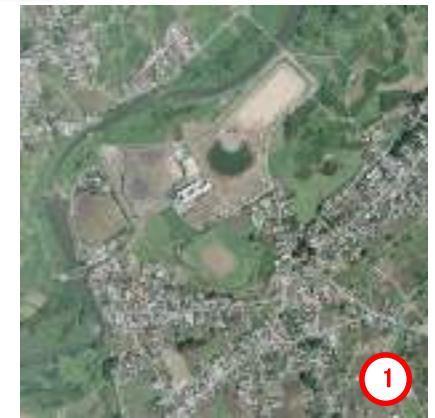
治水計画

- 高麗川では令和元年東日本台風の際に、越水による浸水被害が生じました。このため、以下の整備を行います。

【整備内容】

- 河道改修：6.4~17.0km、23.0~32.0km
上記区間のうち、流下能力の足りない区間で河道掘削、築堤を実施

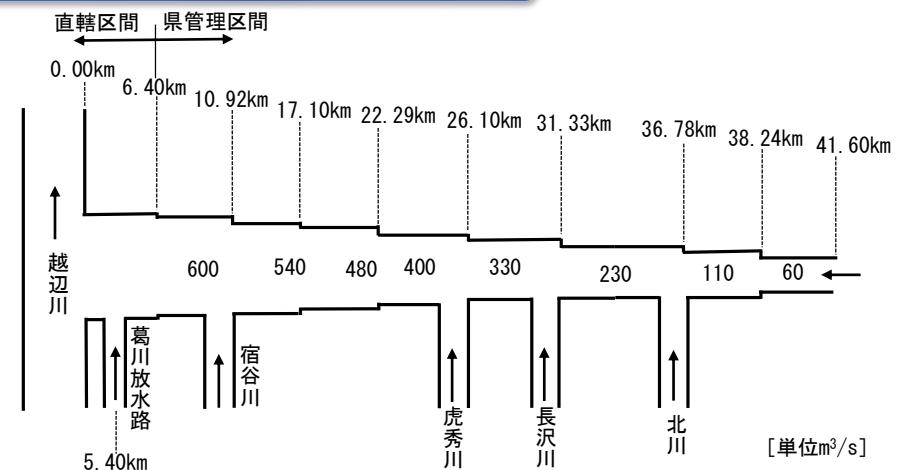
河川沿いの状況



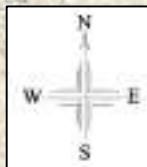
整備にあたっての配慮事項

- 河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- 生態系に配慮した多自然川づくりを行います。
 - 河道改修においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - 現地発生材を利用し、緩急の変化に富んだ自然な河岸を形成します。
- 既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。

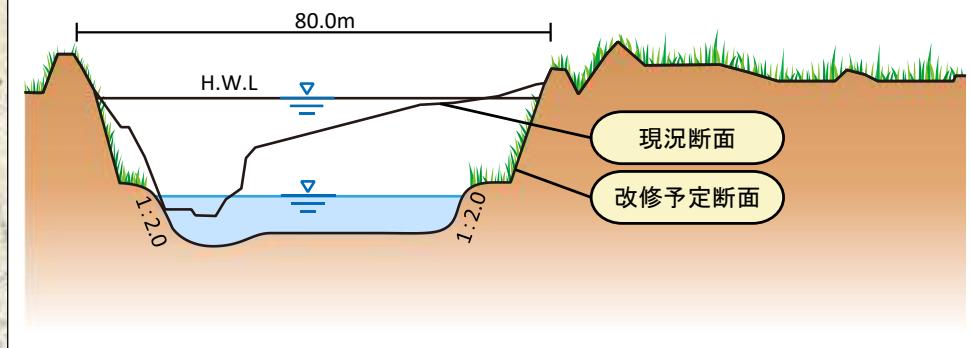
流量配分図



整備平面図



施工箇所代表断面図 (9.2km付近)



32.0km 施工区間 (L=9.0km) 23.0km

17.0km 施工区間 (L=10.6km) 6.4km

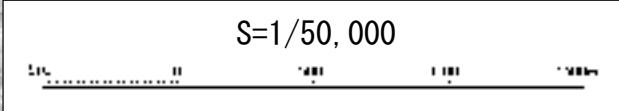
9.2km

比較的大きな流下能力を有していますので、浸水被害が生じるなどの現地の状況に応じ、必要な箇所を整備します。

高麗川

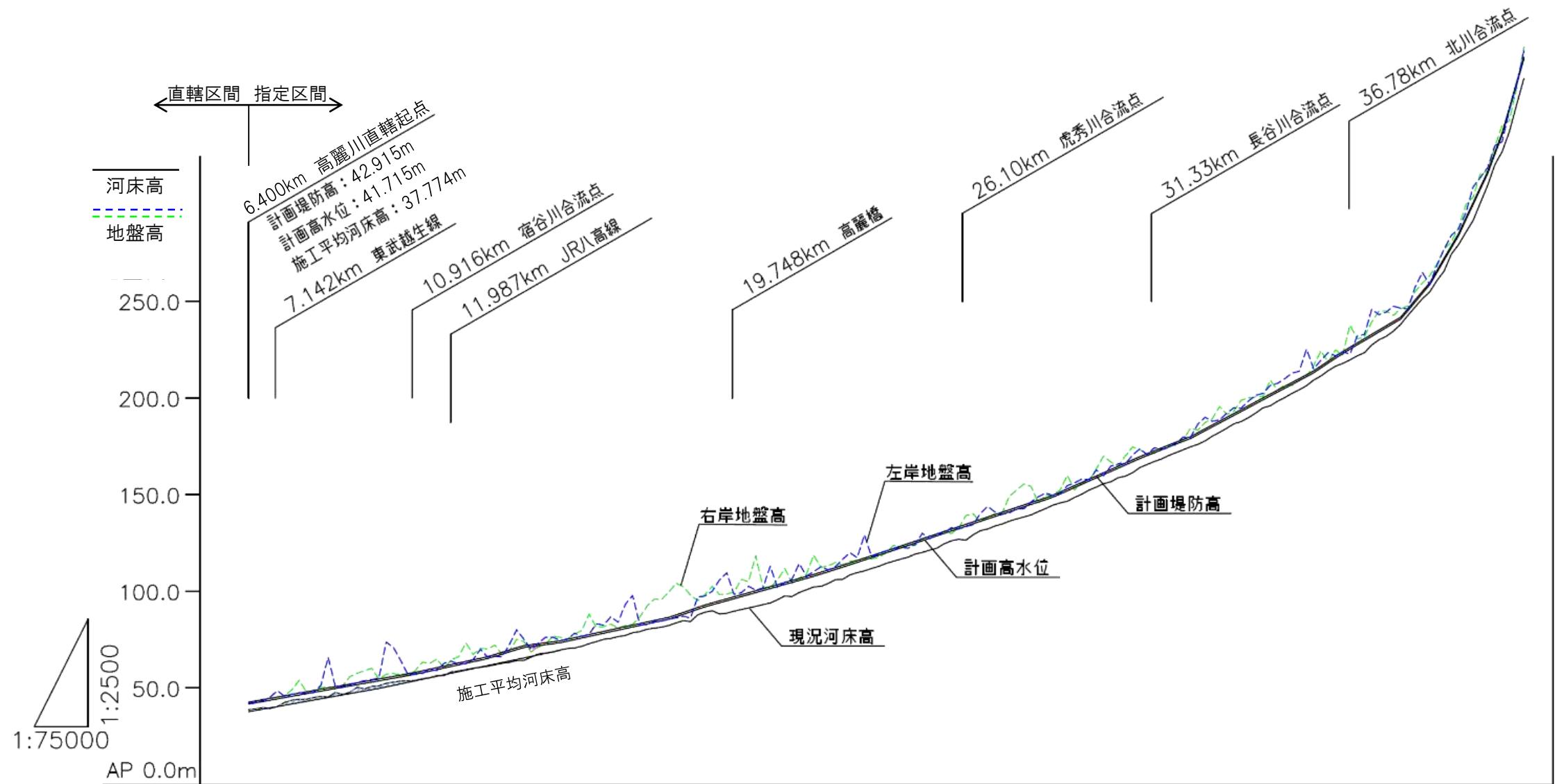


- 凡例
- 施工区間
 - ① 写真の視点



縦断図

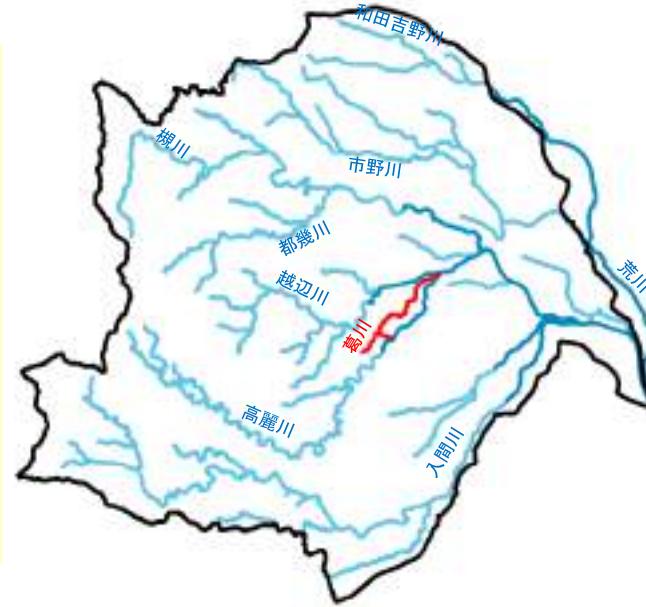
高麗川縦断図



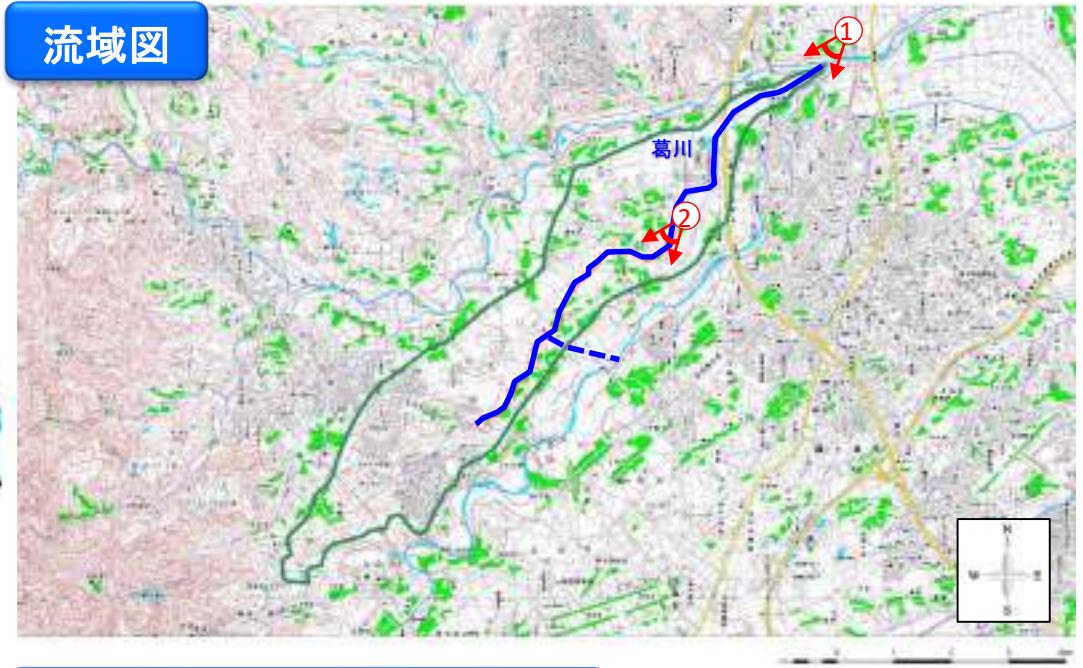
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
6.4 K	37.774	41.715	42.915
7.0 K		43.715	44.915
8.0 K		47.048	48.248
9.0 K		50.382	51.582
10.0 K	49.774	53.715	54.715
11.0 K		57.082	58.082
12.0 K		61.164	62.164
13.0 K		65.245	66.245
14.0 K		70.960	71.960
15.0 K	69.509	73.409	74.409
16.0 K		77.490	78.490
17.0 K		81.572	82.572
18.0 K		85.563	86.563
19.0 K		91.965	92.765
20.0 K		97.228	98.028
21.0 K		102.491	103.291
22.0 K		107.754	108.554
23.0 K		113.708	114.508
24.0 K		119.958	120.758
25.0 K		126.208	127.008
26.0 K		132.458	133.258
27.0 K		138.708	139.508
28.0 K		144.958	145.758
29.0 K		152.041	152.841
30.0 K		160.375	161.175
31.0 K		168.708	169.508
32.0 K		176.208	177.008
33.0 K		185.065	185.865
34.0 K		195.065	195.865
35.0 K		205.065	205.865
36.0 K		215.565	216.365
37.0 K		227.509	228.109
38.0 K		238.621	239.221
39.0 K		258.621	259.221
40.0 K		292.176	292.776
41.0 K		336.176	336.776
41.6 K		375.343	375.943

流域および河川の概要

- 葛川は、毛呂山町の毛呂山総合公園付近を源とし、JR八高線、東武越生線、関越自動車道を横断し、越辺川に合流する流域面積13.3km²、流路延長7.8kmの一級河川です。
- 葛川流域のJR八高線及び東武越生線に沿線地域は、もともと農業地域でしたが、大規模な宅地開発がされています。
- 上流域では、宅地の中を流れる都市河川、中流域では、水田や宅地、平地林の中を蛇行して流れる比較的自然豊かな河川、下流域は区画整理に伴い直線化された水田の中を流れる河川といった上・中・下流で河川環境が異なる河川です。



流域図



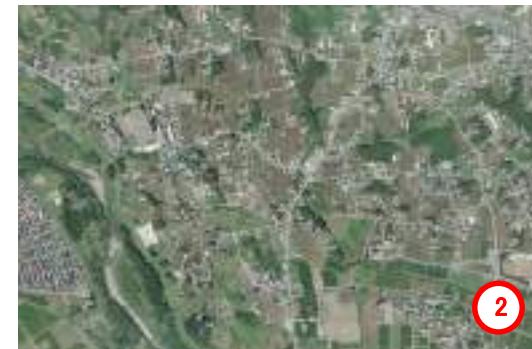
治水計画

- 葛川では、昭和57年9月や平成11年8月、令和元年東日本台風の際に、河道の流下能力不足と越辺川の背水の影響により浸水被害が生じました。このため、葛川では以下の整備を行います。

【整備内容】

- 調節池等整備
- 排水機場の設置
- 河道改修：3.2～7.9km（一級河川上流端）
上記区間のうち、流下能力の足りない区間で河道拡幅、築堤を実施

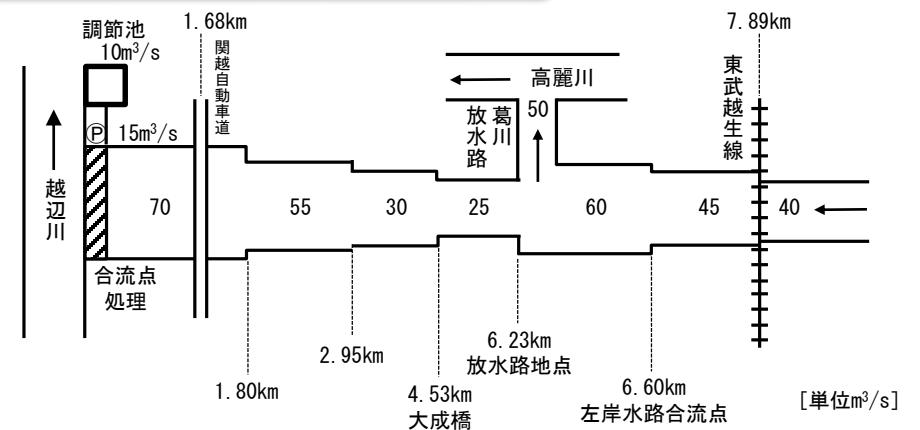
河川沿いの状況



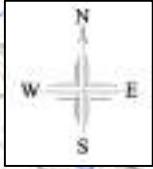
整備にあたっての配慮事項

- 河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- 生態系に配慮した多自然川づくりを行います。
 - 河道改修においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - 現地発生材を利用し、緩急の変化に富んだ自然な河岸を形成します。
- 既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。
- 越辺川との連続性を確保するなど、周辺の生態系に配慮して合流点処理を行います。
- 落差工は魚類等の移動に配慮します。

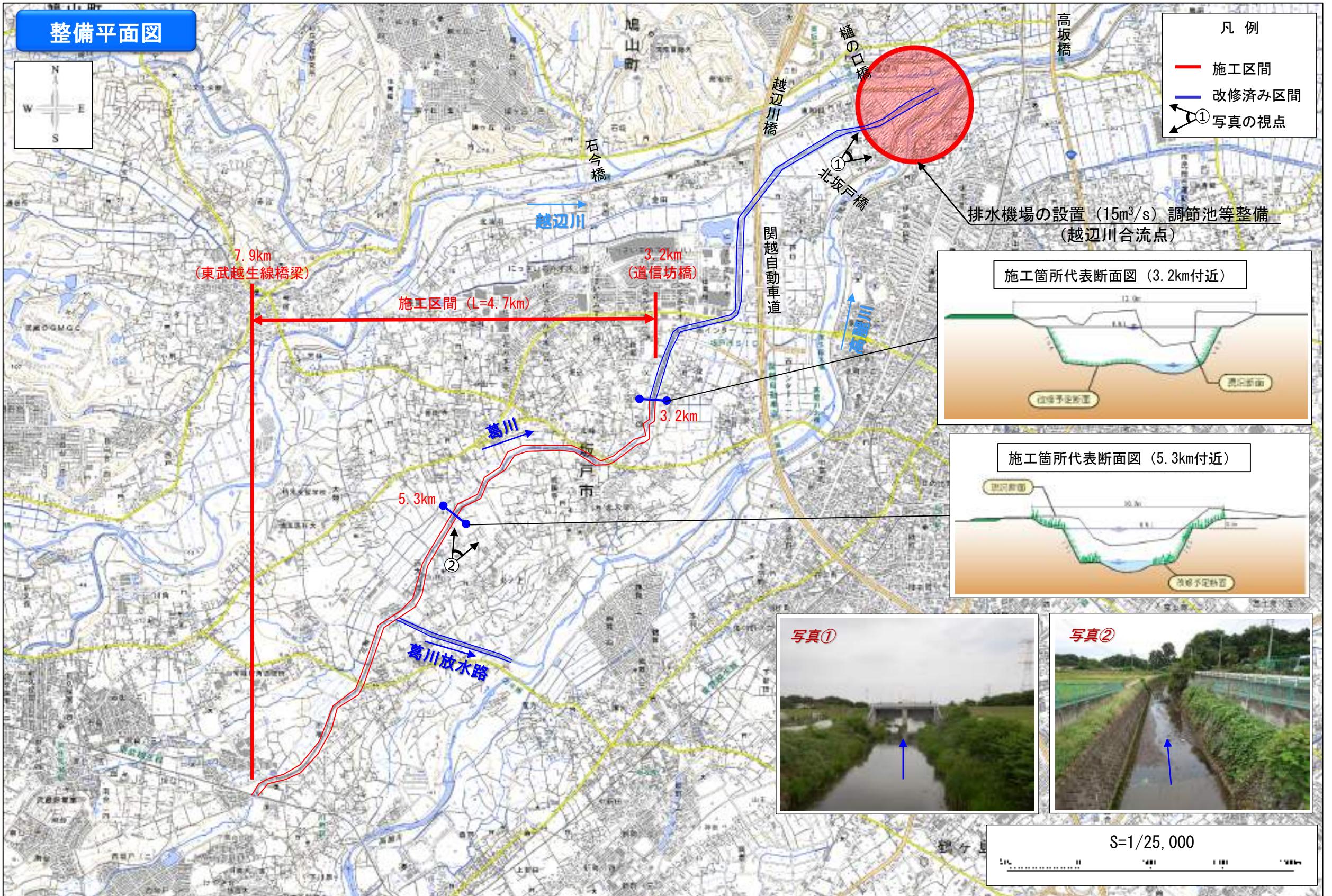
流量配分図



整備平面図



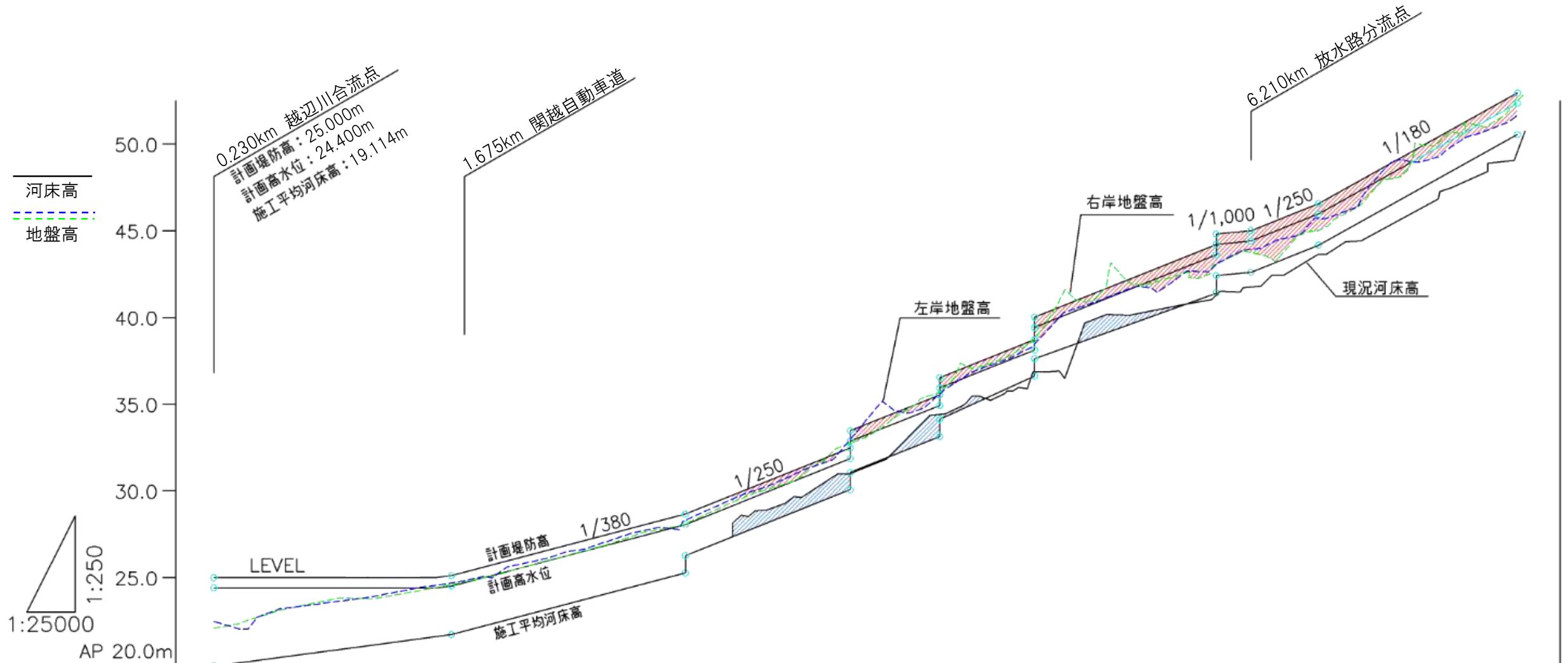
- 凡例
- 施工区間
 - 改修済み区間
 - ① 写真の視点



葛川整備平面図 S=1/25,000

縦断図

葛川縦断図



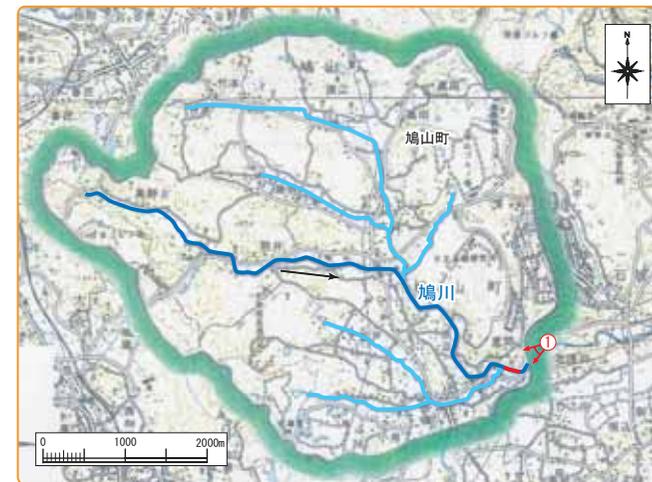
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.23K	19.114	24.400	25.000
0.6K	20.385	24.400	25.000
1.2K	21.184	24.400	25.000
1.6K	21.717	24.517	25.117
2.4K	23.822	26.622	27.222
2.95K	25.269	28.069	28.669
3.6K	28.869	30.669	31.269
3.9K	30.069 / 29.069	31.869 / 32.869	32.469 / 33.469
4.416K	33.133 / 32.133	34.933 / 35.933	35.533 / 36.533
4.716K	35.333	37.133	37.733
4.963K	35.321 / 36.321	38.121 / 39.424	38.721 / 40.024
6.01K	41.812 / 40.812	43.612 / 44.212	44.212 / 44.812
6.21K	42.612	44.612	45.012
6.6K	44.172	45.972	46.572
7.747K	50.544	52.344	52.944

流域および河川の概要

- ・鳩川は、越辺川の支川であり、流域面積20.2km²、流路延長5.1kmの一級河川です。
- ・鳩川の流域のほとんどは鳩山町内にあり、比企丘陵の南端に源を発し、鳩山町内で越辺川に合流します。
- ・鳩川は元々農業用排水路でしたが、昭和49年9月の台風の被害を受け、全面的な河川改修が行われました。
- ・鳩川は、鳩山町内の農耕地の中を流れており、元々農業用水路として整備されているため、自然の蛇行は少ない河川です。
- ・しかし、鳩川の近隣には里山(森林)が広がっており、鳩川でもカワセミやイカルチドリなどの鳥類が多く見られ、鳩山ニュータウン等の開発が進む中で、貴重な生物の生息空間となっています。



流域図



治水計画

- ・鳩川の越辺川合流点付近は、昭和49年9月の洪水の際に、河道の流下能力不足による浸水被害が生じています。
- ・このため、鳩川では河道改修を行ってきましたが、残りの以下の区間について越辺川の改修とあわせて整備を行います。
 - ・河道改修：0.0~0.2km
 - ・流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

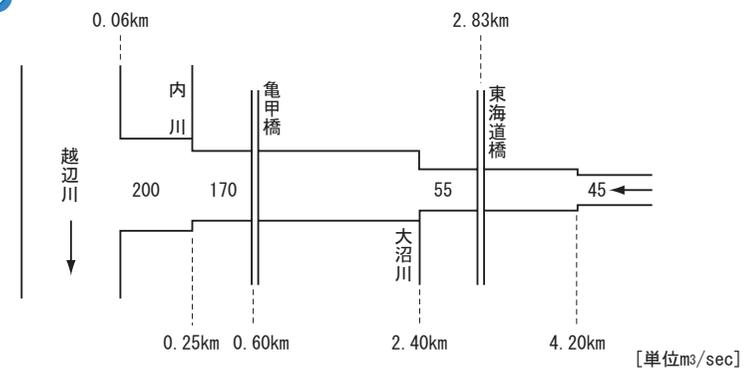
河川沿いの状況

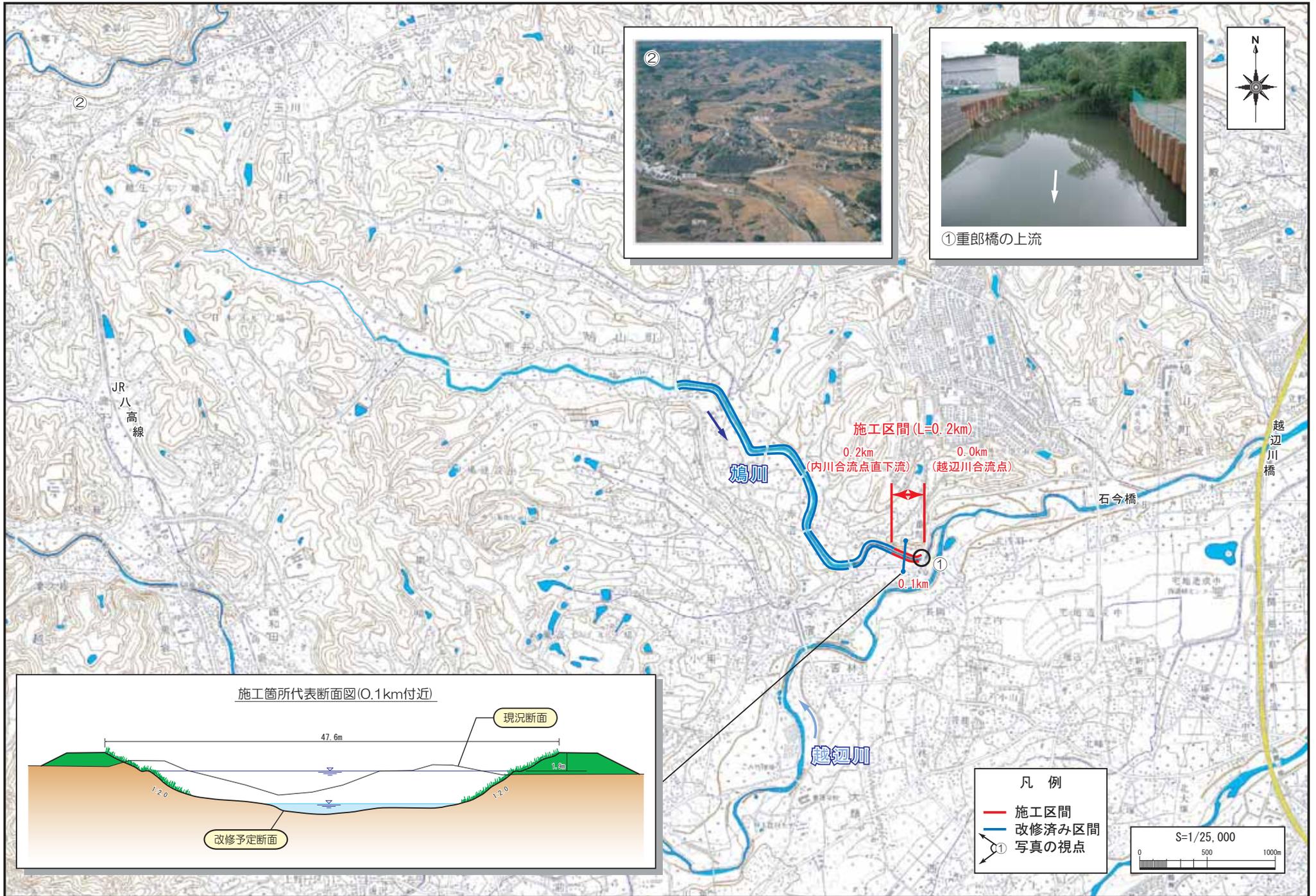


整備にあたっての配慮事項

- ・河道内の多様な流れの創出に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・河道改修においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - ・現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
- ・既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。

流量配分図

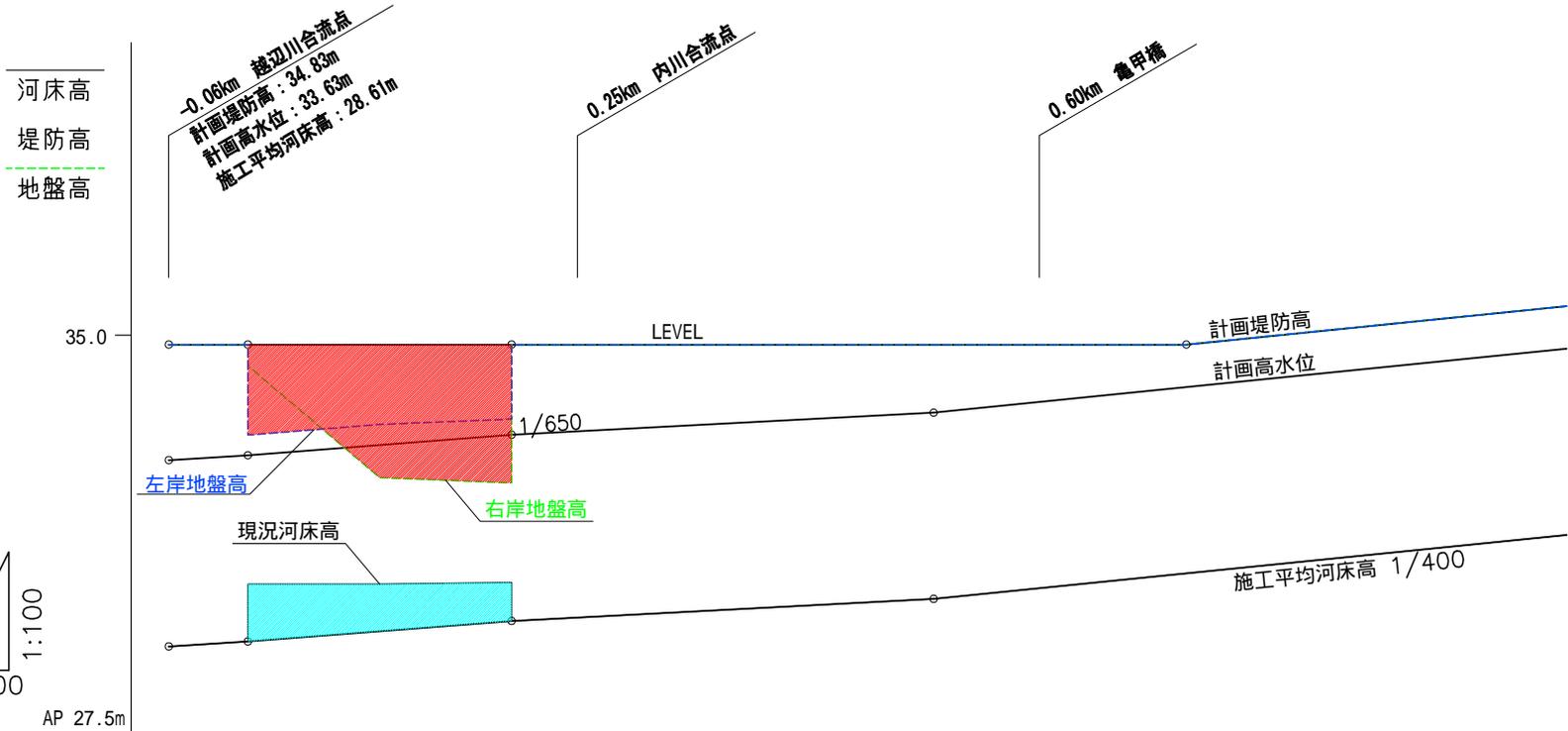




鳩川整備平面図 S=1/25,000

鳩川縦断面図

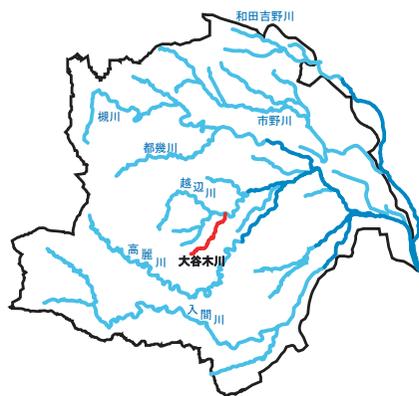
0.0km 0.2km
「施工区間：0.2km」



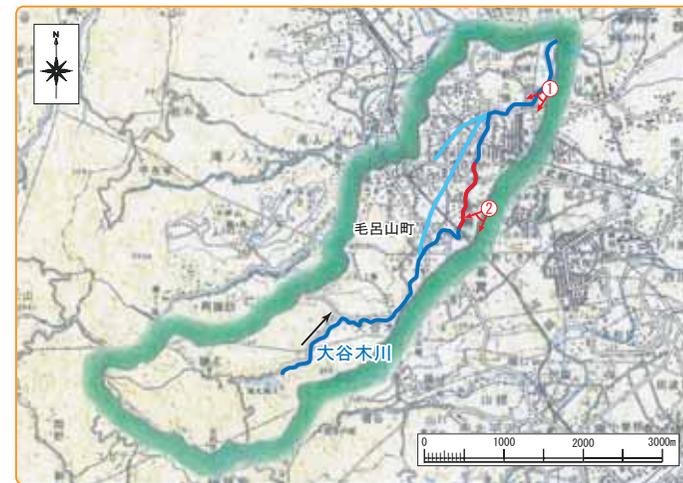
測点	-0.06K	0.00K	0.20K	0.52K	1.0K
施工平均河床高	29.154	29.246	29.631	30.046	31.246
計画高水位	32.654	32.746	33.131	33.546	34.746
計画堤防高	34.825	34.825	34.825	34.825	35.546

流域および河川の概要

- ・大谷木川は、毛呂山町と飯能市の境の山地に源を発し、毛呂山町内で越辺川と合流する流域面7.9km²、流路延長6.5kmの一級河川です。
- ・大谷木川は、鎌北湖の下流を一級河川の起点とし、山間部を流下します。JR八高線や東武越生線の周辺は元々農耕地が広がっていましたが、近年宅地開発が進行し都市化が進んでいます。
- ・大谷木川の上流部は、山林や農耕地の間を流れる自然豊かな河川ですが、下流部は開発された宅地の中を流れる都市河川的な環境となっています。



流域図



治水計画

- ・大谷木川では、治水目標である時間雨量50mm程度の降雨に対して浸水被害が生じないように、以下の区間で河道改修を行います。
 - ・2.3~3.1km(JR八高線橋梁)
 - 流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

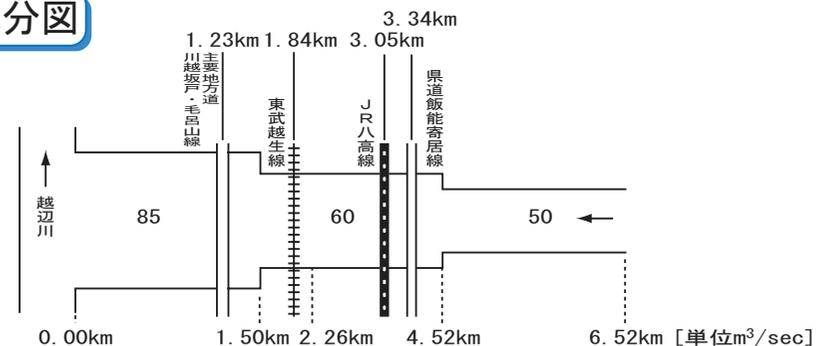
河川沿いの状況

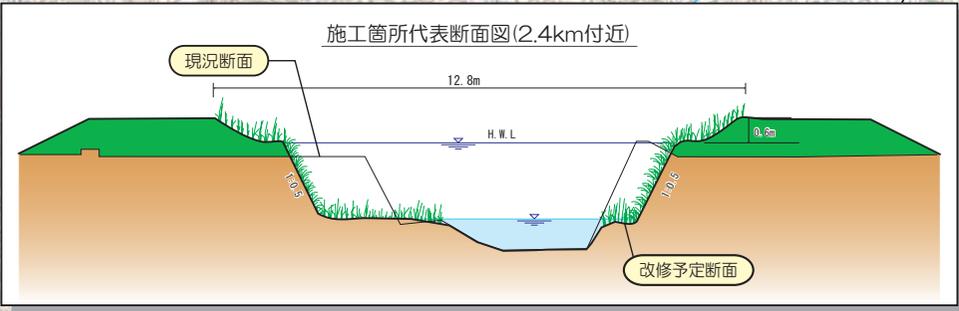
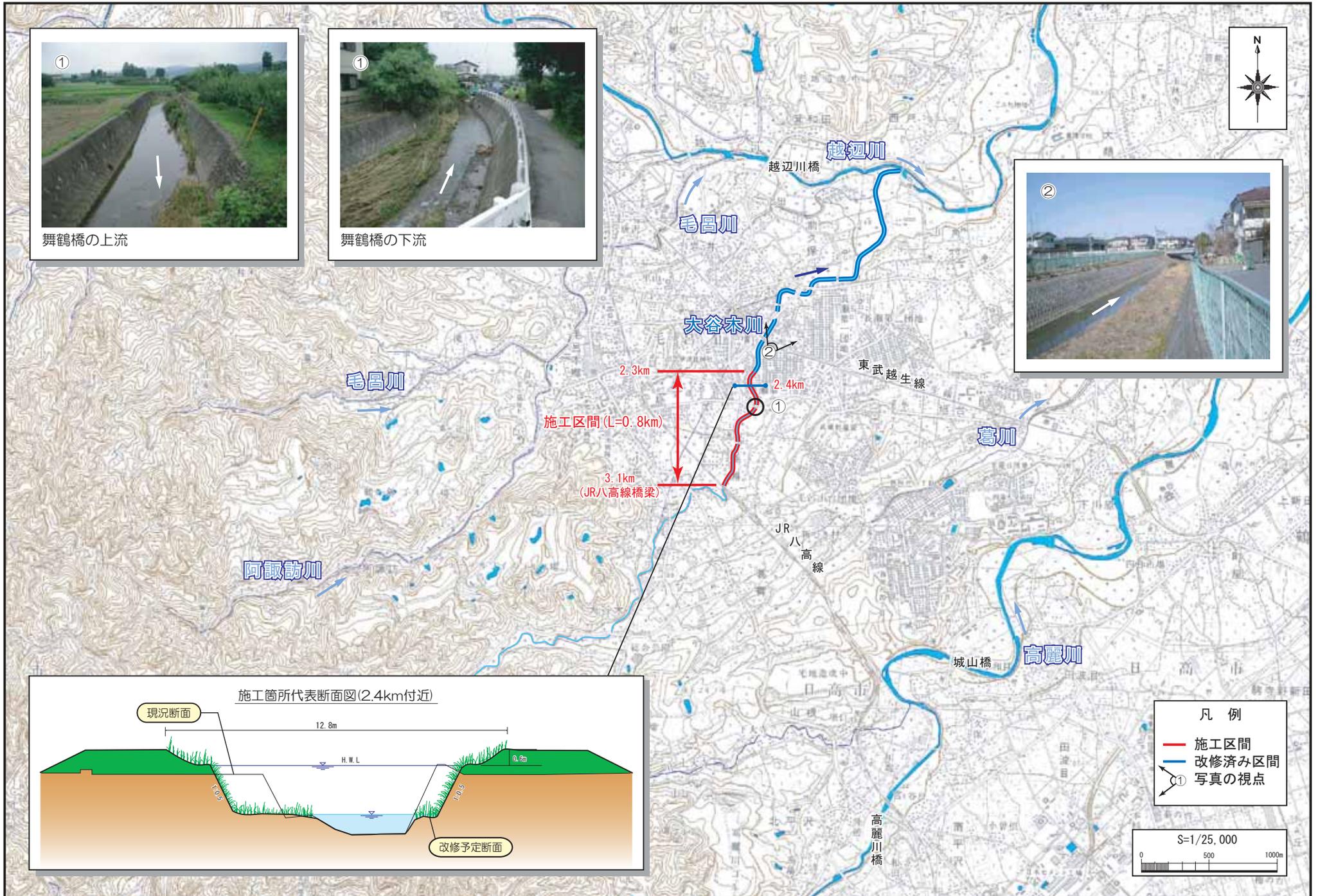


整備にあたっての配慮事項

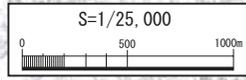
- ・河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・河道改修にあたっては、周辺の景観との調和や、親水性に配慮します。
 - ・現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
- ・護岸の整備にあたっては、動物の移動への配慮にも努めます。

流量配分図



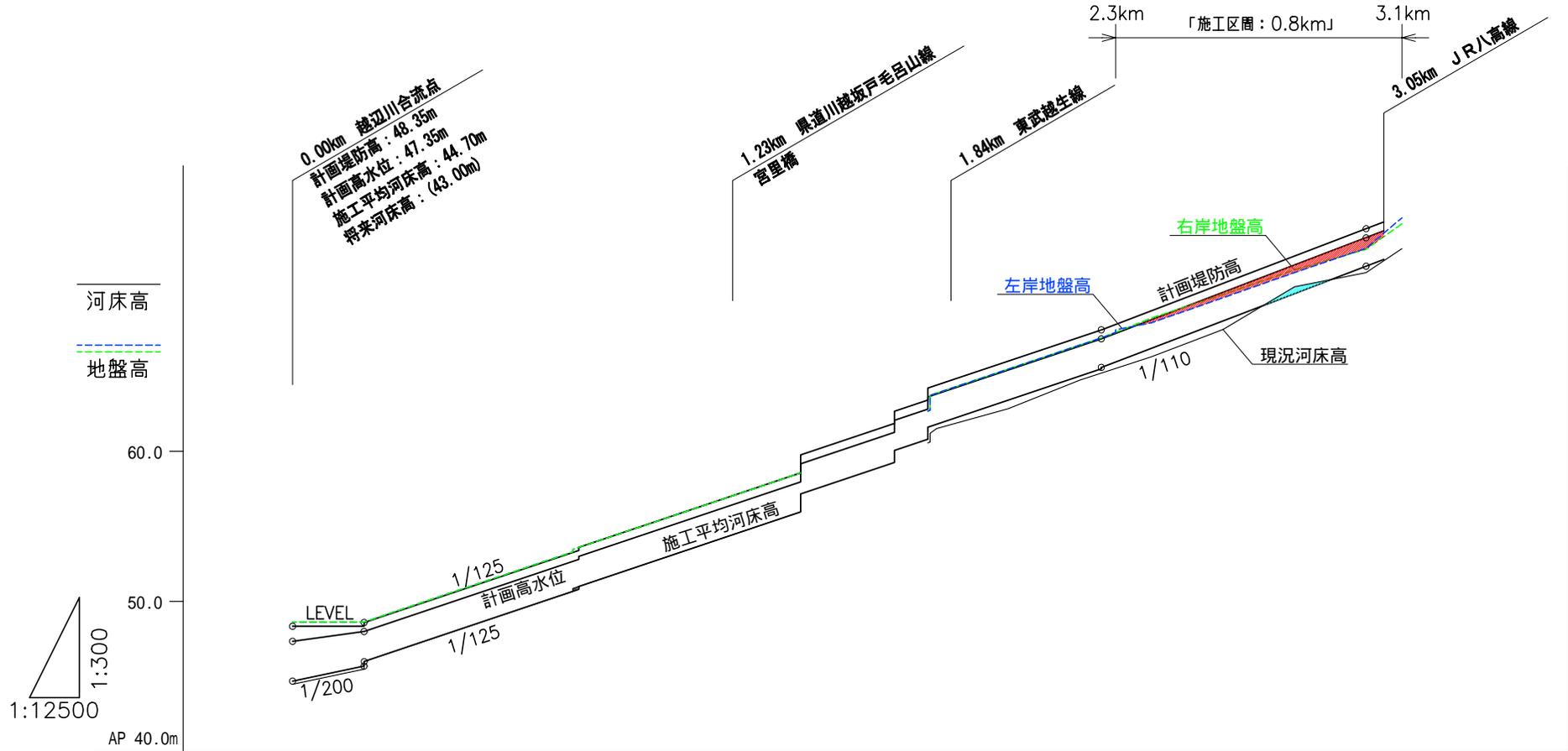


- 凡例
- 施工区間
 - 改修済み区間
 - ① 写真の視点



大谷木川整備平面図 S=1/25,000

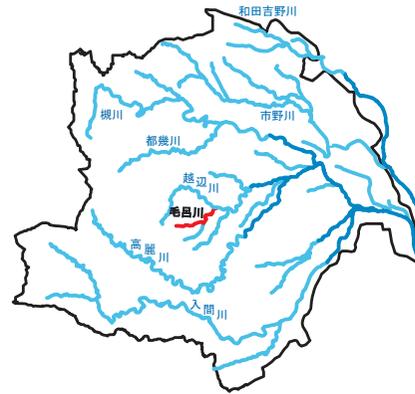
大谷木川縦断図



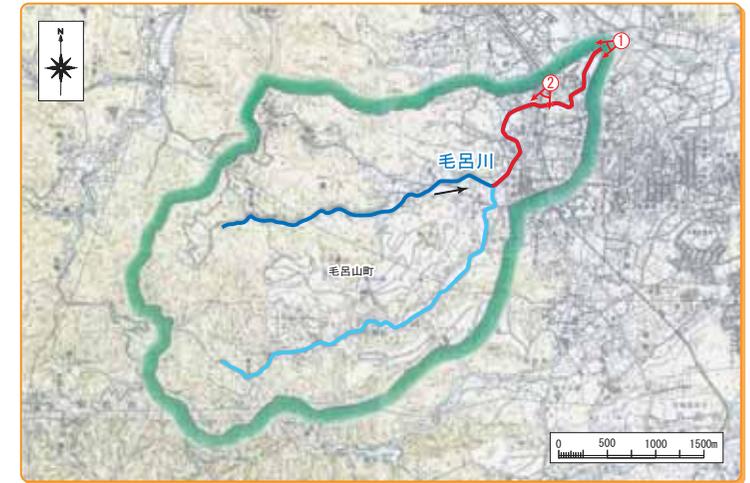
測点	0.0 K	0.2 K	0.8 K	1.0 K	1.42 K	1.53 K	1.682 K	1.775 K	2.0 K	2.26K	3.0 K
計画堤防高	48.352	48.352 48.600	53.400 53.600	55.200	58.560 59.760	60.640	61.856 62.056	63.400 64.200	66.000	68.080	74.807
計画高水位	47.352	48.000	52.800 53.000	54.600	57.960 59.160	60.040	61.256 62.056	63.600	65.400	67.480	74.207
施工平均河床高	44.700	45.700 46.000	50.800 51.000	52.600	55.960 57.160	58.040	59.256 60.056	60.800 61.600	63.400	65.480 65.580	72.307

流域および河川の概要

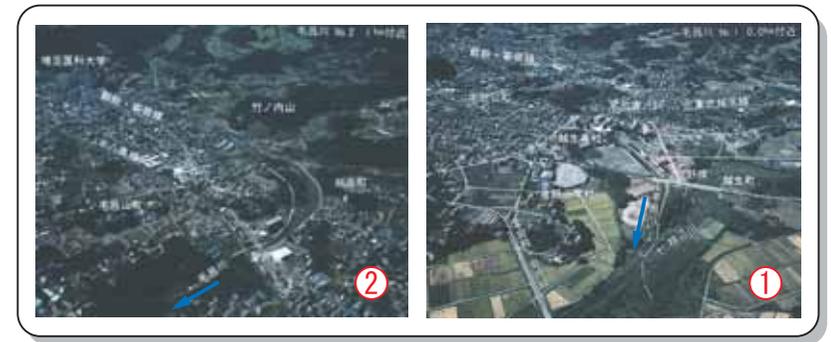
- 毛呂川は、毛呂山町日影林地内に源を発し、毛呂山町市街地・越生町を流下し越辺川に合流する流域面積10.9km²、流路延長4.3kmの一級河川です。
- 毛呂川の流域は、武蔵野台地が山林と接する所に位置しており、上流部はスギ、ヒノキ等の人工林に覆われた比較的急峻な山林です。中流部の河川沿いは水田や畑として利用されており、下流部は毛呂山町の市街地となっています。
- 毛呂川の上流部は、山林と農耕地、そして平地林の中を蛇行して流れる自然豊かな河川です。一方、中流部から下流部にかけては、毛呂山町の市街地の中を流れています。河川沿いには河畔林や平地林が見られ、都市化が進む中で良好な河川環境を保持しています。



流域図



河川沿いの状況



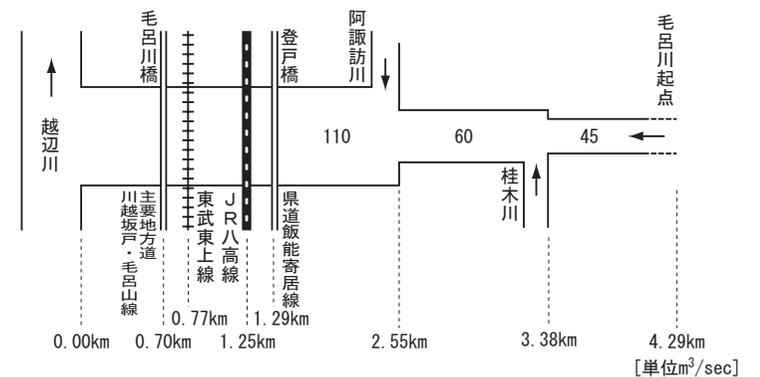
治水計画

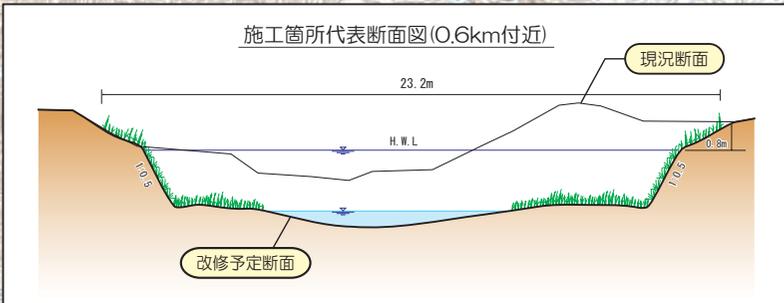
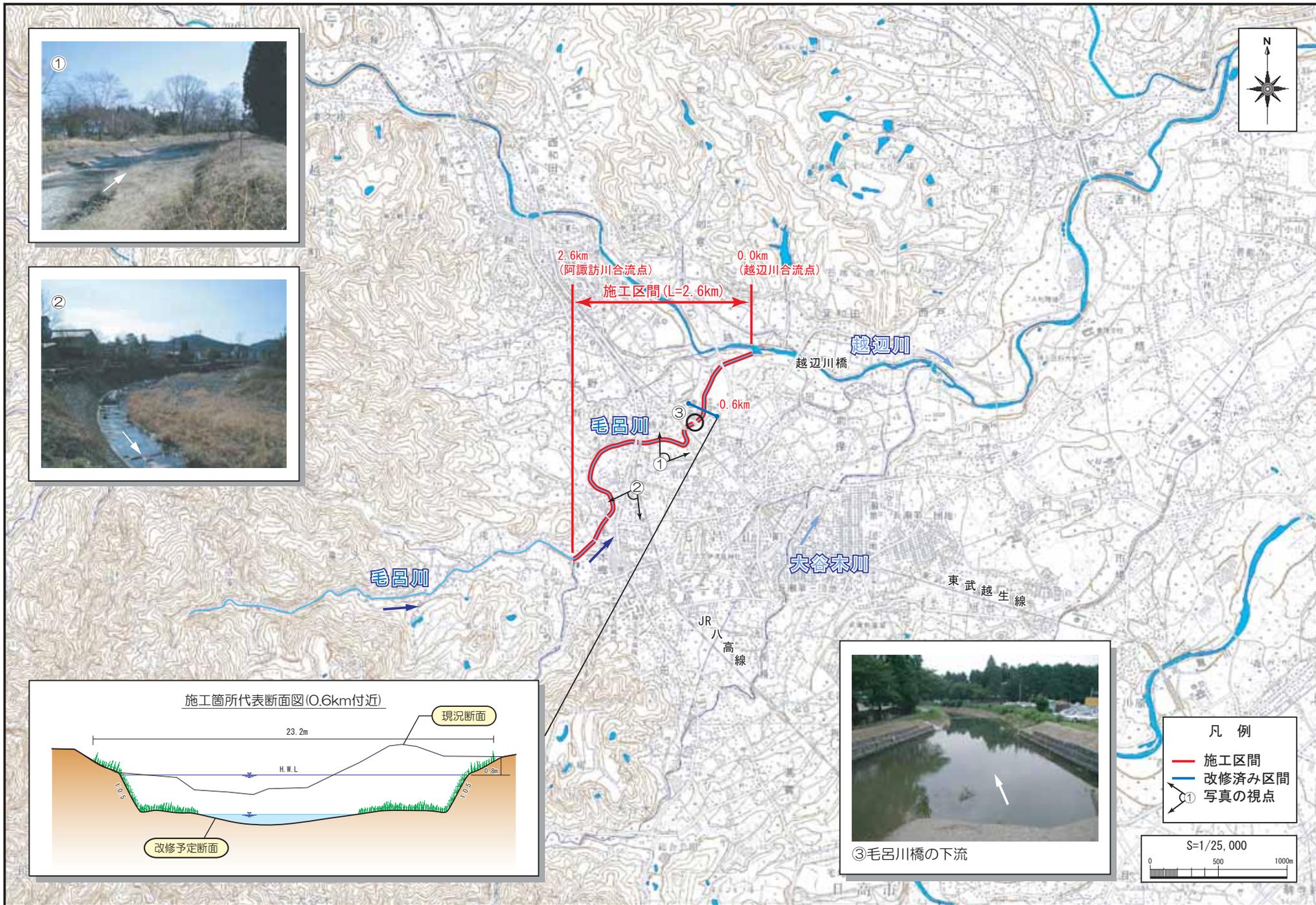
- 毛呂川では、治水の目標となる時間雨量50mm程度の降雨に対して、浸水被害が生じないように、以下の区間において、河道改修を行います。
 - 0.0~2.6km(阿諏訪川合流点)
 - 流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

整備にあたっての配慮事項

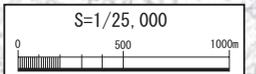
- 河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- 生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - 河道改修にあたっては、周辺の景観との調和や、親水性に配慮します。
 - 現地発生材を利用し、緩急の変化に富んだ自然な河岸を形成します。
- 堰及び落差工は、魚類等の移動を妨げないように配慮します。
- 既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。

流量配分図



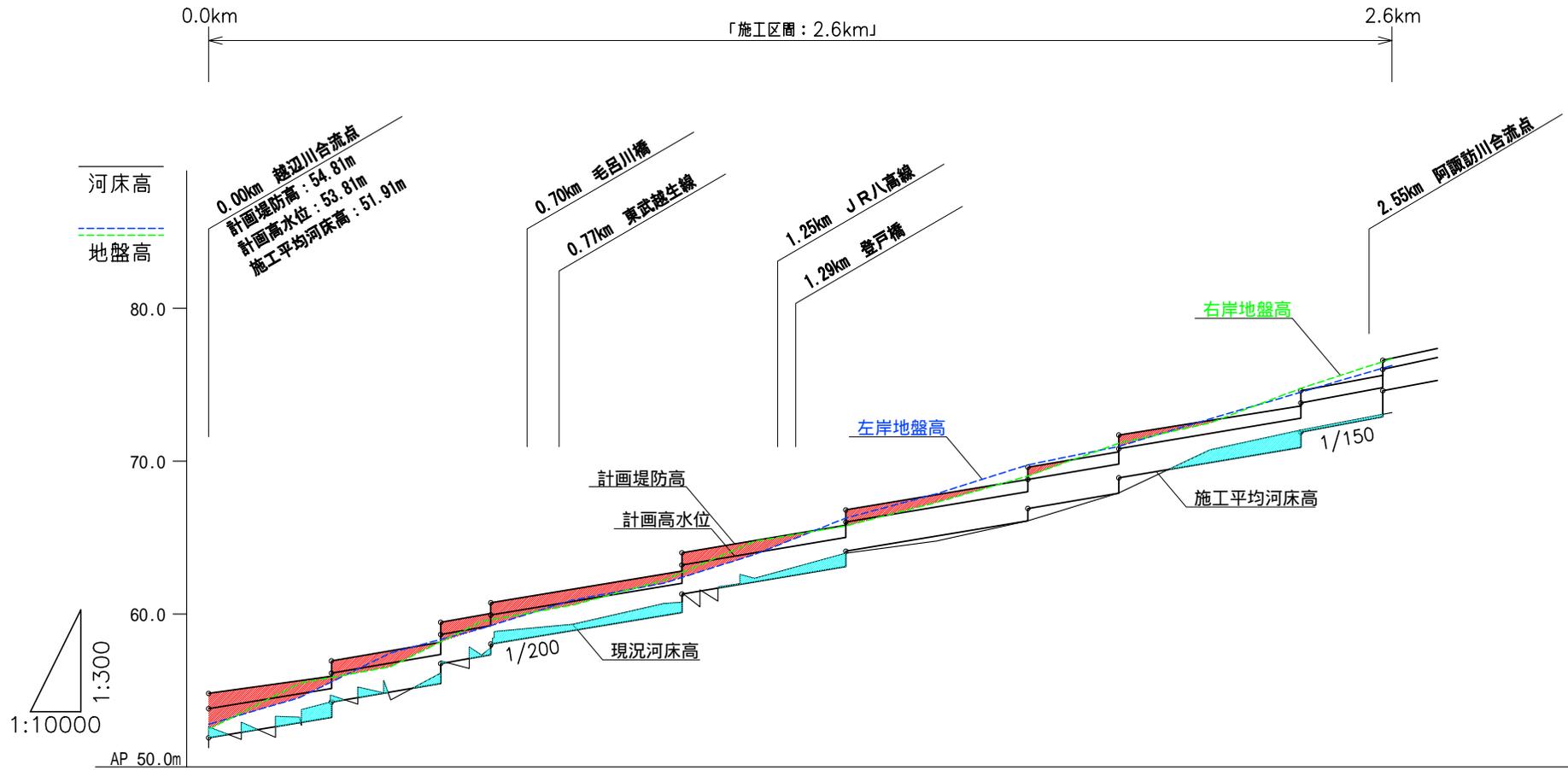


- 凡例
- 施工区間
 - 改修済み区間
 - ① 写真の視点



毛呂川整備平面図 S=1/25,000

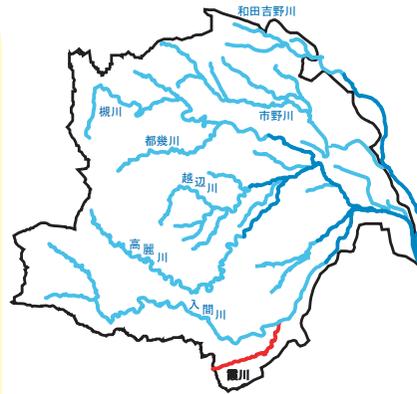
毛呂川縦断図



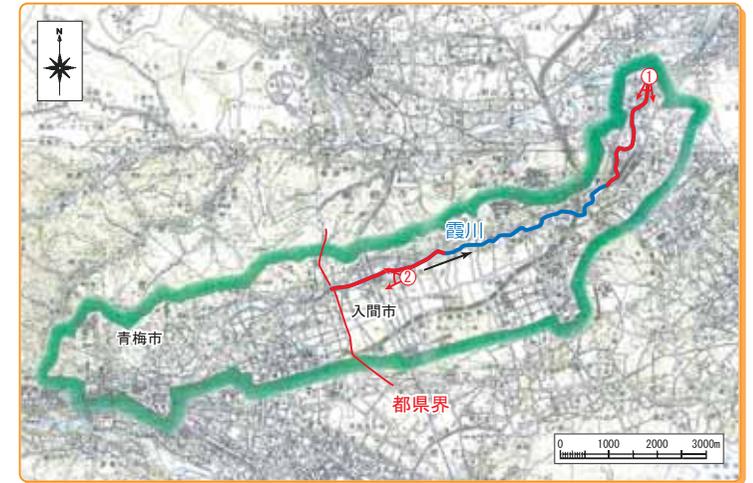
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.00 K	51.910	53.810	54.810
0.27 K	53.240 54.240	55.140 56.140	55.940 56.940
0.51 K	55.460 56.760	57.360 58.660	58.160 59.460
0.62 K	57.340 58.040	59.240 59.940	60.040 60.740
1.04 K	60.110 61.310	62.010 63.210	62.810 64.010
1.40 K	63.110 64.110	65.010 66.010	65.810 66.810
1.80 K	66.110 66.910	68.010 68.810	68.810 69.610
2.00 K	67.910 68.910	69.810 70.810	70.610 71.710
2.40 K	70.910 71.910	72.810 73.810	73.610 74.610
2.58 K	72.910 74.610	74.810 76.010	75.610 76.610

流域および河川の概要

- ・霞川は、東京都青梅市の山間部に源を発し、同市街地から埼玉県入間市の中央を貫流して入間川に合流する流域面積26.8km²、流路延長15.8kmの一級河川です。
- ・霞川の上流部は東京都区間、下流部は埼玉県区間となっていますが、水系一貫の観点から、整合の図られた治水計画が策定されています。
- ・霞川の上流部は、青梅市内を流れており、両岸はコンクリートや石積護岸により覆われているものの、川沿いに河畔林が連続しており、河川沿いの宅地の間には四季折々の花が見られます。
- ・霞川の下流部は、入間市街地付近を流れており、町並みと分断された空間となっていますが、川沿いには桜並木等があり、人々の憩いの場となっています。この付近では、南米産のバリケン(肉用鳥)が多く生息しています。



流域図



河川沿いの状況



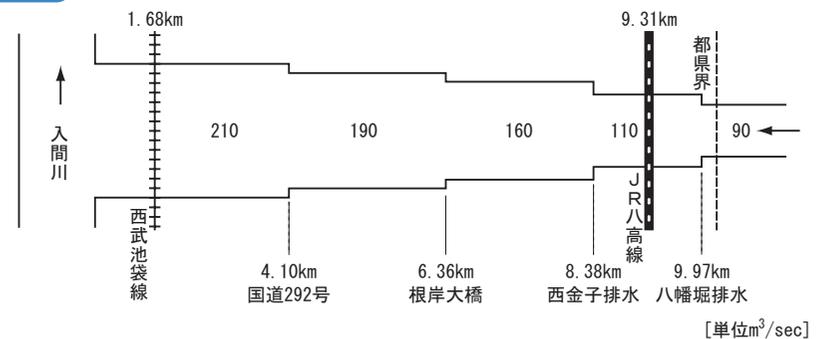
治水計画

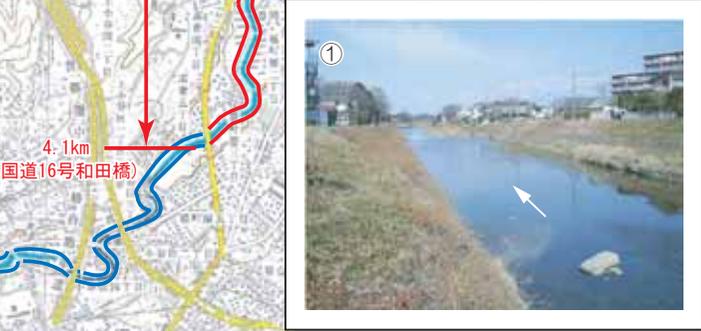
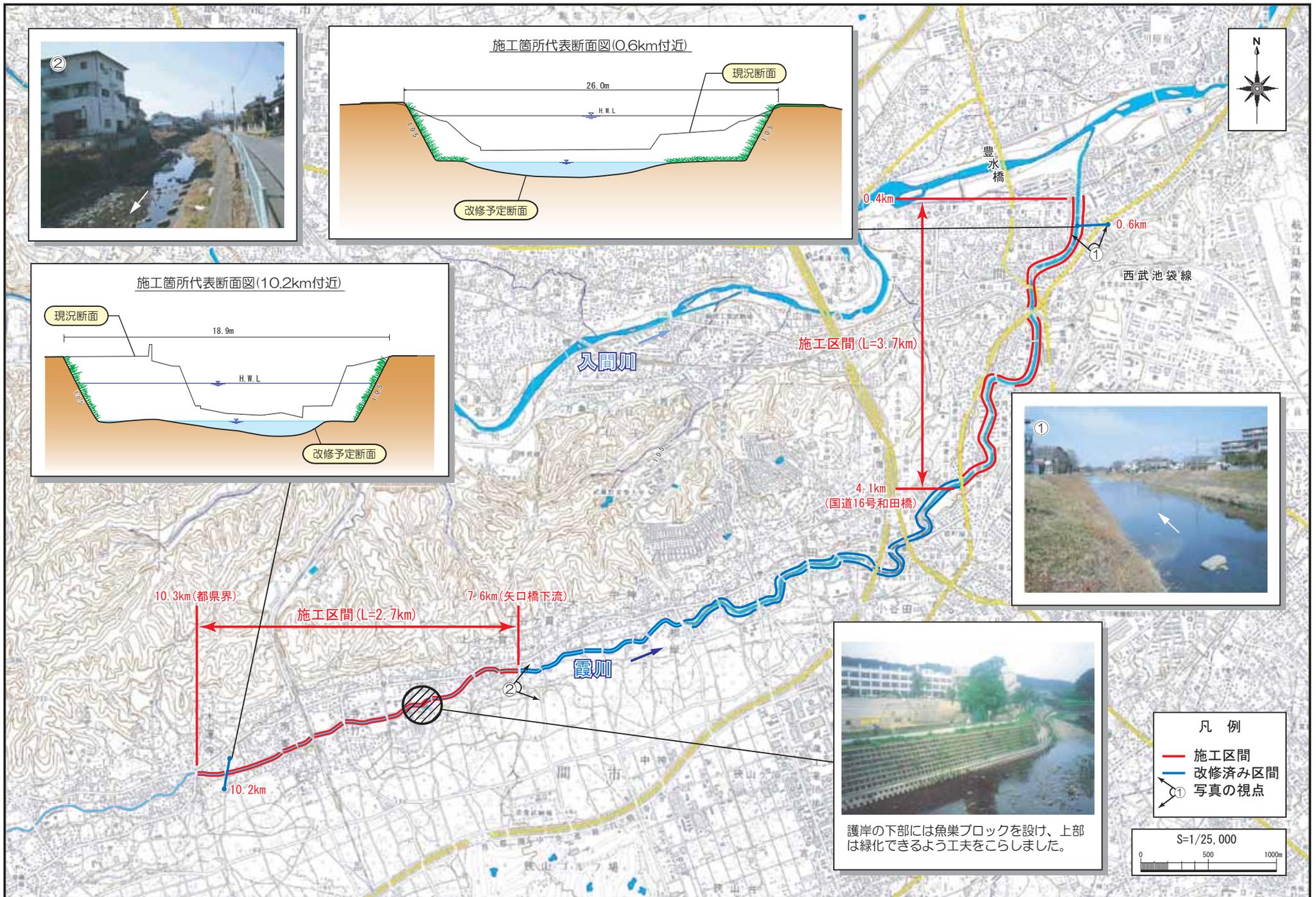
- ・治水の目標である時間雨量50mm程度の降雨に対して、浸水被害が生じないように、以下の区間で河道改修を行います。
 - ・0.4~4.1km, 7.6~10.3km(都県界)
 - ・流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

整備にあたっての配慮事項

- ・河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・河道改修にあたっては、周辺の景観との調和や、親水性に配慮します。
 - ・現地発生材を利用し、緩急の変化に富んだ自然な河岸を形成します。
- ・落差工は、魚類等の移動を妨げないように配慮します。
- ・護岸の整備にあたっては、動物の移動への配慮にも努めます。
- ・既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するよう努めます。

流量配分図

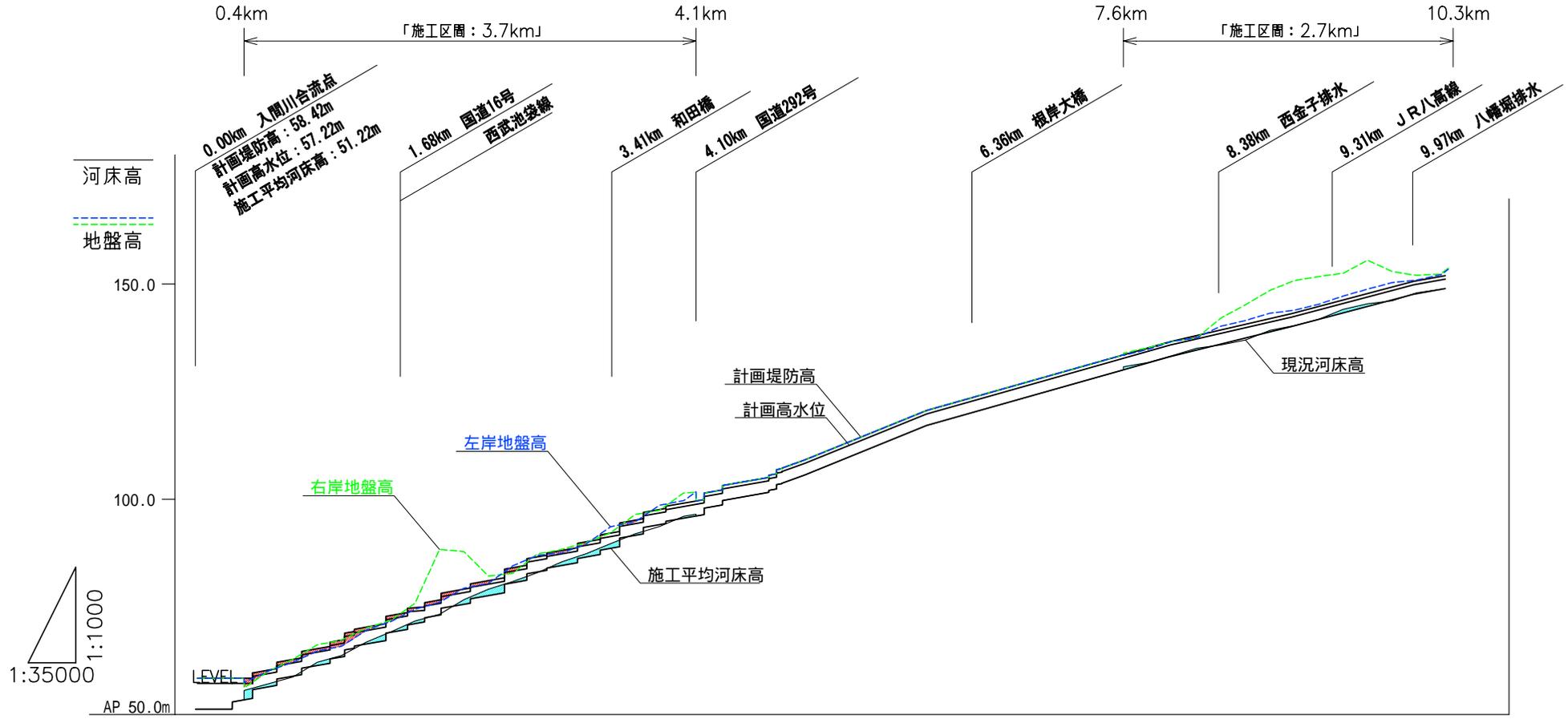




護岸の下部には魚巢ブロックを設け、上部は緑化できるよう工夫をこらしました。

霞川整備平面図 S=1/25,000

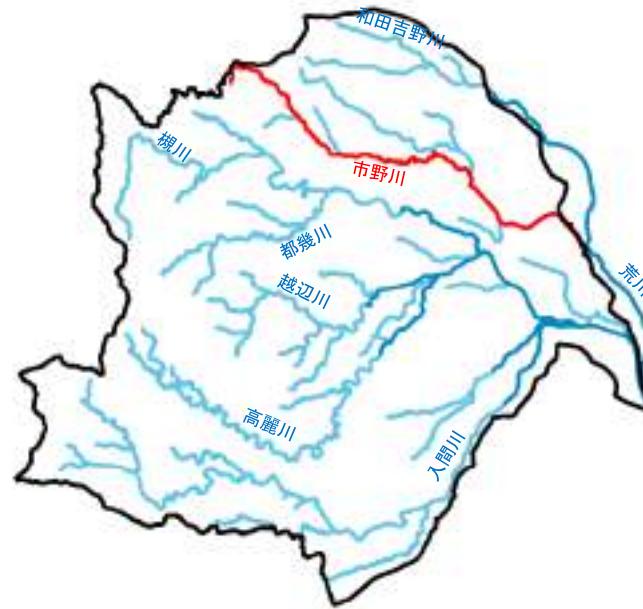
霞川縦断面図



測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0142K	51.222	57.222	58.422
0.3 K	51.222	57.222	58.422
1.0 K	61.415	64.515	65.315
2.0 K	73.115	75.815	76.615
3.0 K	84.615	87.315	88.115
4.0 K	95.615	98.315	99.115
5.0 K	105.615	108.315	109.115
6.0 K	117.115	119.815	120.615
7.0 K	125.115	127.815	128.615
8.0 K	133.115	135.815	136.615
9.0 K	140.115	142.315	143.115
10.0 K	147.615	149.815	150.615
10.26K	148.915	151.115	151.915

流域および河川の概要

- 市野川は、荒川の支川であり、寄居町牟礼付近の丘陵地帯に源を発し、中流域で東松山市の市街地を流れ、その後吉見町、川島町の水田地帯を流下し、荒川の55.6km付近（太郎右衛門橋上流）で合流します。
- 市野川の流域面積は146.6km²、流路延長は38.2kmであり、主な支川は、上流より新川、粕川、滑川、新江川の順に合流しています。
- 市野川の上流部は、里山の間広がる農耕地の中を流れており、周辺は谷地の湿地が点在する多様な環境が集約する地域となっています。
- 市野川の中流部は、嵐山町や東松山市等の市街地、農耕地や平地林の中を交互に流下します。河道内には植生が繁茂し、所々に河畔林も連続して見られます。



流域図



治水計画

- 市野川では、昭和57年9月、平成11年8月、令和元年東日本台風の際に浸水被害が生じています。このため、以下の整備を行います。

【整備内容】

- 堤防補強：0.0~6.9km
- 河道改修：6.9~29.5km
上記区間のうち、流下能力の足りない区間で河道掘削、築堤を実施
- 水辺空間整備：16.8~18.0km

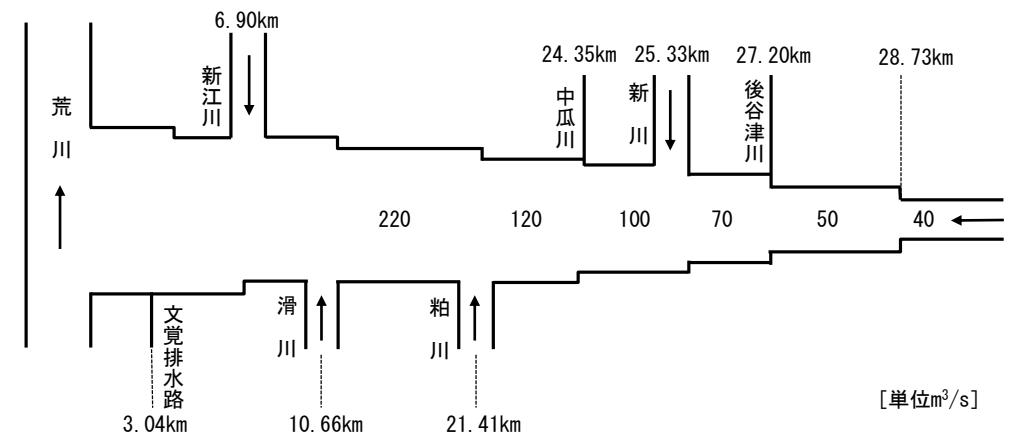
河川沿いの状況



整備にあたっての配慮事項

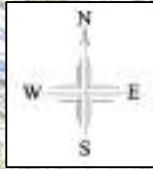
- 河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- 生態系に配慮した多自然川づくりを行います。
 - 河道の掘削においては、動植物の生息状況の把握と、従来からの環境力復元するなどの対策に努めます。
 - 現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
- 落差工は魚類等の移動に配慮します。

流量配分図



[単位m³/s]

整備平面図

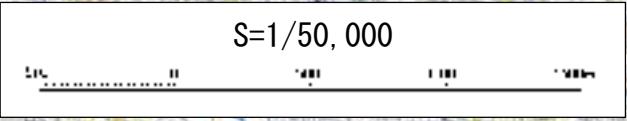
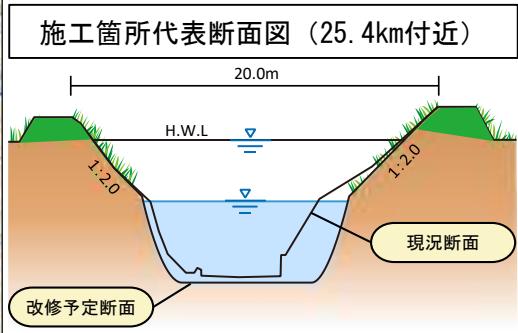


- 凡例
- 施工区間
 - ① 写真の視点

29.5m

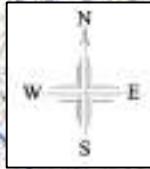
施工区間 (L=22.6km)

25.4m

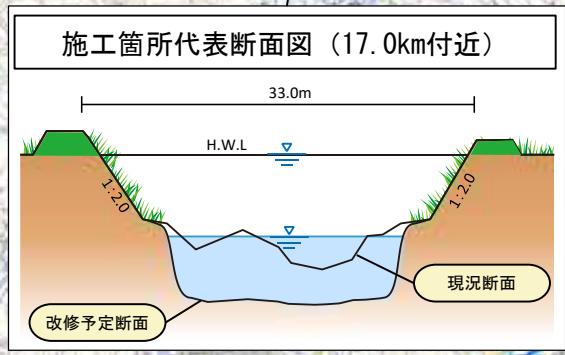
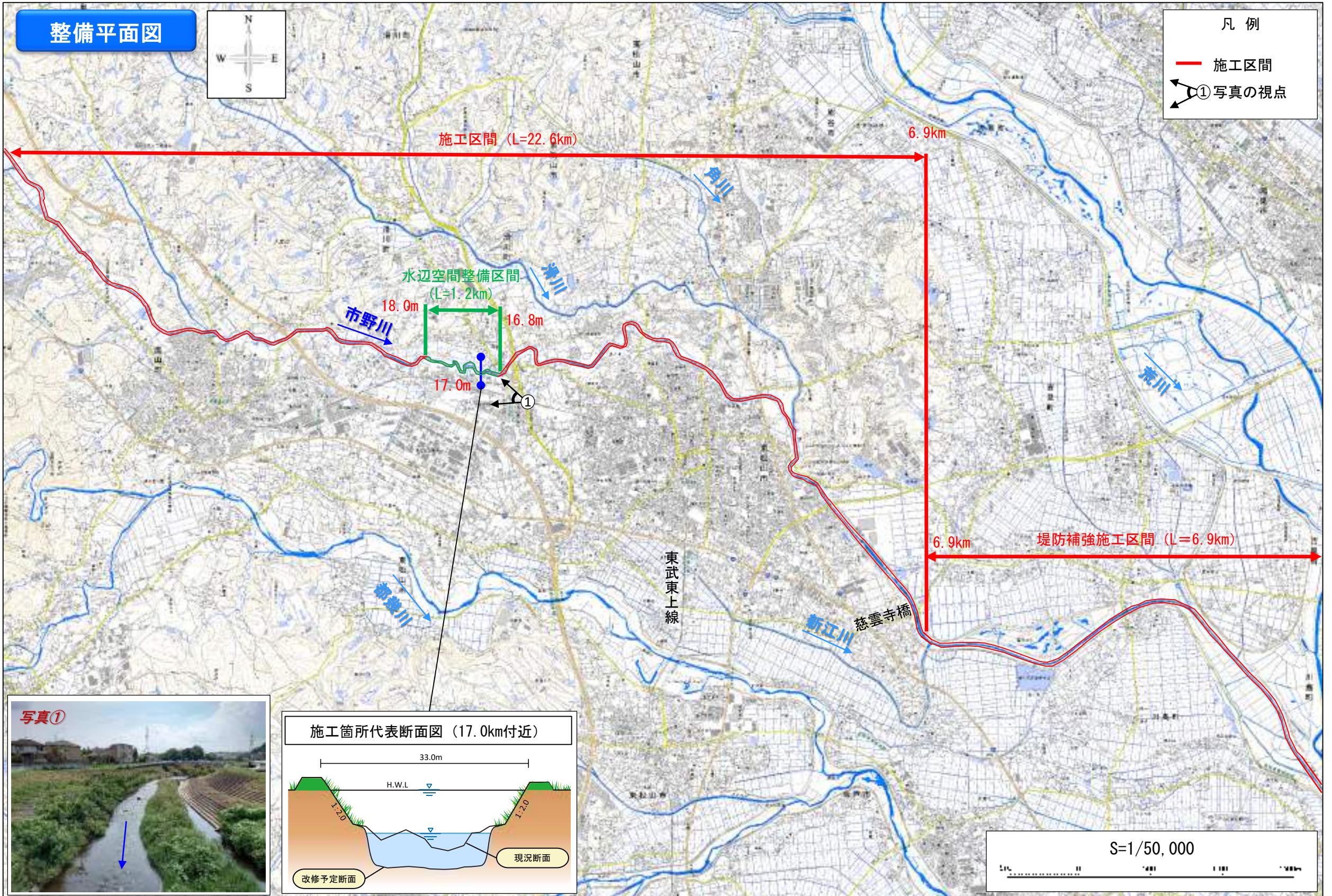


市野川整備平面図1/3 S=1/50,000

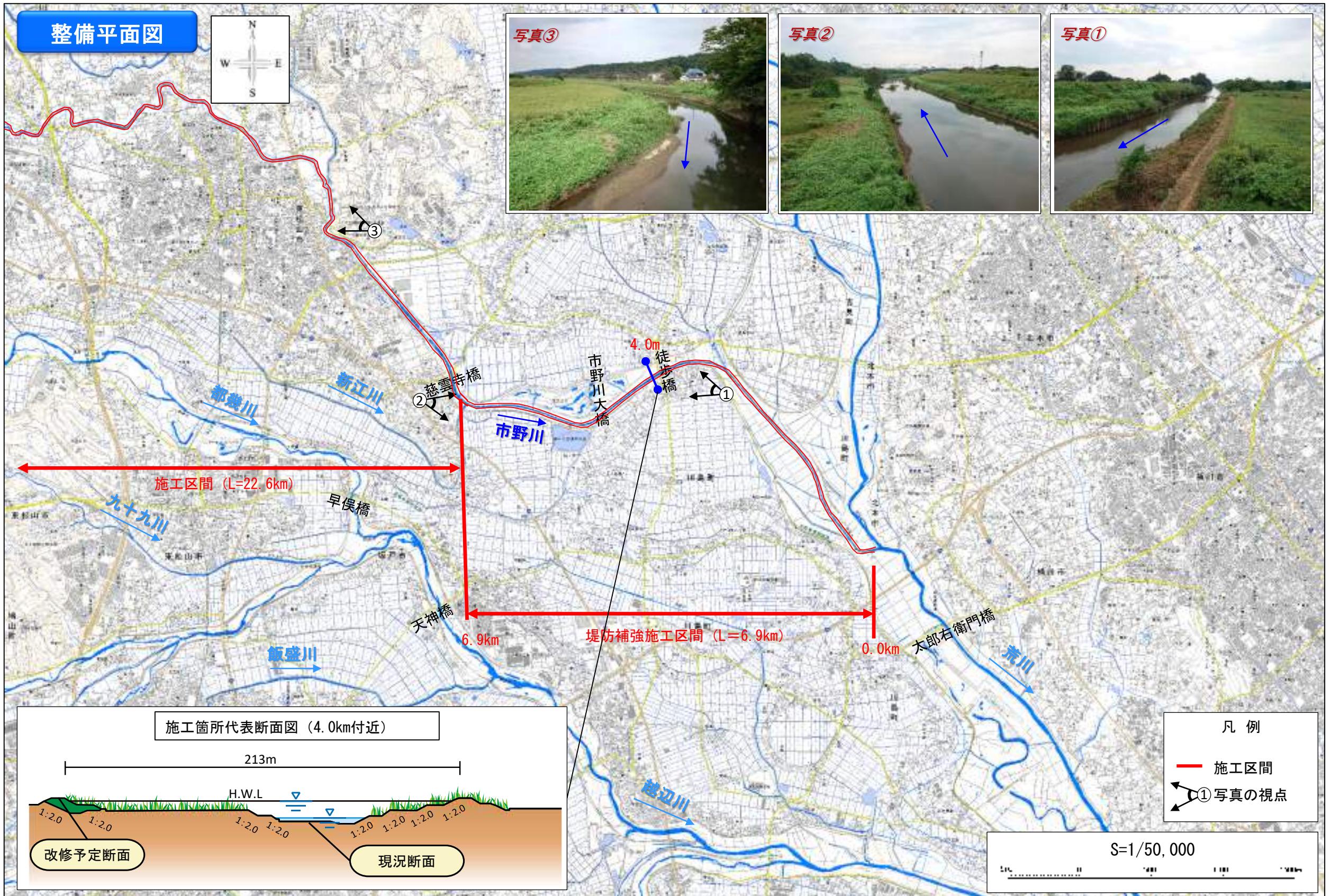
整備平面図



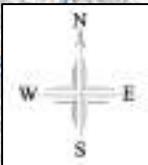
- 凡例
- 施工区間
 - ① 写真の視点



市野川整備平面図2/3 S=1/50,000



整備平面図



施工区間 (L=22.6km)

堤防補強施工区間 (L=6.9km)

施工箇所代表断面図 (4.0km付近)

213m

H.W.L.

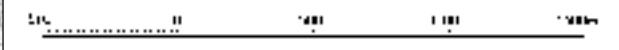
改修予定断面

現況断面

凡例

- 施工区間
- ① 写真の視点

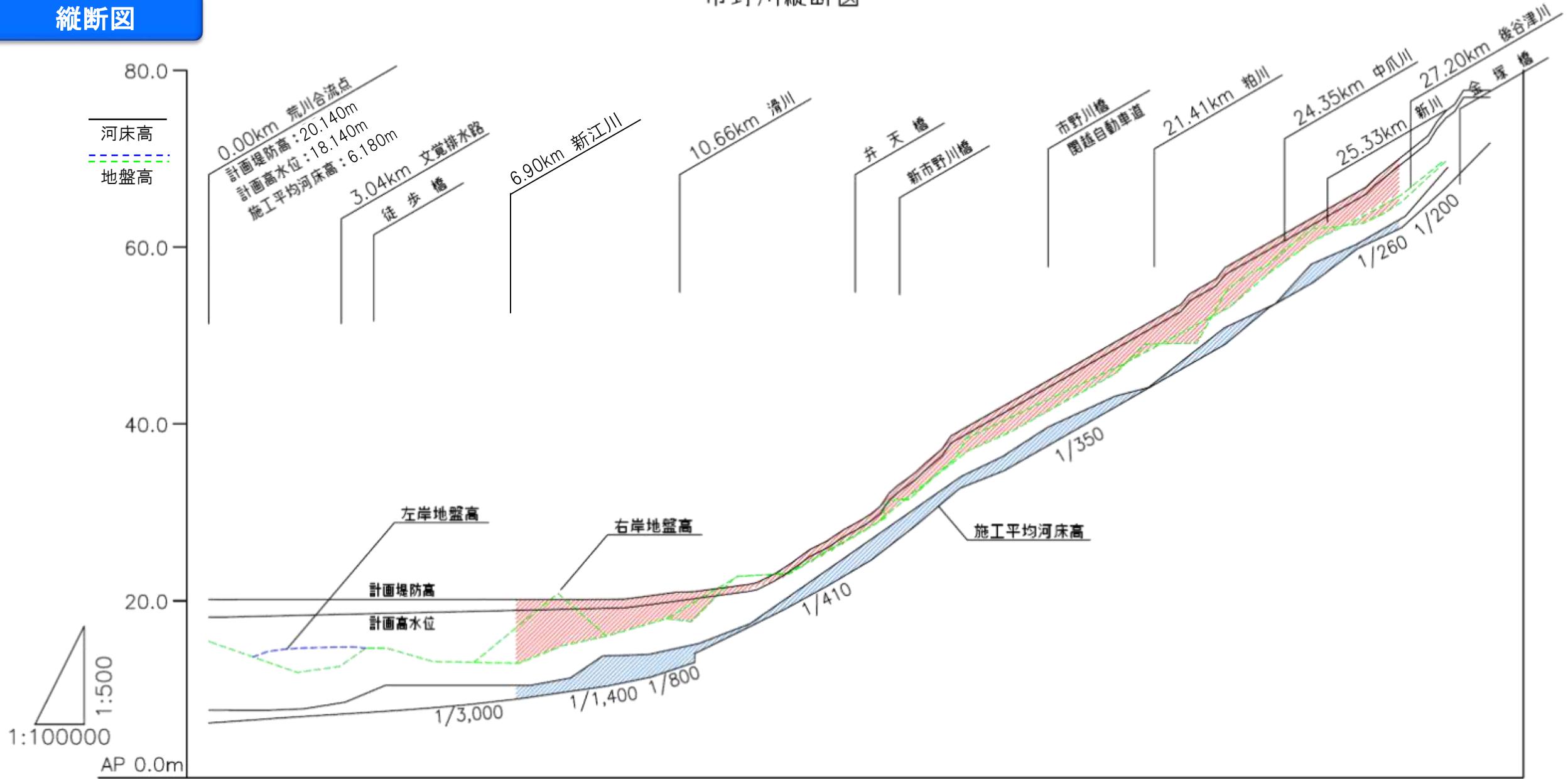
S=1/50,000



市野川整備平面図3/3 S=1/50,000

縦断図

市野川縦断図



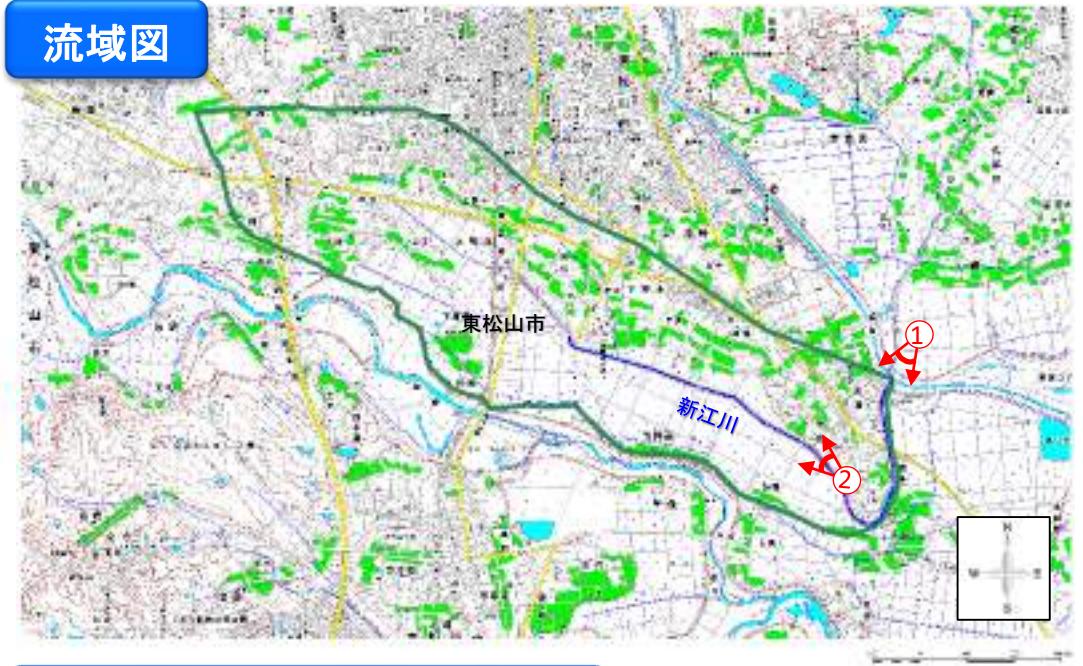
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0K	6.180	18.140	20.140
1.0K	6.520	18.230	20.142
2.0K	6.860	18.340	20.142
3.0K	7.190	18.460	20.142
4.0K	7.520	18.570	20.142
5.0K	7.860	18.690	20.142
6.2K	8.330	18.830	20.142
7.0K	8.900	18.920	20.142
8.0K	9.620	19.030	20.142
9.0K	10.330	19.150	20.150
10.0K	11.350	19.570	20.570
11.0K	14.030	20.240	21.040
12.0K	16.470	20.910	21.710
13.0K	18.940	22.640	23.440
14.0K	21.680	25.380	26.180
15.0K	24.630	28.330	29.130
16.0K	28.500	32.230	33.030
17.0K	32.720	36.520	37.320
18.0K	34.710	38.410	39.210
19.0K	37.560	41.260	42.060
20.0K	40.420	44.120	44.920
21.0K	43.280	46.980	47.780
22.0K	46.140	49.840	50.640
23.0K	48.510	52.690	53.490
24.0K	51.870	56.870	57.670
25.0K	54.720	59.720	60.520
26.0K	57.760	62.570	63.370
27.0K	60.890	65.430	66.230
28.0K	65.090	69.400	70.000
29.0K	71.580	73.980	74.580

流域および河川の概要

- 新江川は、東松山市の中心市街地の南側を源とし、同市の古凍地先において、市野川の右岸に合流する流域面積10.9km²、流路延長3.4kmの一級河川です。
- 新江川の上流域は丘陵地帯となっており、中流域から下流域の左岸側は、斜面に沿った住宅地であり、対する右岸側は水田地帯となっています。
- 新江川の上流から中流は、水田の中を流れる直線区間の多い農業用水路的な景観となっていますが、河道の中には植生が繁茂しています。
- 新江川の下流は、蛇行が見られるようになり、所々に河畔林も連続しています。



流域図



治水計画

- 新江川は河道改修済みですが、令和元年東日本台風の際に、市野川の背水の影響により浸水被害が生じました。このため、新江川と市野川の合流点において以下の整備を行います。

【整備内容】

- 調節池等整備
- 排水機場の設置

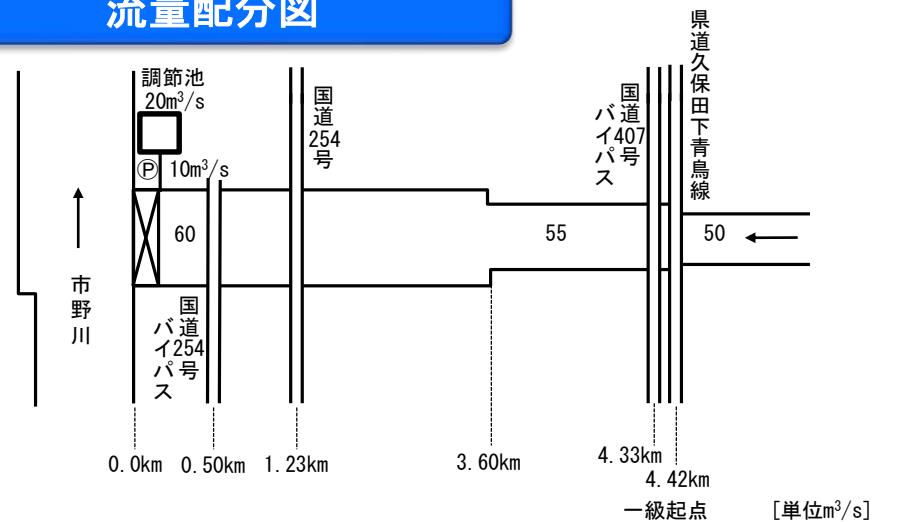
河川沿いの状況



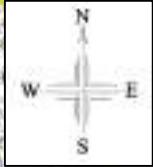
整備にあたっての配慮事項

- 生態系に配慮した多自然川づくりを行います。
 - 調節池の整備や排水機場の設置においては、動植物の生息状況の把握と、必要に応じた回避・移植などの対策に努めます。
 - 現地発生材を利用し、緩急の変化に富んだ自然な河岸を形成します。
- 市野川との連続性を確保するなど、周辺の生態系に配慮して合流点処理を行います。

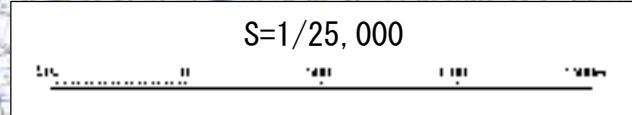
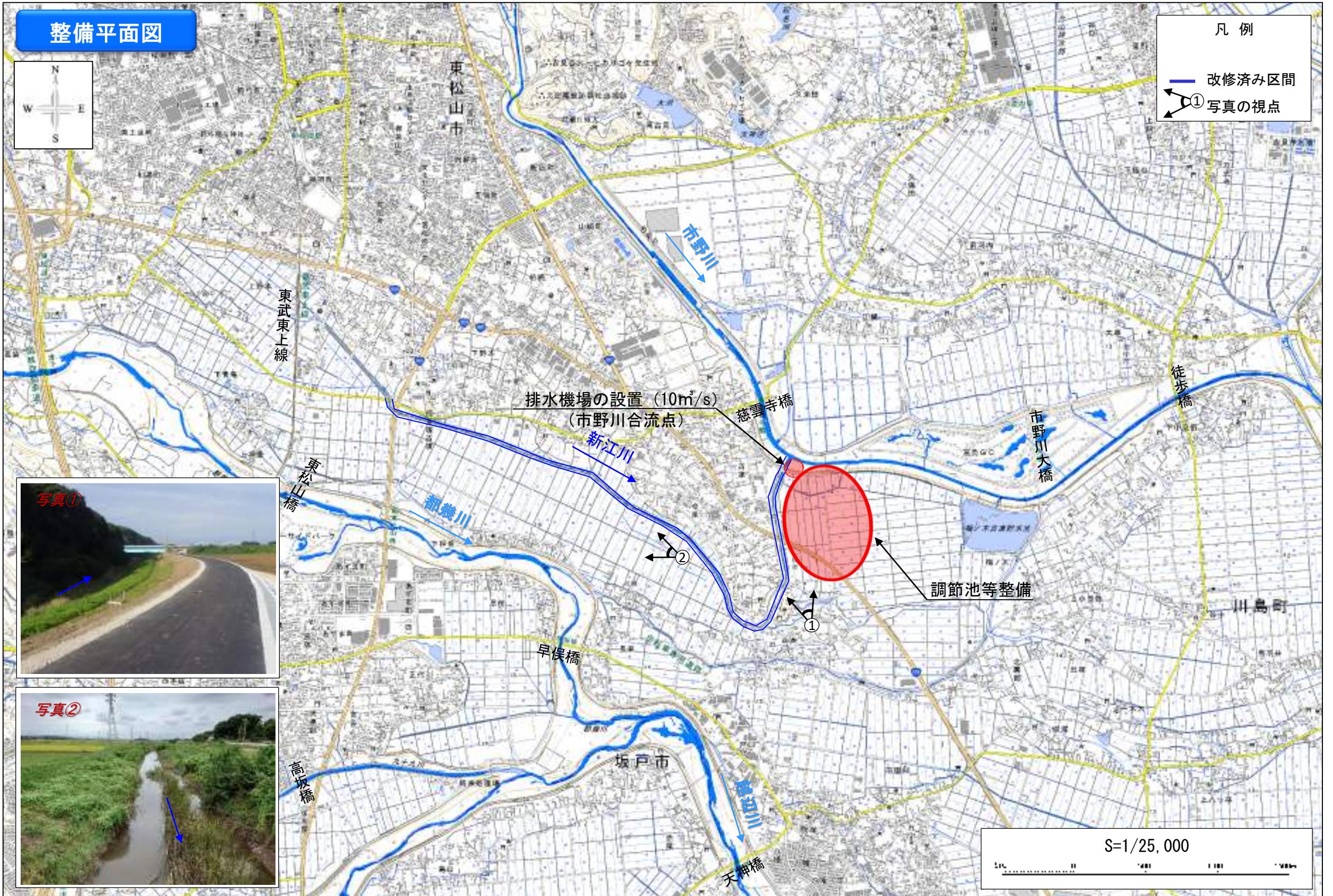
流量配分図



整備平面図



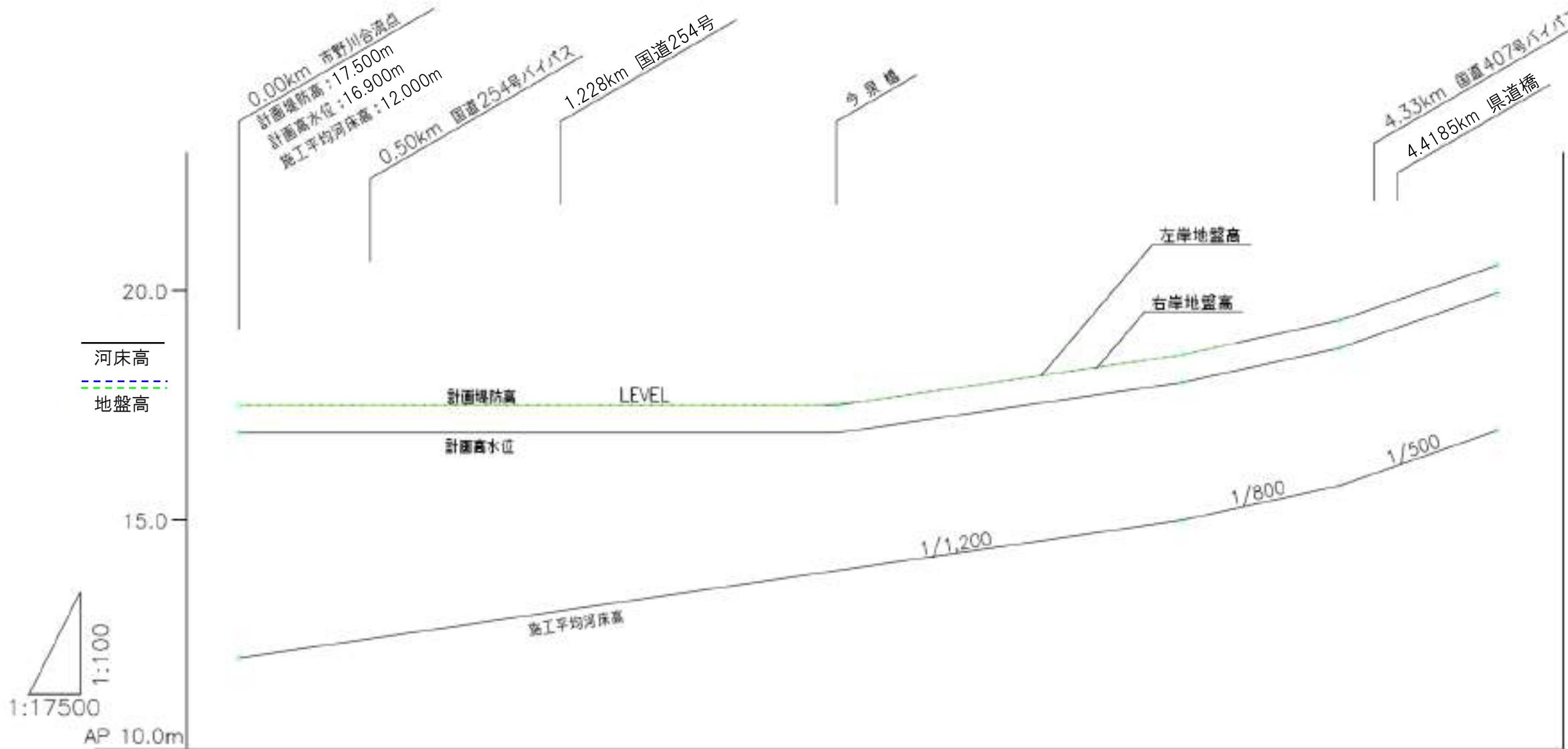
- 凡例
- 改修済み区間
 - 写真の視点



新江川整備平面図 S=1/25,000

縦断図

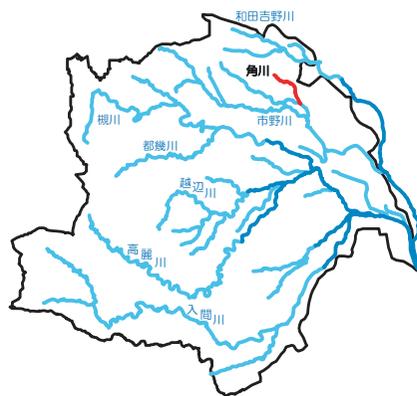
新江川縦断図



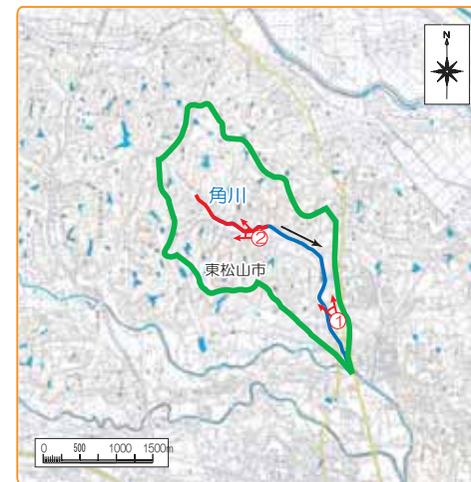
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0K	12.000	16.900	17.500
0.4K	12.332	16.900	17.500
0.8K	12.666	16.900	17.500
1.2K	13.000	16.900	17.500
1.6K	13.332	16.900	17.500
2.0K	13.666	16.900	17.500
2.28K	13.900	16.900	17.500
2.4K	14.000	17.000	17.600
2.8K	14.332	17.332	17.932
3.2K	14.666	17.666	18.266
3.6K	15.000	18.000	18.600
4.0K	15.500	18.500	19.100
4.2K	15.750	18.75	19.350
4.4185K	16.187	19.187	19.787
4.8K	16.950	19.950	20.550

流域および河川の概要

- 角川は、その源を東松山市大字大谷付近に発し、丘陵地の低平地部を流下し、東松平橋(国道407号)の直下流で、市野川に合流する流域面積5.5km²、流路延長3.8kmの一級河川です。
- 角川の流域内は、全般になだらかな丘陵地で、水田耕作用の溜池が点在しています。また、ゴルフ場の開発や土地区画整理事業等による整備が進んでいます。
- 角川の上流部は、丘陵地間の水田地帯を流れており、直線区間の多い農業用水路の様な景観となっています。
- 角川の下流部は、水田や宅地、平地林の間を緩やかに蛇行しながら流れており、メダカ等の魚類もたくさん生息しています。



流域図



河川沿いの状況



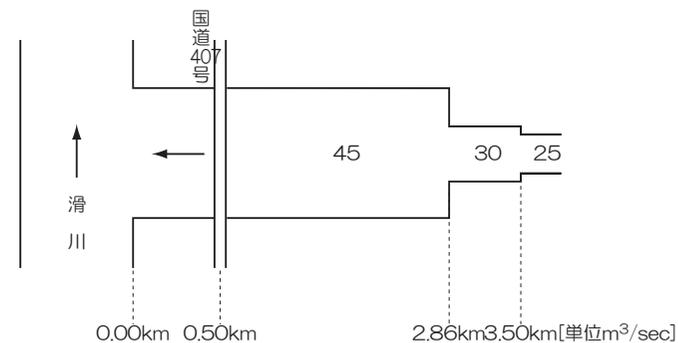
治水計画

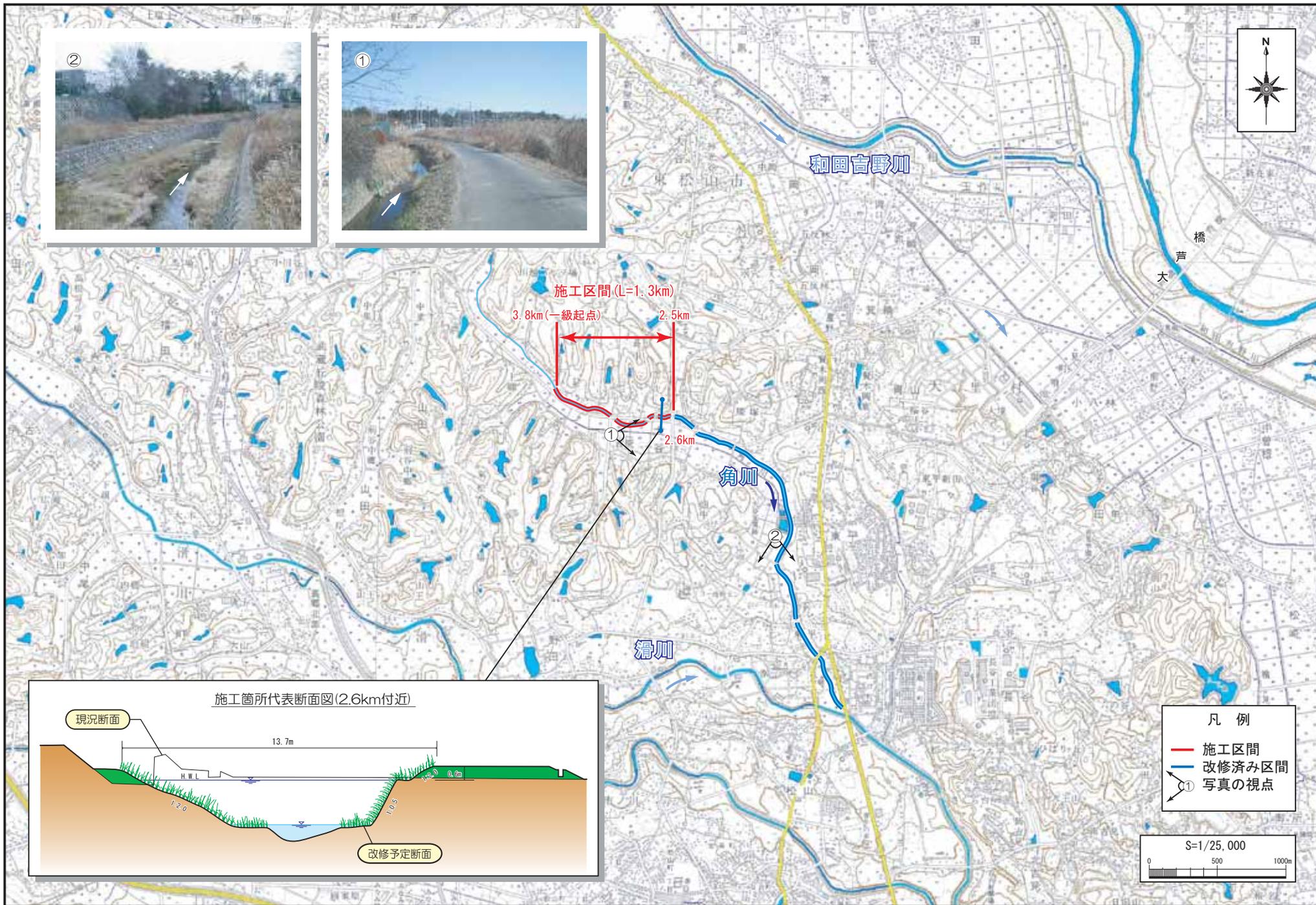
- 角川では、昭和57年9月の洪水の際に、河道の流下能力不足による浸水被害が生じています。
- このため、以下の区間で河道改修を行い、治水目標である時間雨量50mm程度の降雨に対して、浸水被害が生じないようにします。
 - 2.5~3.8km(一級河川上流端)
 - 流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

整備にあたっての配慮事項

- 河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- 生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - 河道の掘削においては、動植物の生息状況の把握と、従来からの環境を極力復元するなどの対策に努めます。
 - 現地発生材を利用し、緩急の変化に富んだ自然な河岸を形成します。

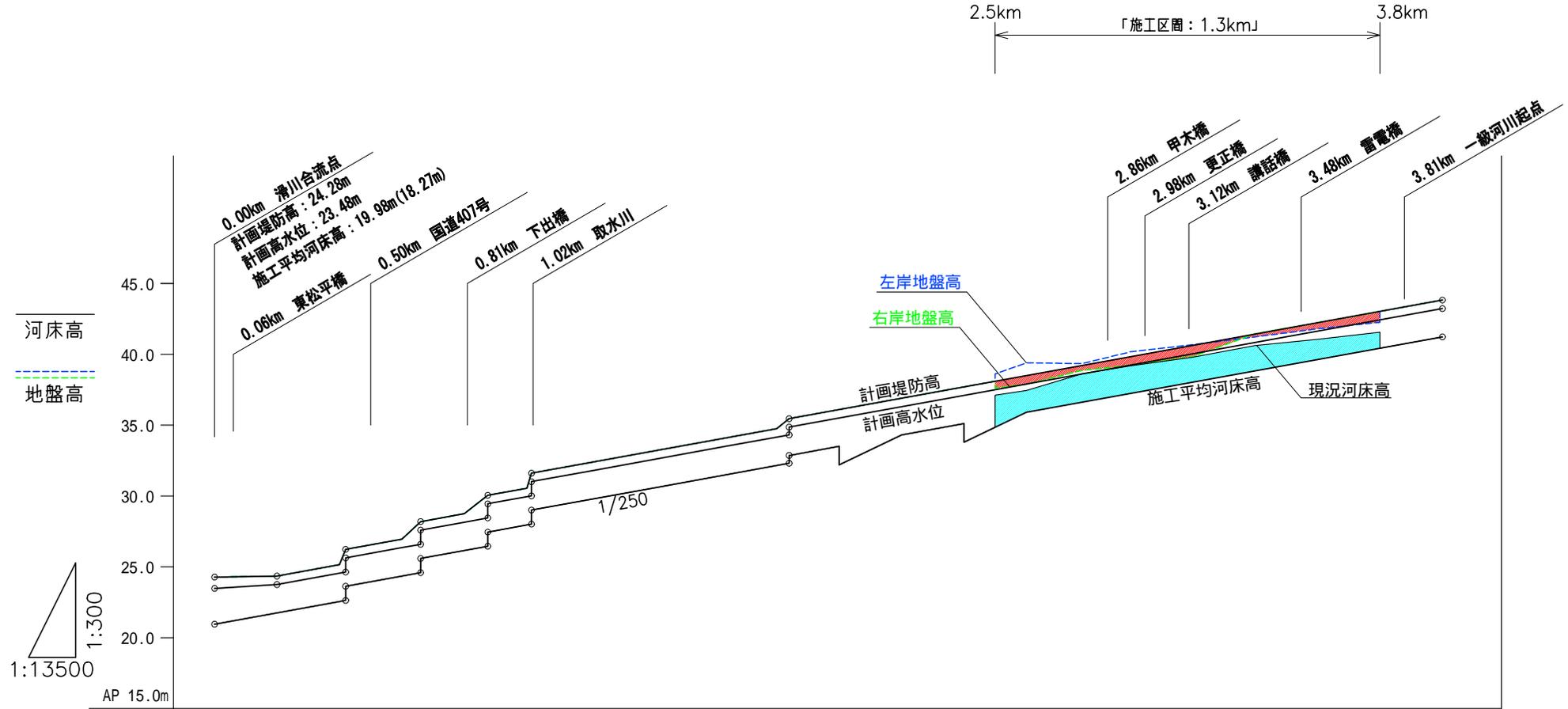
流量配分図





角川整備平面図 S=1/25,000

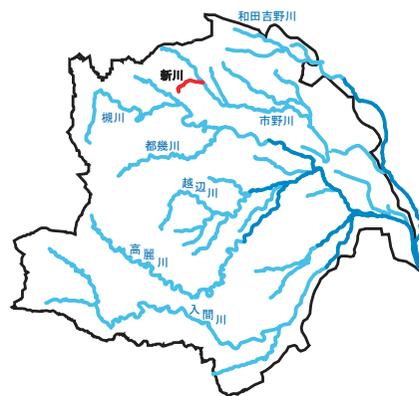
角川縦断図



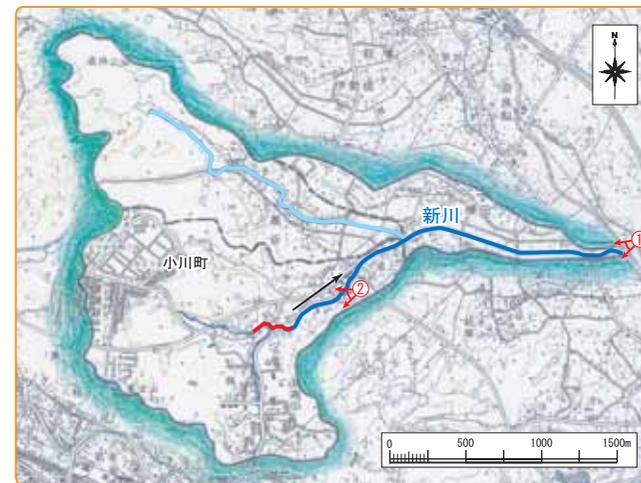
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0 K	20.950	23.475	24.275
0.2 K	21.750	23.750	24.350
0.4 K +20.0	22.550 22.630 23.630	24.550 24.630 25.630	25.150 25.630
0.6 K +60.0	24.350 24.590 25.590	26.350 26.590 27.590	26.950 28.190
0.8 K +75.0	26.150 26.450 27.450	28.150 28.450 29.450	28.750 30.050
1.0 K +15.0	27.950 28.010 29.010	29.950 30.010 31.010	30.550 31.610
1.2 K	29.750	31.750	32.350
1.4 K	30.550	32.550	33.150
1.6 K	31.350	33.350	33.950
1.8 K +40.0	32.150 32.310 32.860	34.150 34.310 34.860	34.750 35.480
2.0 K	33.500 32.200	35.500	36.100
2.2 K	34.300	36.300	36.900
2.4 K	35.100 33.800	37.100	37.700
2.6 K	35.900	37.900	38.500
2.8 K	36.612	38.612	39.212
3.0 K	37.228	39.228	39.828
3.2 K	38.028	40.028	40.628
3.4 K	38.828	40.828	41.428
3.6 K	39.628	41.628	42.228
3.8 K	40.428	42.428	43.028

流域および河川の概要

- ・新川は、市野川の支川であり、市野川の上流5.3km地点で合流する流域面積4.0km²、流路延長2.6kmの一級河川です。
- ・新川の上流域は、ほとんどが丘陵地となっており、一方下流域は、ほとんどが水田等の農耕地となっています。
- ・新川の上流部は、丘陵地の森林に沿って流れ、中流部では、田畑や平地林が混在する集落に沿って流下し、下流部では、水田の中を貫流しています。中流部から下流部にかけては直線区間が多く、比較的単調な景観となっています。



流域図



河川沿いの状況



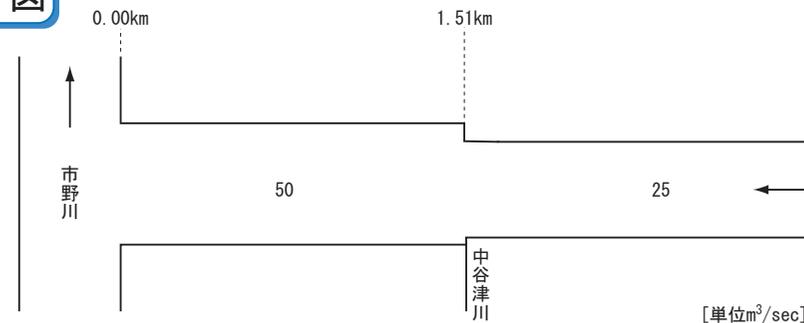
治水計画

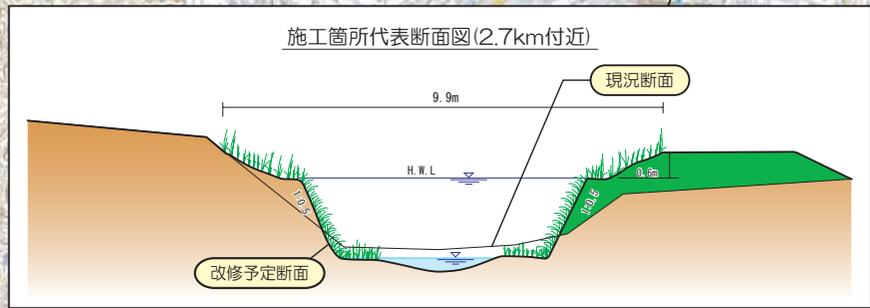
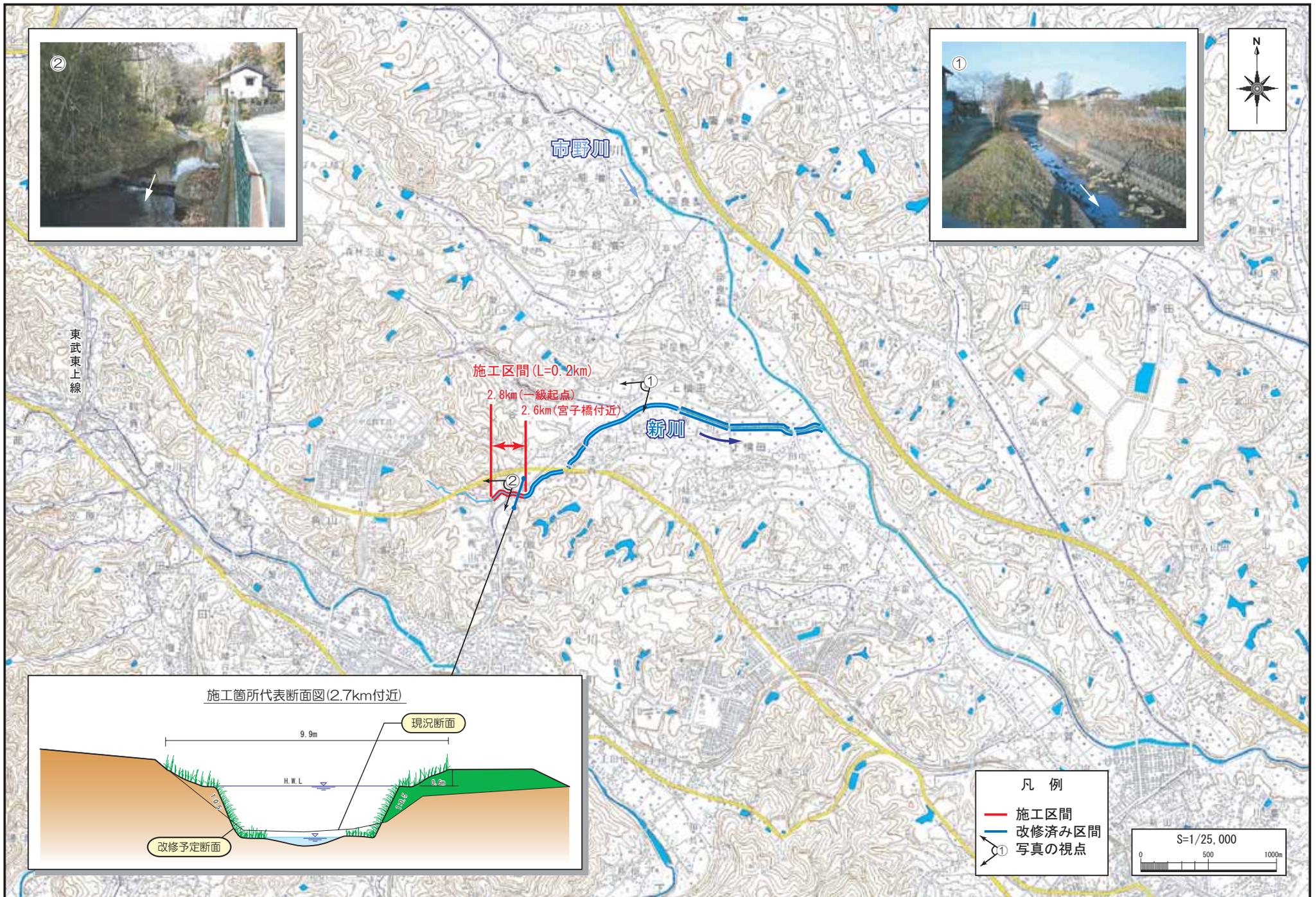
- ・新川では、治水目標となる時間雨量50mm程度の降雨に対して浸水被害が生じないように、以下の区間で河道改修を行います。
 - ・2.6~2.8km(一級河川上流端)
 - ・流下能力の足りない区間：河床掘削、築堤

整備にあたっての配慮事項

- ・河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・河道の掘削においては、動植物の生息状況の把握と、従来からの環境を極力復元するなどの対策に努めます。
 - ・現地発生材を利用し、緩急の変化に富んだ自然な河岸を形成します。
- ・護岸の整備にあたっては、動物の移動への配慮にも努めます。

流量配分図

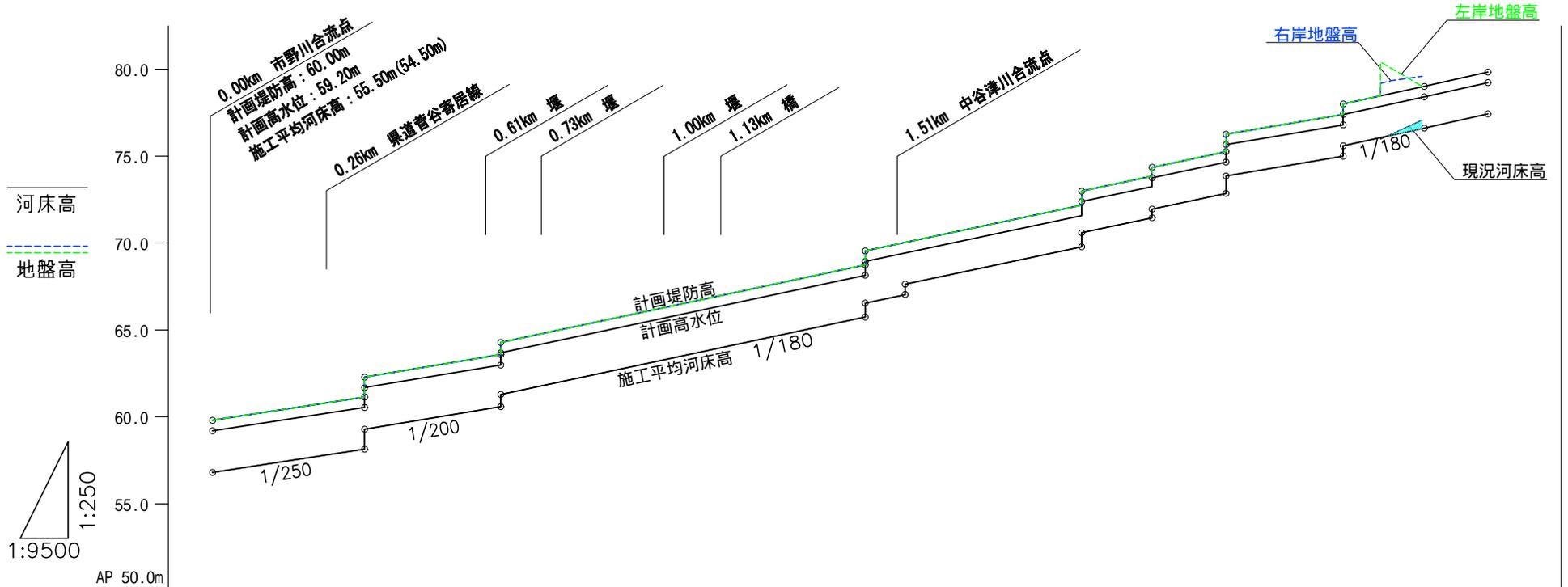




新川整備平面図 S=1/25,000

新川縦断面図

2.6km
2.8km
「施工区間：0.2km」



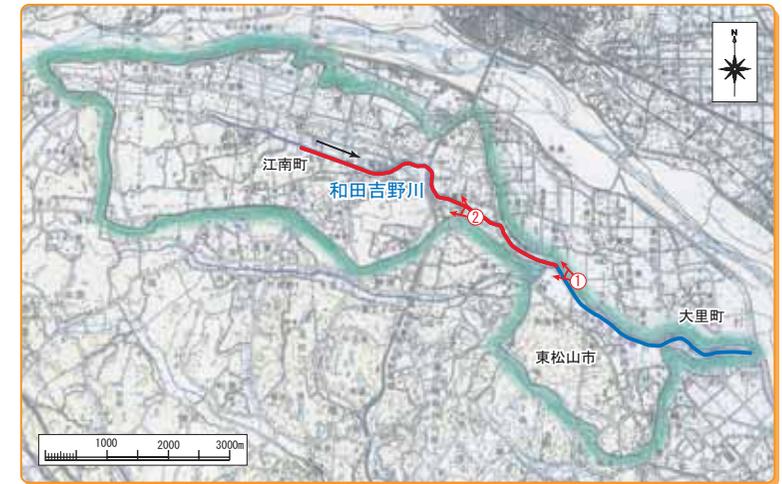
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0 K	56.799	59.199	60.000
0.34K	58.139	60.539 (61.685)	61.140 (62.290)
0.64K	60.785	62.985 63.685	63.590 64.290
1.0 K	63.485	65.685	66.290
1.443K	65.944	68.144 68.944	68.740 69.540
1.531K	67.233	69.433	70.030
1.920K	69.794	71.584 72.394	72.180 72.990
2.074K	71.455	73.255 73.755	73.860 74.360
2.238K	72.864	74.664 75.664	75.260 76.240
2.496K	75.000	76.800 77.400	77.400 78.000
2.670K	76.616	78.416	79.020
2.810K	77.435	79.233	79.841

流域および河川の概要

- ・和田吉野川は、比企丘陵の北斜面を荒川中流部右岸堤に囲まれた流域面積34.3km²、流路延長11.2kmの一級河川です。
- ・和田吉野川は、玉作水門を経て、荒川堤外地に入り、背割堤を通じて荒川に合流します。
- ・荒川右岸に隣接する大里町を中心とした下流部の低平地は、荒川の洪水敷より低く、内水被害の生じやすい特徴を有しています。
- ・和田吉野川の上流部は、丘陵地の裾を右岸側に接して流れており、一方左岸側は水田地帯となっています。河道内は植生が繁茂していますが、直線区間が多く、丘陵部の縁を流れる箇所の上流側には良好な斜面林がある他は、比較的単調な河川景観となっています。
- ・和田川との合流後は、河幅が広くなり、水田の中を九頭竜川や通殿川と平行して流れる整備された景観となっています。



流域図



河川沿いの状況



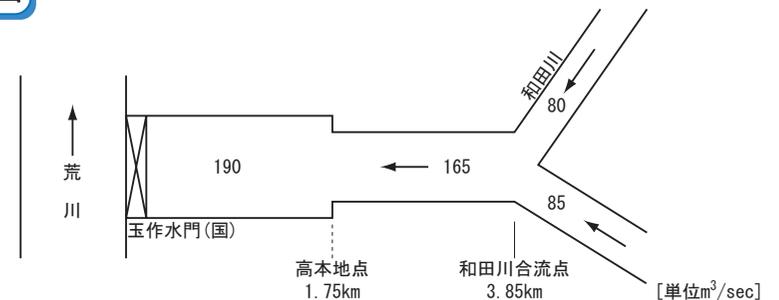
治水計画

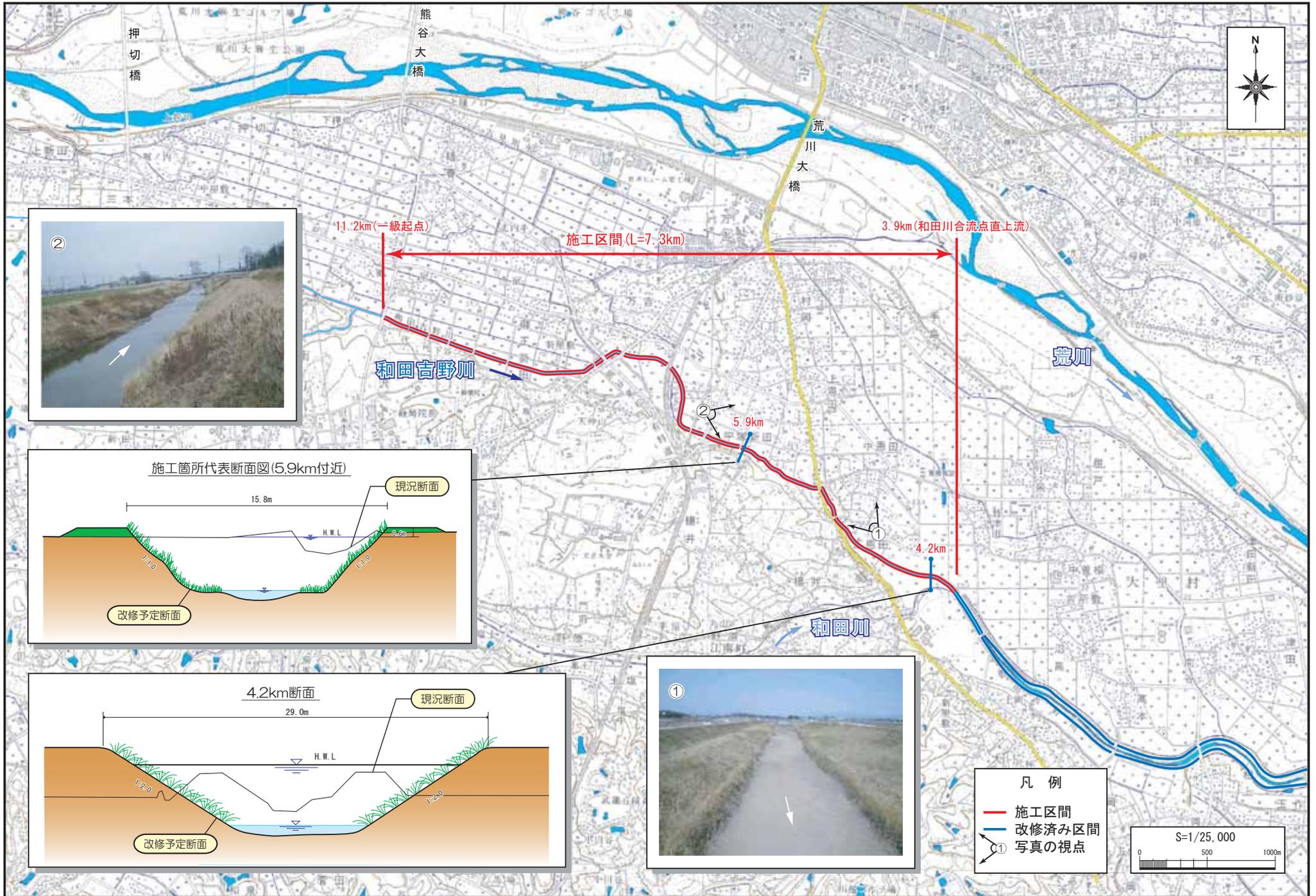
- ・和田吉野川では、昭和57年9月の洪水の際に、流下能力不足や内水による浸水被害が生じています。
- ・このため、下流から和田川合流点まで整備を進めてきましたが、これに加え、以下の区間で河道改修を行い、治水目標となる時間雨量50mm程度の降雨に対して、浸水被害が生じないようにします。
 - ・3.9~11.2 km(一級河川上流端)
 - ・流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

整備にあたっての配慮事項

- ・河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・河道の掘削においては、動植物の生息状況の把握と、従来からの環境を極力復元するなどの対策に努めます。
 - ・現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
- ・既存の良好な河岸の斜面林を極力保全するように努めます。
- ・堰、落差工は魚類等の移動に配慮します。

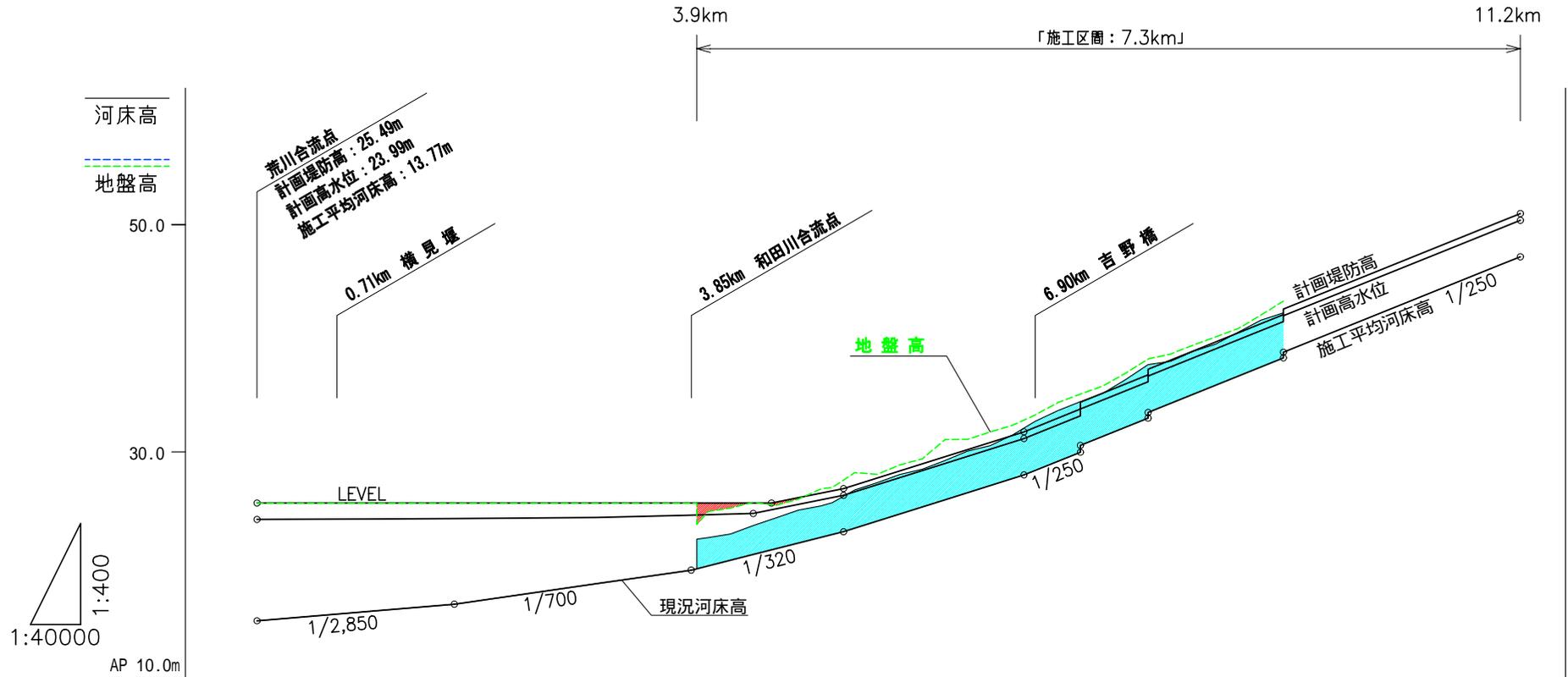
流量配分図





和園吉野川整備平面図 S=1/25,000

和田吉野川縦断面図



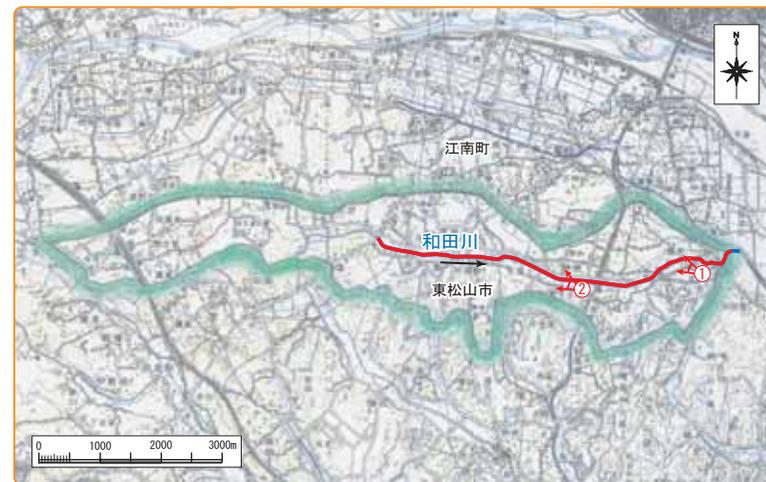
測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0 K	15.134	24.053	25.494
1.0 K	15.967	24.090	25.494
1.75K	16.592	24.131	25.494
3.0 K	18.378	24.227	25.494
3.85K	19.592	24.429	25.494
4.4 K	20.967	24.573	25.494
5.2 K	22.967	26.167	26.767
6.1 K	25.780	28.980	29.580
6.8 K	27.967	31.167	31.767
7.3 K	29.967 30.567	33.167 33.767	33.767 34.367
7.9 K	32.967 33.467	36.167 36.667	36.767 37.267
9.1 K	38.267 38.767	41.467 41.967	42.067 42.567
10.0 K	42.367	45.567	46.167
11.0 K	46.367	49.567	50.167

流域および河川の概要

- ・和田川は、和田吉野川の支川で、流域面積14.4km²、流路延長9.0kmの一級河川です。
- ・和田川は、比企丘陵の溜池を主な源とし、丘陵地を流れ大里町で和田吉野川と合流します。
- ・流域内には、多くの溜池（水田灌漑用）や寺、古墳群があり、古くから人が住んでいた地域と言えます。また、武蔵丘陵森林公園やゴルフ場があります。
- ・和田川は、丘陵地の間を流れており、沿川の大部分には水田が広がり、その中で河畔林や宅地が所々に分布しています。
- ・河道については、河岸がコンクリートブロックで改修され、河床は平滑化しており、生物の生息・生育にとって良好とは言えない状況にあります。



流域図



河川沿いの状況



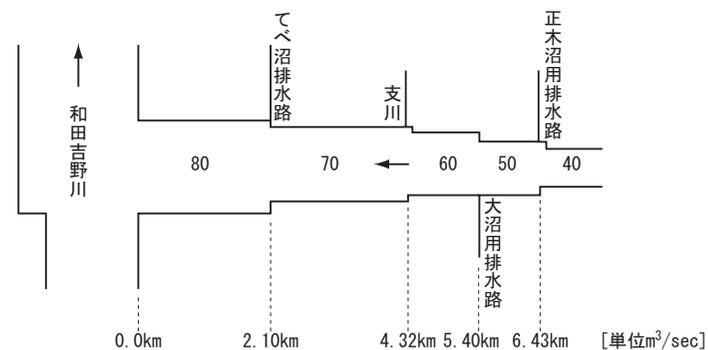
治水計画

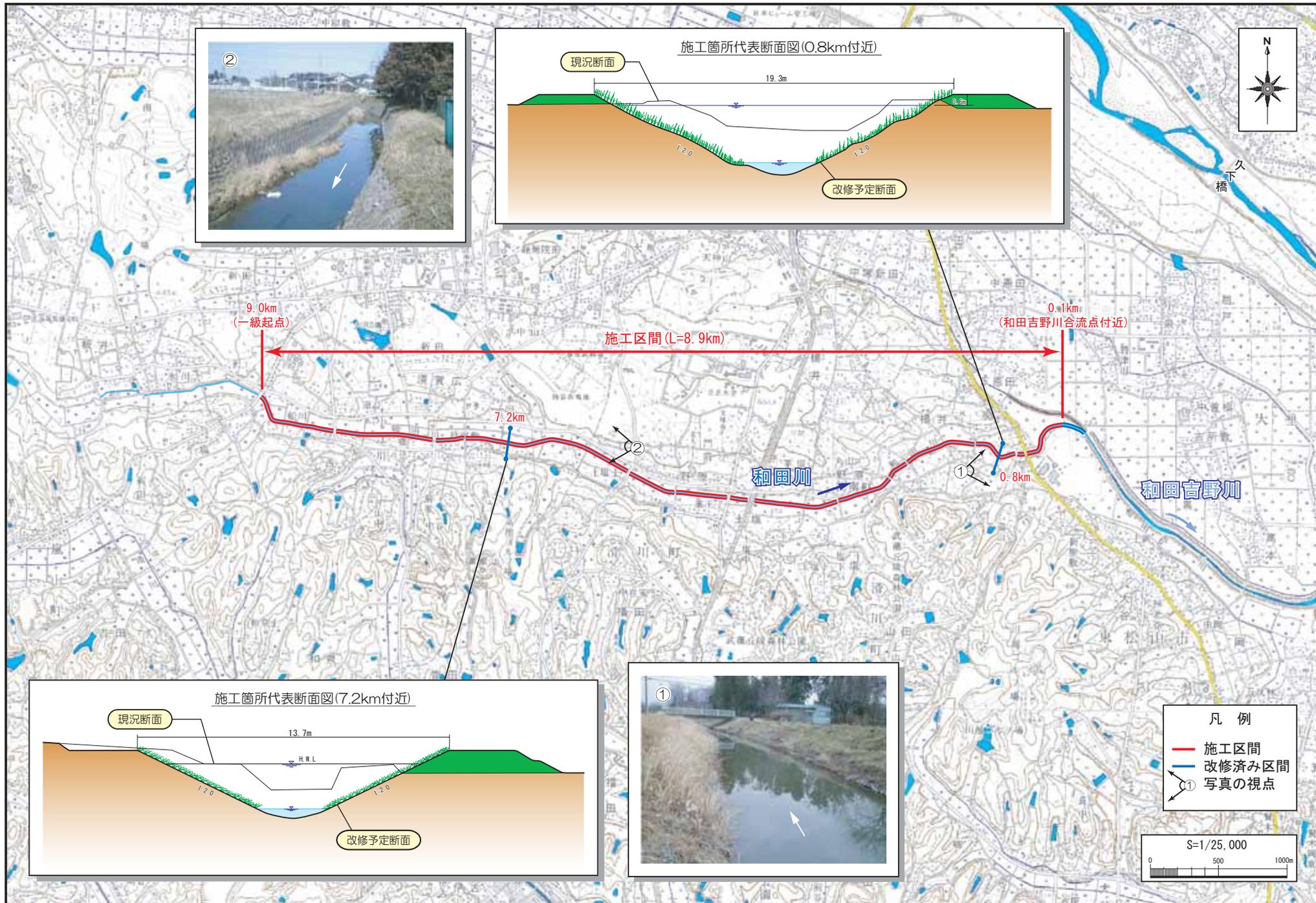
- ・和田川では、以下の区間で河道改修を行い、治水目標となる時間雨量50mm程度の降雨に対して浸水被害が生じないようにします。
 - ・0.1~9.0km（一級河川上流端）
 - ・流下能力の足りない区間：河道拡幅、築堤

整備にあたっての配慮事項

- ・河道内の瀬・淵の創出に努めます。
- ・生態系に配慮した多自然型川づくりを行います。
 - ・河道の掘削においては、動植物の生息状況の把握と、従来からの環境を極力復元するなどの対策に努めます。
 - ・現地発生土砂・木杭など、自然の材料を用いて多様な水辺の創出に努めます。
- ・堰及び落差工は、魚類等の移動を妨げないように配慮します。

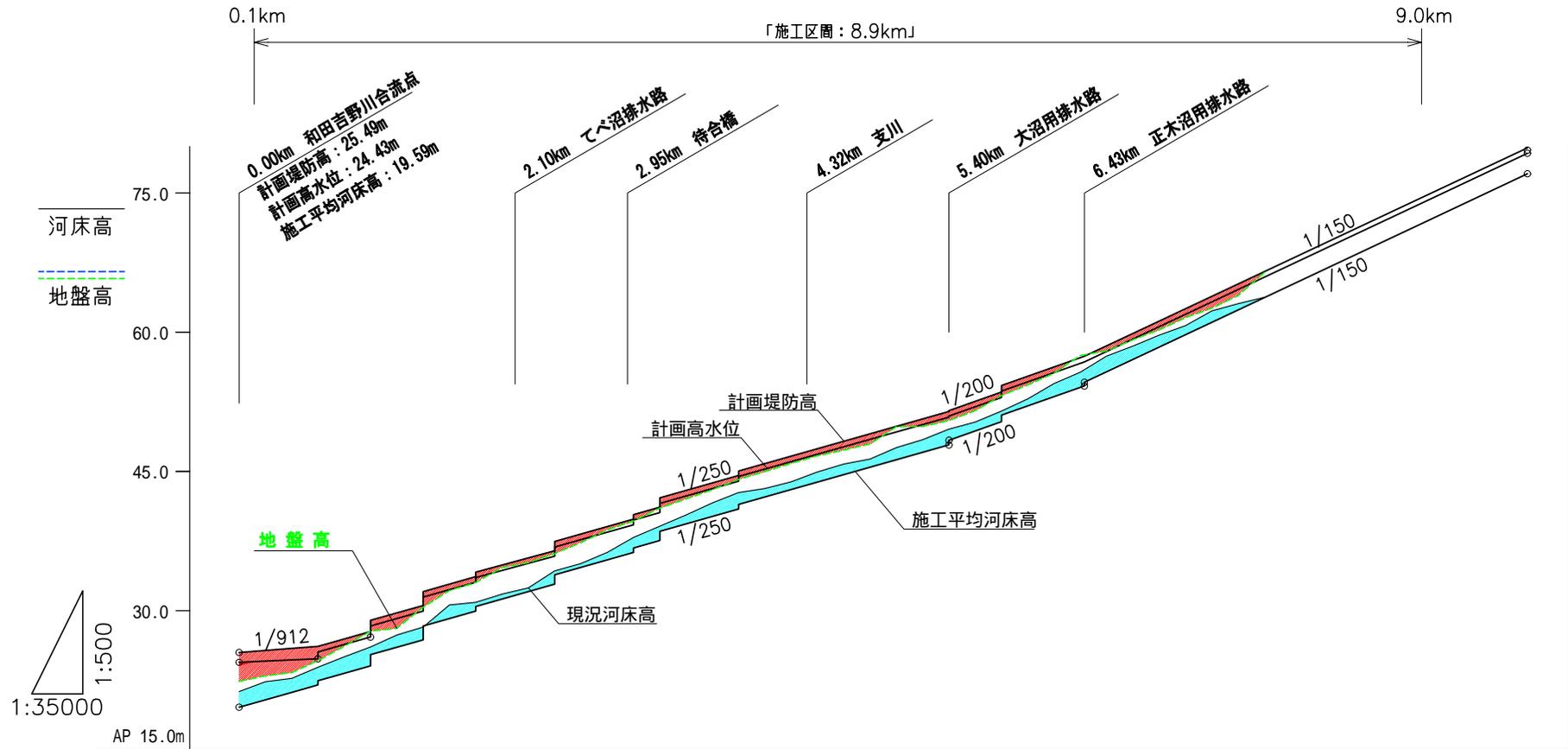
流量配分図





和田川整備平面図 S=1/25,000

和田川縦断面図



測点	施工平均河床高	計画高水位	計画堤防高
0.0 K	19.592	24.429	25.494
0.4 K	21.192	24.492	25.933
0.6 K	21.192	24.814	26.152
1.0 K	24.052	27.152	28.952
1.4 K	26.852	29.952	30.552
1.8 K	28.352	31.452	32.052
	29.952	33.052	33.652
	30.452	33.552	34.152
2.4 K	32.852	35.852	36.452
	33.852	36.852	37.452
3.0 K	36.252	39.252	39.852
3.2 K	37.752	40.752	41.152
	38.552	41.552	42.152
3.8 K	40.952	43.952	44.552
	41.452	44.452	45.052
5.0 K	46.252	49.252	49.852
5.4 K	47.852	50.852	51.452
	48.352	50.952	51.552
5.6 K	50.952	52.952	53.662
	51.052	53.652	54.252
6.43K	54.202	56.802	57.402
	54.602		
7.0 K	58.402	60.602	61.202
8.0 K	65.069	67.269	67.869
9.0 K	71.735	73.935	74.535
9.8 K	77.069	60.602	79.869